

総合計画策定の基礎資料
市民意識調査報告書
【資料編】

令和4年5月

苫小牧市総合政策部政策推進室政策推進課

目次

1 調査の概要	1
2 結果報告書【資料編】について	2
3 調査結果	
(1) 回答者属性	
ア 性別	3
イ 満年齢	4
ウ 職業	5
エ 世帯人数	6
オ 世帯構成	7
カ 住まいの種別	8
キ 居住年数	9
ク 通勤・通学地	10
ケ 居住地域	11
(2) 住み心地と定住意向について	
ア 住み心地	12
イ 定住意向	13
ウ 住み続けたい理由	14
エ 市外に移りたい理由	16
オ 前回調査との比較	18
(3) 施策の満足度と今後の重要度について	
ア 暮らし・環境	20
イ 福祉・保健・医療	22
ウ 教育・文化	23
エ 都市基盤	24
オ 産業	25
カ 市政運営	26
キ 満足度・重要度分析	27
(4) 地域活動について	
ア 地域活動への関心度	32
イ 現在参加している地域活動の有無	33
ウ 現在参加している地域活動の内容	33
エ 今後（も）参加したい地域活動の内容	35
(5) 市民・企業・行政が連携・協力して進めることが必要な事項	36
(6) 苫小牧市と周辺自治体とで連携・協力が必要な事項	38

(7) 人口減少について	
ア 人口減少の実感	39
イ 人口減少による影響	39
ウ 人口減少に対する施策のあり方	41
エ 人口増加対策の重点施策	42
(8) 防災について	
ア 胆振東部地震や東日本大震災の発生による、防災対策への関心度の変化	44
イ ご自身で取り組みが必要と感じる防災対策	44
ウ 実際に取り組んだ防災対策	46
(9) 対応が必要だと思う社会問題（社会現象）について	48
(10) 北洋大学（旧苫小牧駒澤大学）について	
ア 北洋大学のイメージ	50
イ 北洋大学が実施している生涯学習活動や地域連携活動の認知度	52
ウ 北洋大学に期待すること	53
(11) 大切にしたい苫小牧市の個性・魅力	
ア 本市の個性	54
イ 前回調査との比較	55
(12) 苫小牧市の将来都市イメージ、これからのまちづくりや市政の課題	
ア 苫小牧市の将来都市イメージ	56
イ これからのまちづくりや市政の課題	58
ウ 前回調査との比較	60
(13) とまチョップポイントと買い物環境について	
ア とまチョップポイントカードを利用しているか	61
イ とまチョップポイントカードの印象	62
ウ とまチョップポイントカードを持っていない理由	63
エ 買い物環境について	64
(14) 地球温暖化について	
ア 地球温暖化の深刻度	65
イ 地球温暖化を学ぶ場	67
(15) 新型コロナウイルス感染症の影響について	
ア 新型コロナウイルス感染症の影響	68
イ 必要だと思う対策	71
ウ アフターコロナのまちづくり	72
エ アフターコロナのイベント等の開催	74

1 調査の概要

(1) 目的

このアンケート調査は、令和5年度からの新しい総合計画（第7次基本計画）の策定に向けて、今後のまちづくりの方向性や具体的な施策の検討に参考とするために実施した。

(2) 調査対象

苫小牧市在住の18歳以上の男女2,000人（住基情報から無作為抽出）

(3) 調査項目

問 1 性別	問22 胆振東部地震や東日本大震災の発生による、防災対策への関心度の変化
問 2 年齢（満年齢）	問23 ①必要だと感じる防災準備
問 3 職業	②実際に取り組んだ防災対策
問 4 世帯人数	問24 対応が必要だと感じる社会問題（社会現象）
問 5 世帯構成	問25 北洋大学（旧苫小牧駒澤大学）のイメージ
問 6 住まいの種別	問26 北洋大学が実施している生涯学習活動や地域連携活動の認知度
問 7 苫小牧市での通算居住年数	問27 北洋大学への期待
問 8 勤務地・通学地	問28 大切にしたい苫小牧市の個性、魅力
問 9 居住地域	問39 将来の苫小牧市の都市イメージ
問10 苫小牧市の住み心地	問30 これからの苫小牧市のまちづくりや市政の課題
問11 苫小牧市での定住意向	問31 とまチョップポイントカードの利用の有無
問12 住み続けたい理由	問32 とまチョップポイントカードの印象
問13 市外に移りたい理由	問33 とまチョップポイントカードを使っていない理由
問14 まちづくりの満足度と重要度	問34 買い物環境
①くらし・環境	問35 地球温暖化問題の深刻度
②福祉・保健・医療	問36 地球温暖化問題や脱炭素を学ぶ場として、参加したいもの
③教育・文化	問37 新型コロナウイルス感染症の影響
④都市基盤	①収入について
⑤産業	②支出について
⑥市政運営	③仕事について
問15 ①地域活動への関心度	④生活について
②参加している地域活動の有無	⑤健康について
③現在参加している地域活動	問38 新型コロナウイルス感染症の影響に対し、特に必要な対策
④今後参加してみたい地域活動	問39 アフターコロナのまちづくり
問16 市民（市民団体）と企業、行政が連携・協力して進めることが必要な事項	問40 アフターコロナでのイベント開催
問17 苫小牧市と周辺自治体が連携・協力して進めることが必要な事項	
問18 人口減少の実感	
問19 人口が減少することでの影響	
問20 人口減少に対する施策	
問21 人口増加に向けた重点施策	

(4) 調査方法

- 郵送調査法（調査票の郵送配布・郵送回収）
- 自記式（対象者自身による記入）またはW e b 回答

(5) 調査時期

- 令和3年12月24日～令和4年1月31日

(6) 回収率

- 配布数 2,000 件（内、居所不明による返戻3件）
- 有効回収数 723 件（郵送回答558件、W e b 回答165件）
- 回収率 36.1 %

(7) 留意事項

- 無回答は、集計母数から除外している。
- 本文中の表における比率は、少数点第2位を四捨五入したため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。

【語句の補足】

- N : Number (ナンバー) の略。サンプル数を表す。
N=100 の場合、サンプル数が100 件となる。

2 調査結果【資料編】について

この報告書は、苫小牧市総合計画第7次基本計画策定のために実施した、市民意識調査の結果について、「性別」「居住地」「居住年数」の属性別に集計・グラフ化したものをまとめた資料となっている。

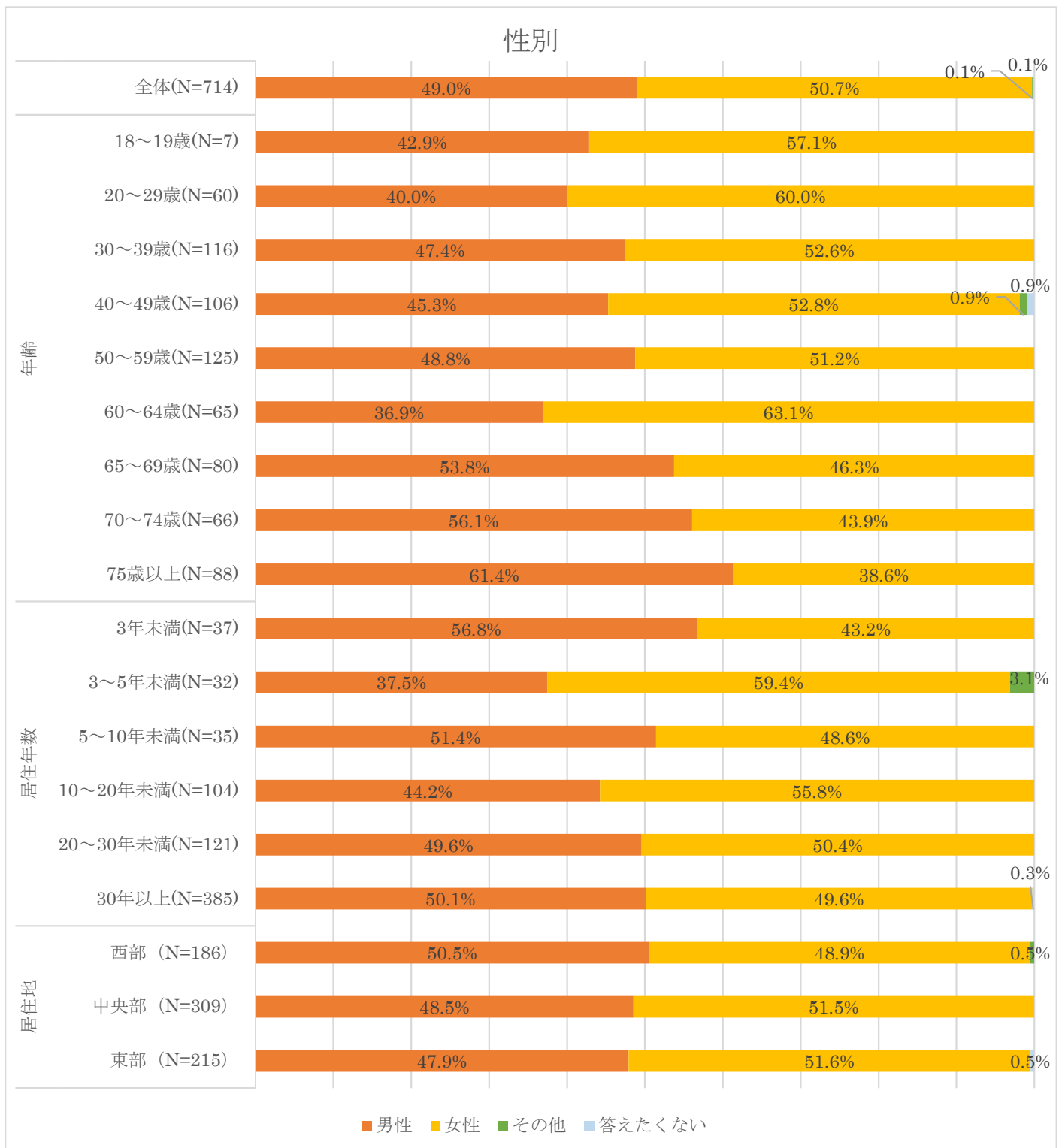
なお、属性での分けを行わない全体での集計結果のみについては、「総合計画策定の基礎資料 市民意識調査結果報告書」でまとめている。

3 調査結果

(1) 回答者属性

ア 性別について

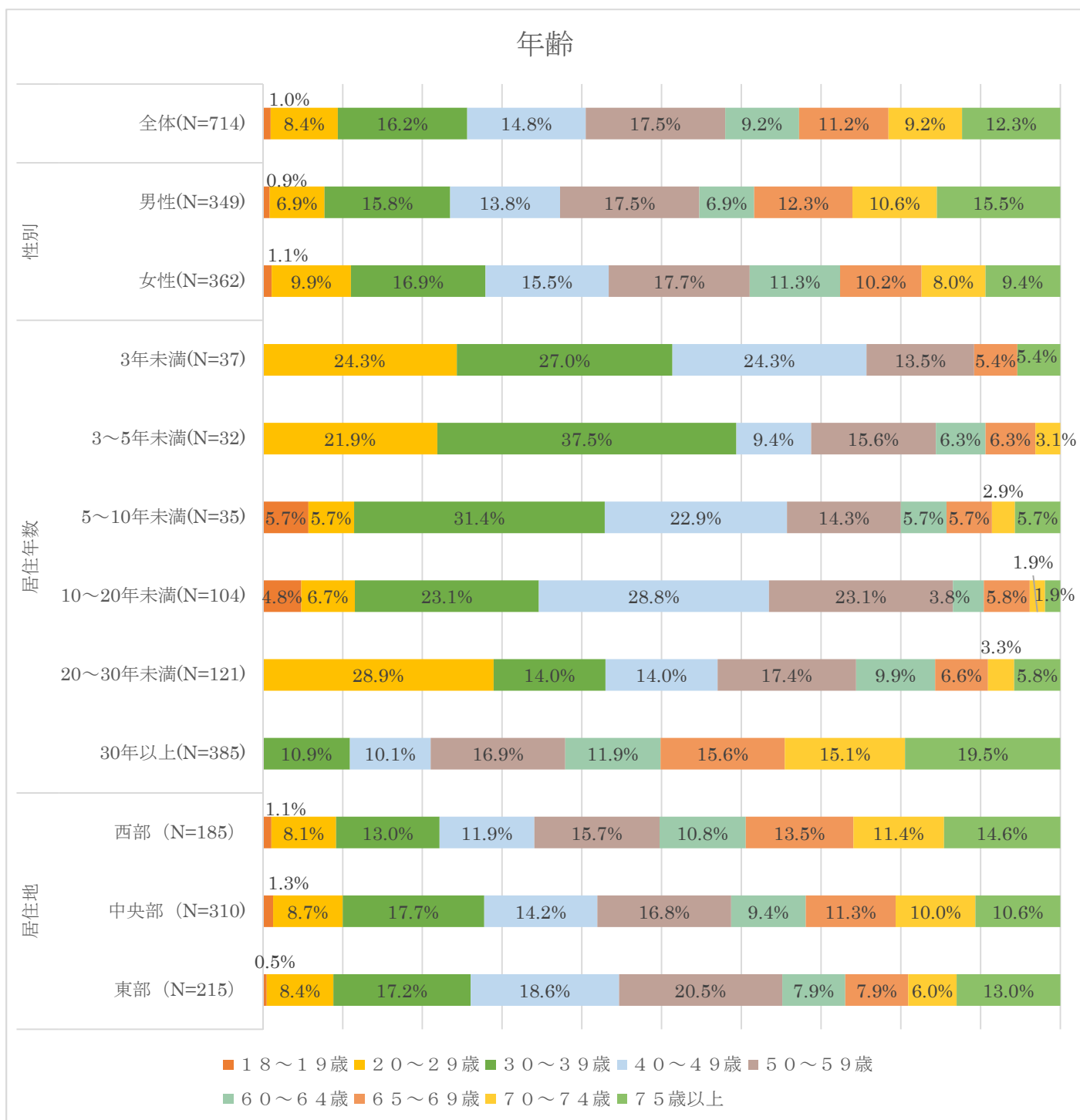
全体では、男性が49.0%、女性が50.7%、その他・答えたくないが0.1%ずつとなっている。



※なお、性別を「その他」「答えたくない」と答えた件数はそれぞれ1件ずつであり、属性別でのグラフを作成しても、個人の意見として反映されてしまい比較対象にはそぐわないと判断する。したがって、これより先に記載するグラフについて、「その他」「答えたくない」でのグラフは作成せず、性別により比較するものは「男性」「女性」のみとする。

イ 満年齢

全体として、50～59歳の回答割合が最も高く17.5%となっており、次いで30～39歳（16.2%）となっている。また、属性別では居住年数3～5年未満で30～39歳の回答割合が高くなっている。

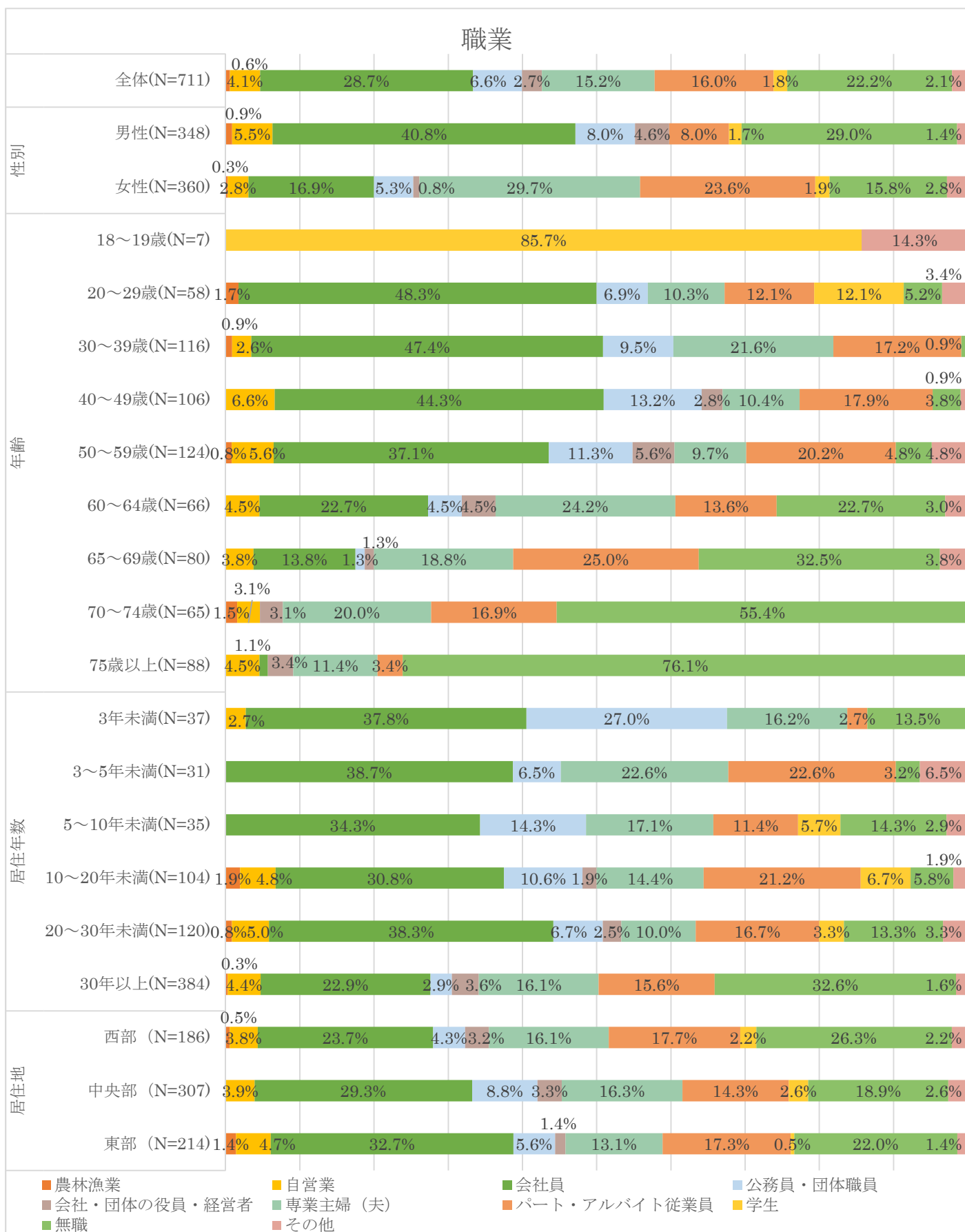


ウ 職業

全体では「会社員」が28.7%で最も高く、次いで「無職」(22.2%)、「パート従業員」(16.0%)となっている。

男女別では、男性の4割が「会社員」、女性の3割が「専業主婦」となっている。

年齢別では、59歳以下で「会社員」の割合が高く、65歳以上では「無職」の割合が高くなる。



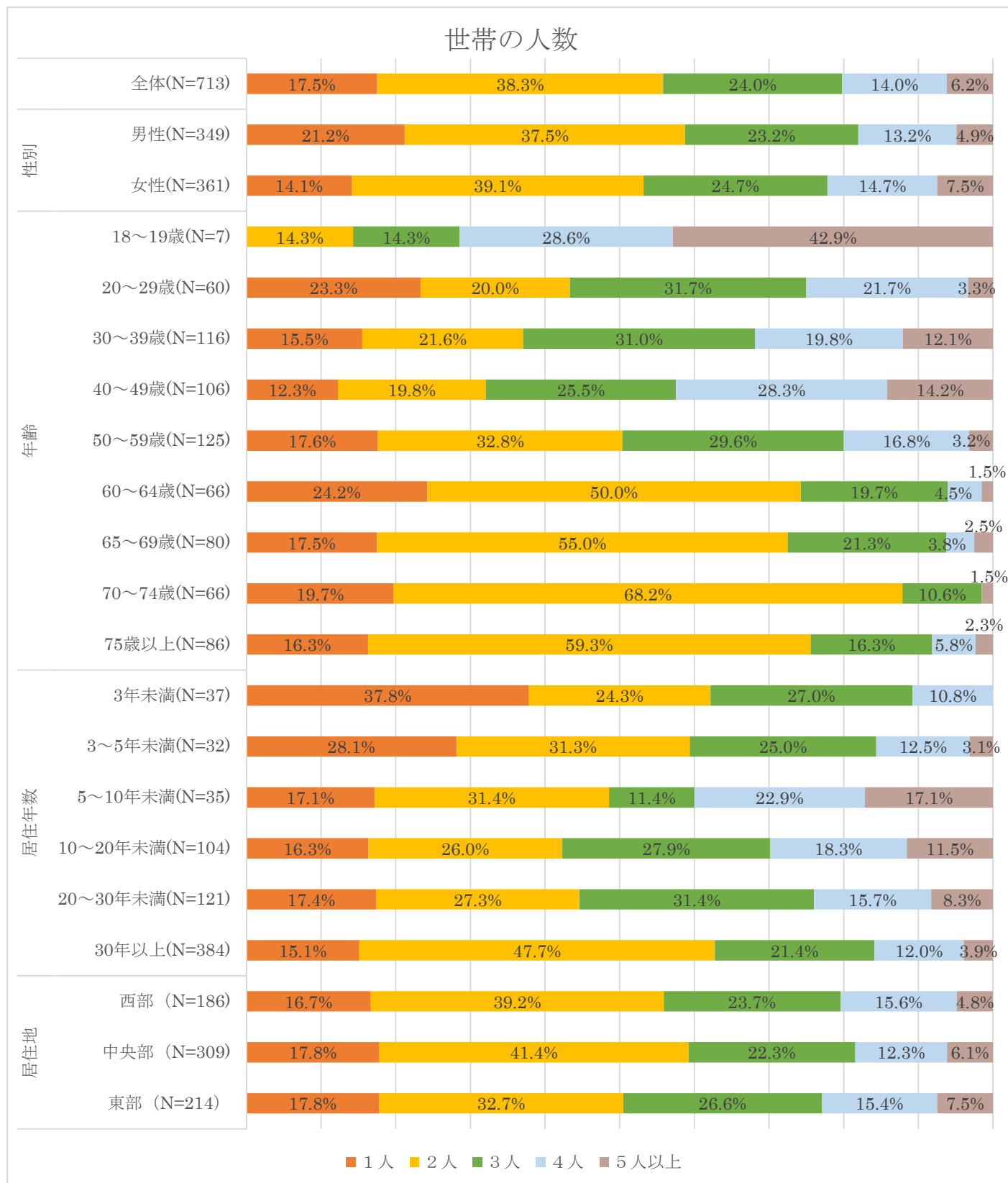
その他の回答

- ・看護師 ・病気治療中 ・介護職員 ・自営業手伝い ・看護師 ・飲食店 ・契約社員
- ・施設 日中活動 ・自営業専従者 ・派遣 ・生活保護

エ 世帯人数

全体では「2人」が38.3%で最も高く、次いで「3人」(24.0%)、「単身」(17.5%)となっている。

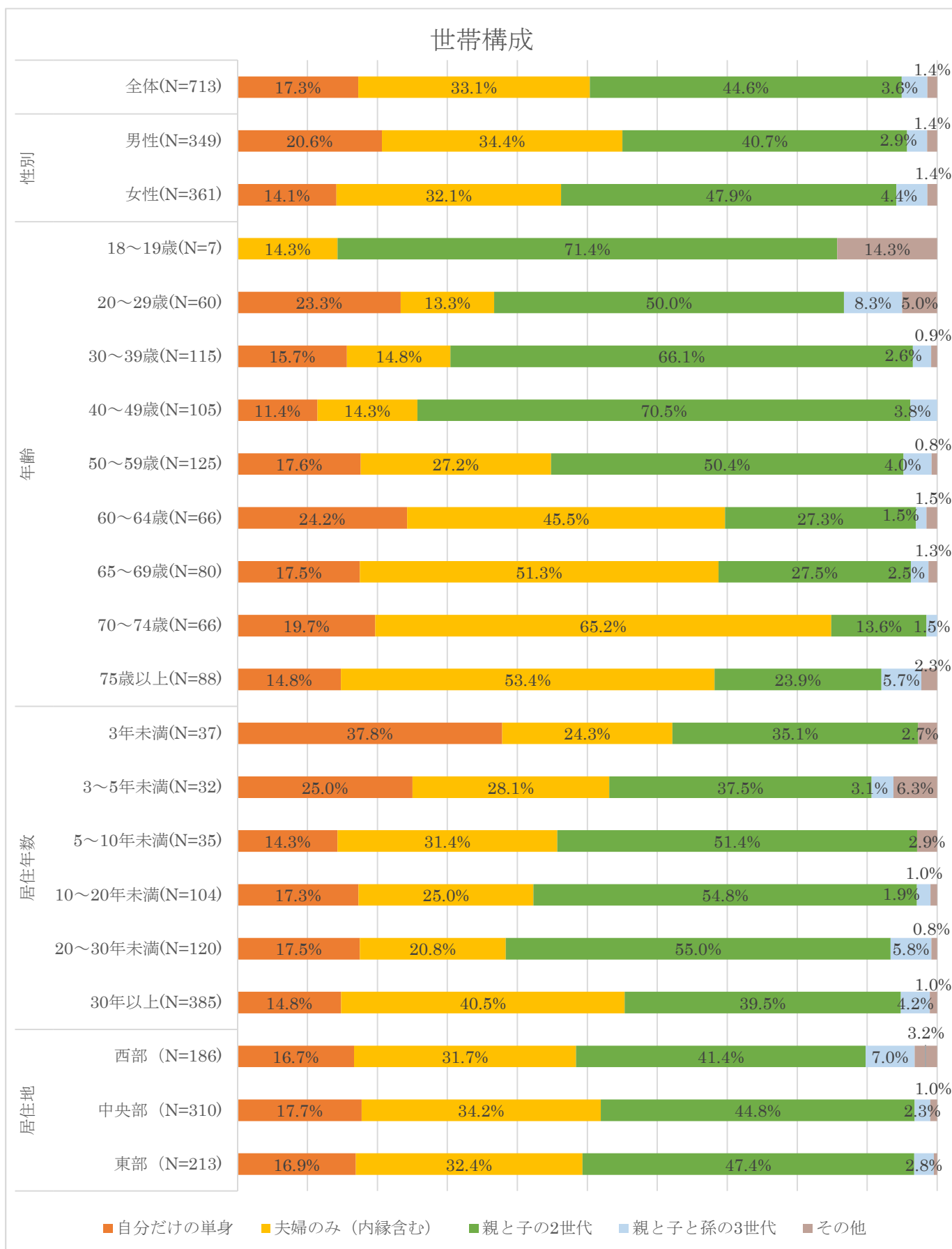
属性別にみると、年齢「60歳以上」、居住年数「30年以上」で「2人」の割合が高く、居住年数「3年未満」で「1人」の割合が高くなっている。



オ 世帯構成

全体では、「親と子の2世代」が44.6%で最も高く、次いで「夫婦のみ」(33.1%)、「自分だけの単身」(17.3%)となっている。

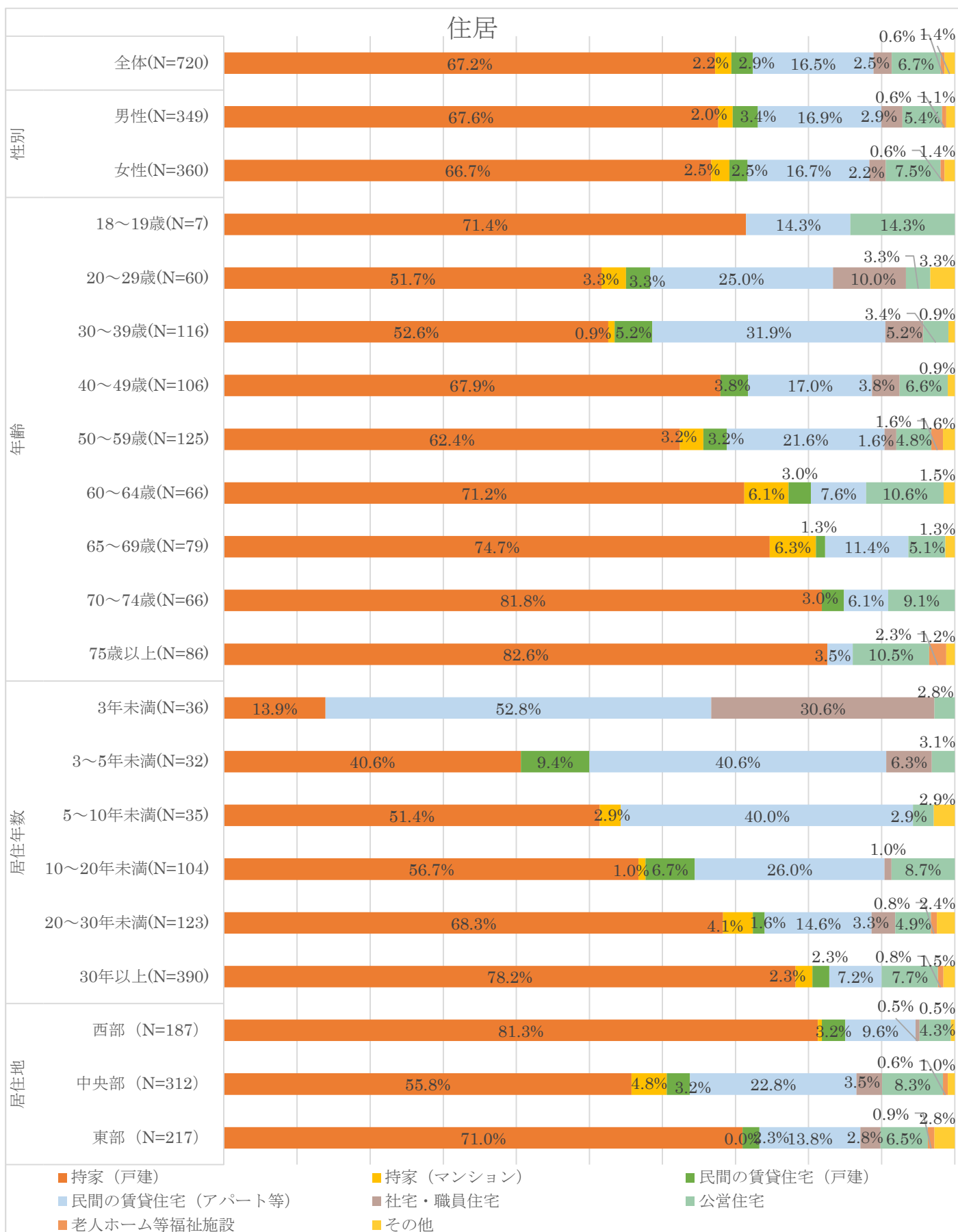
属性別にみると、年齢別では、「49歳以下」で「親と子の2世代」の割合が高く、「60歳以上」で「夫婦のみ」の割合が高い。



カ 住まいの種別

全体では「持家（戸建）」が67.2%で最も高く、次いで「民間の賃貸住宅（アパート等）」（16.5%）となっている。

属性別にみると、居住年数が「3年未満」以外のすべてで「持家（戸建）」が最も高くなっている。居住年数「3年未満」については、「民間の賃貸住宅（アパート等）」が最も高くなっている。



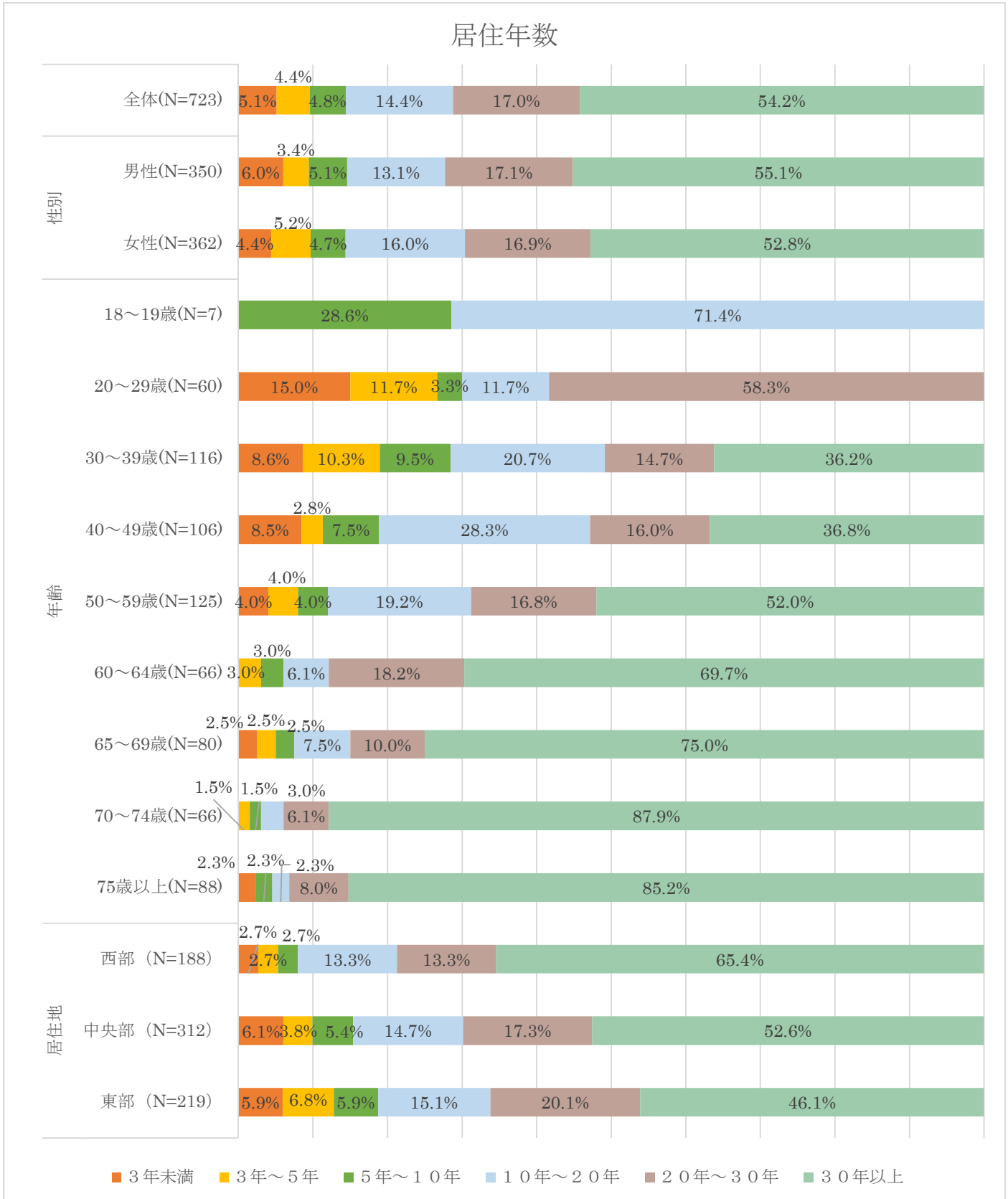
その他の主な回答

・親族の持家 ・寮 ・知人宅 など

キ 居住年数

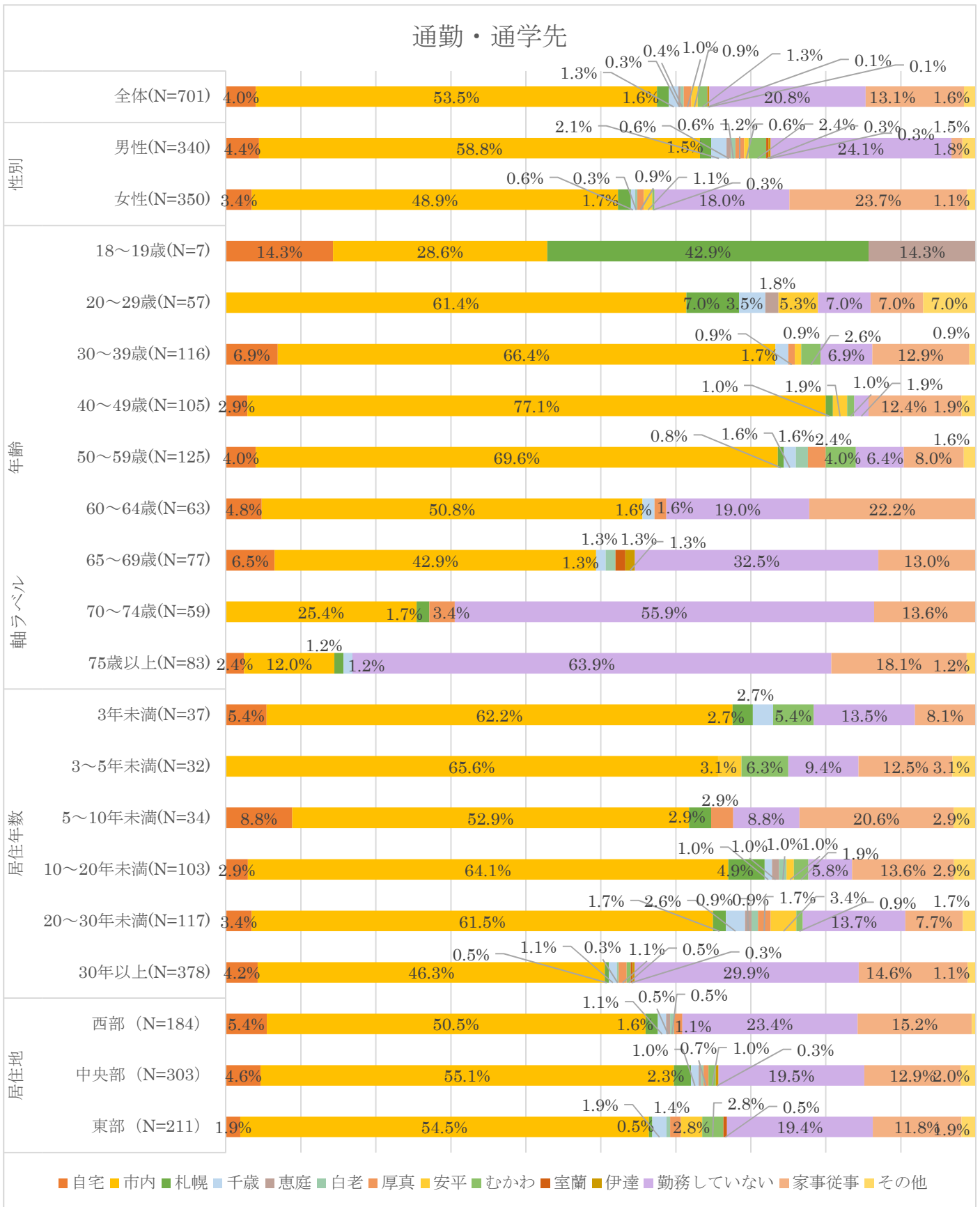
全体では、「30年以上」が54.2%で最も高く、次いで「20～30年未満」(17.0%)、「10～20年未満」(14.4%)となっている。

属性別にみると、年齢別では、高い年齢層ほど居住年数も長くなっている。また、居住地別では、「西部」が最も居住年数が長く、東に行くほど居住年数が短くなっている。



ク 通勤・通学地

全体では、「市内」が53.5%と大半を占める一方で5.4%が市外に通勤・通学している。
 属性別にみると、「18～19歳」において「札幌市」と「恵庭市」の割合が高くなっている。

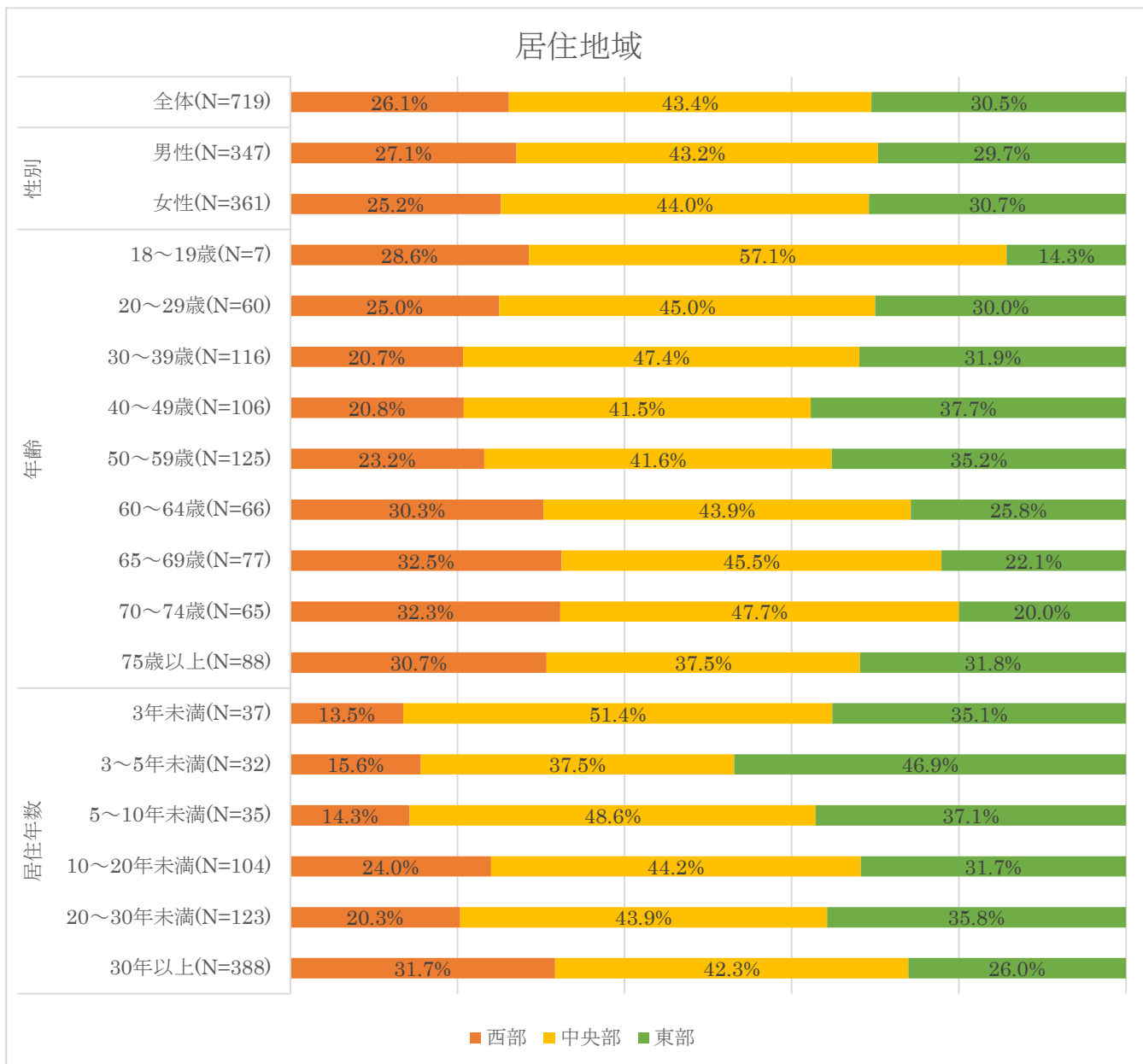


その他回答

・北広島市 ・新冠町 ・夕張市 ・道外 など

ケ 居住地域

全体では、中央部が最も高く43.4%となっている。年齢別では、ほとんどの項目でほぼ均等となっているが、「70～74歳」で「中央部中地域」の割合が、高くなっている。居住年数別では、「3年未満」の層で「中央部」の割合が高く、「西部」の割合が低くなっている。また、「3年～5年未満」の層では、「東部」の割合が高くなっている。



【地域区分】

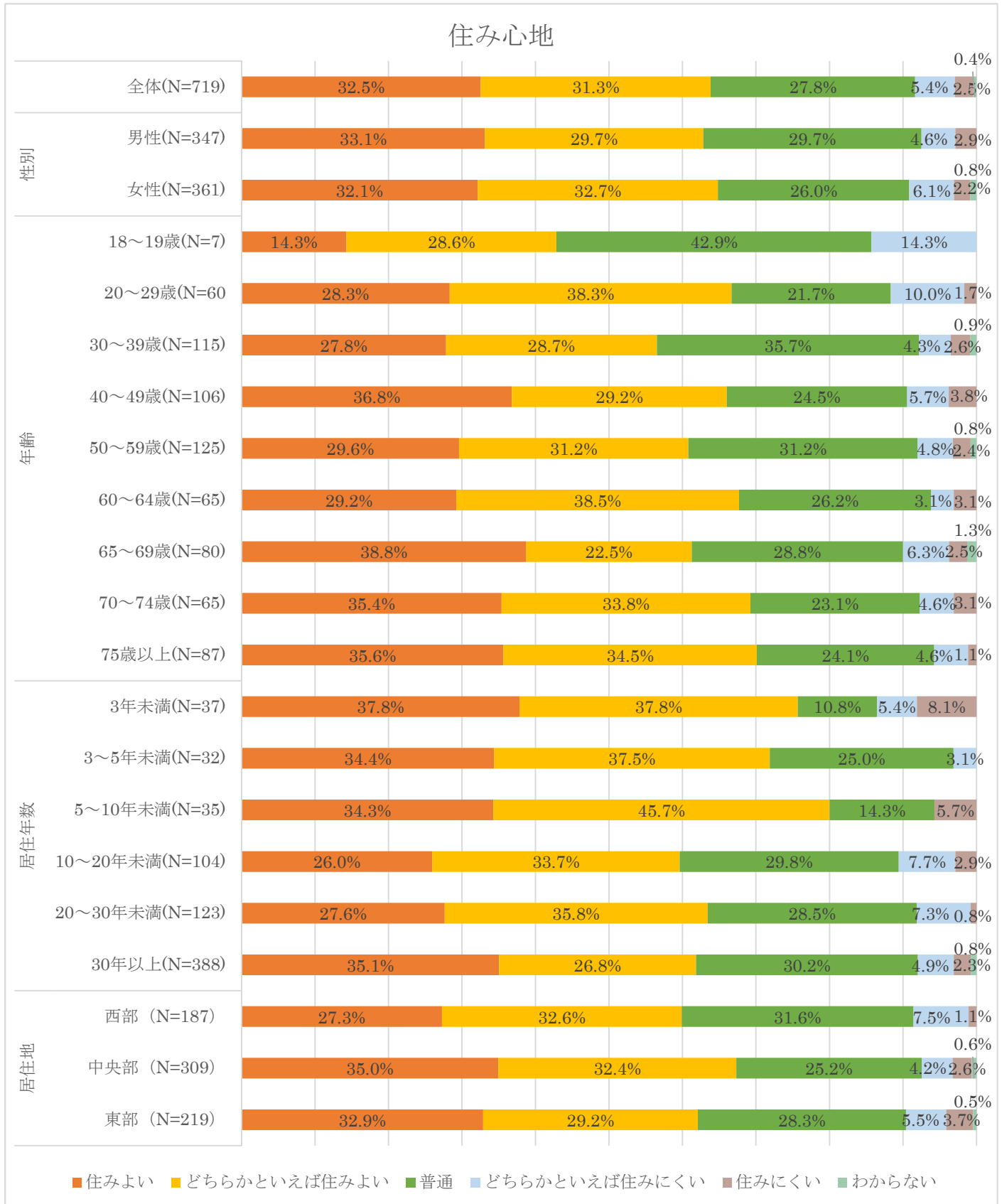
西部	澄川町、ときわ町、美原町、のぞみ町、明德町、宮前町、青雲町、もえぎ町、錦岡、樽前 はまなす町、川沿町、柏木町、小糸井町、しらかば町、日新町、永福町、日吉町、桜木町、光洋町、 豊川町、松風町、有珠の沢町、有明町、桜坂町、宮の森町、糸井
中央部	見山町、啓北町、山手町、花園町、北光町、青葉町、大成町、新富町、元町、白金町、弥生町、矢代町 清水町、高丘、泉町、美園町、住吉町、双葉町、緑町、音羽町、三光町、日の出町、木場町、春日町、 王子町、表町、幸町、本幸町、大町、本町、寿町、栄町、錦町、旭町、末広町、若草町、新中野町、 元中野町、汐見町、港町、浜町、高砂町、船見町、入船町 新明町、明野新町、明野元町、新開町、柳町、晴海町、一本松町、真砂町
東部	あけぼの町、植苗、美沢、拓勇東町、拓勇西町、北栄町、ウトナイ北、ウトナイ南、丸山 沼ノ端中央、勇払、東開町、柏原、沼ノ端、静川、弁天

(2) 住み心地と定住意向について

ア 住み心地

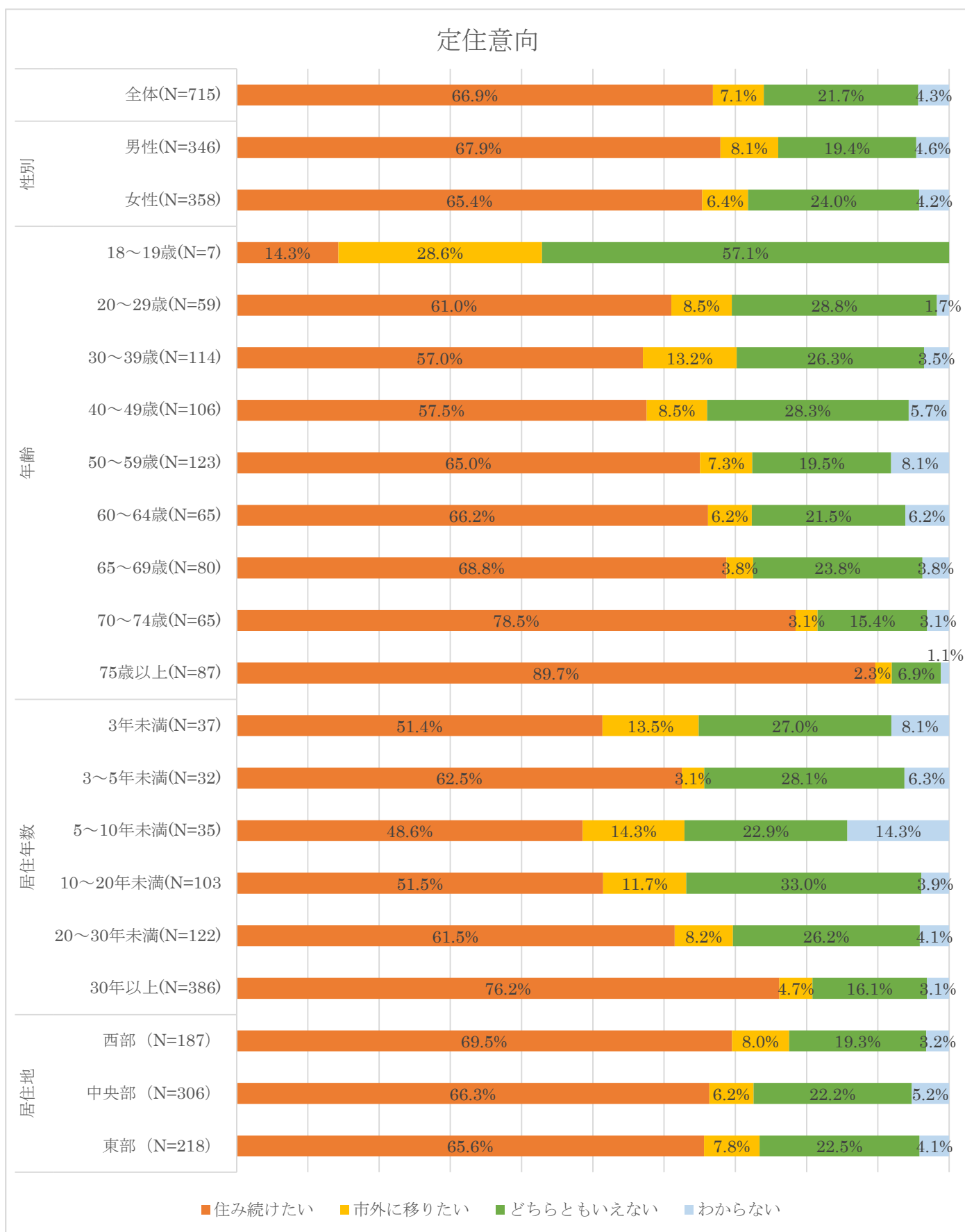
全体としては、「住みよい」(32.5%)、「どちらかといえば住みよい」(31.3%)を合わせて、全体の63.8%となっている。

属性別にみると、年齢別で「18～19歳」「30～39歳」の層で、「どちらかといえば住みにくい」、「住みにくい」とする回答割合が高くなっている。



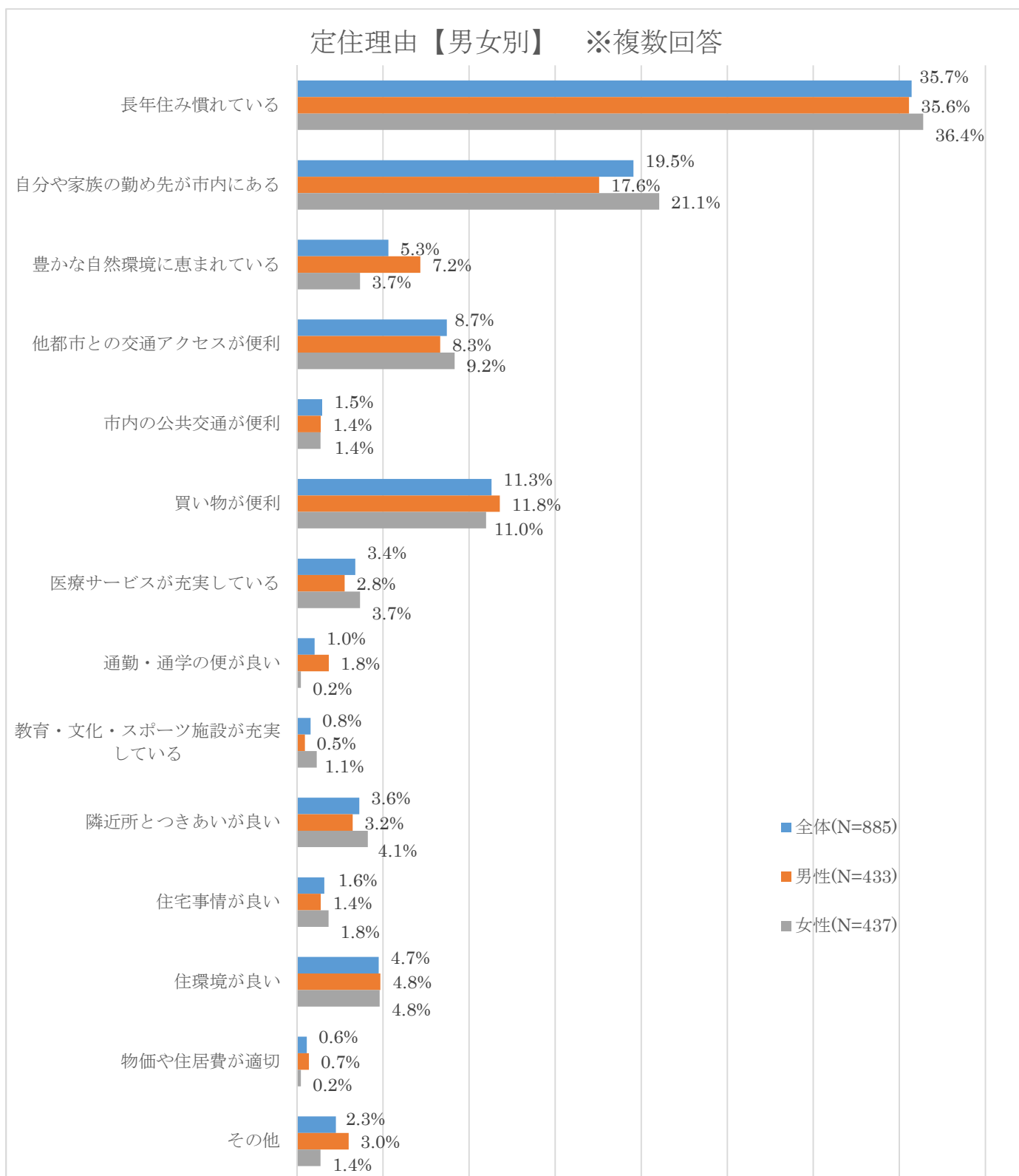
イ 定住意向

全体での定住意向については、「住み続けたい」が66.9%となっており、「市外に移りたい」の7.1%を大きく上回っている。属性別にみると、年齢「18～19歳」の層でのみ「住み続けたい」より「市外に移りたい」の割合が高くなっている。



ウ 住み続けたい理由

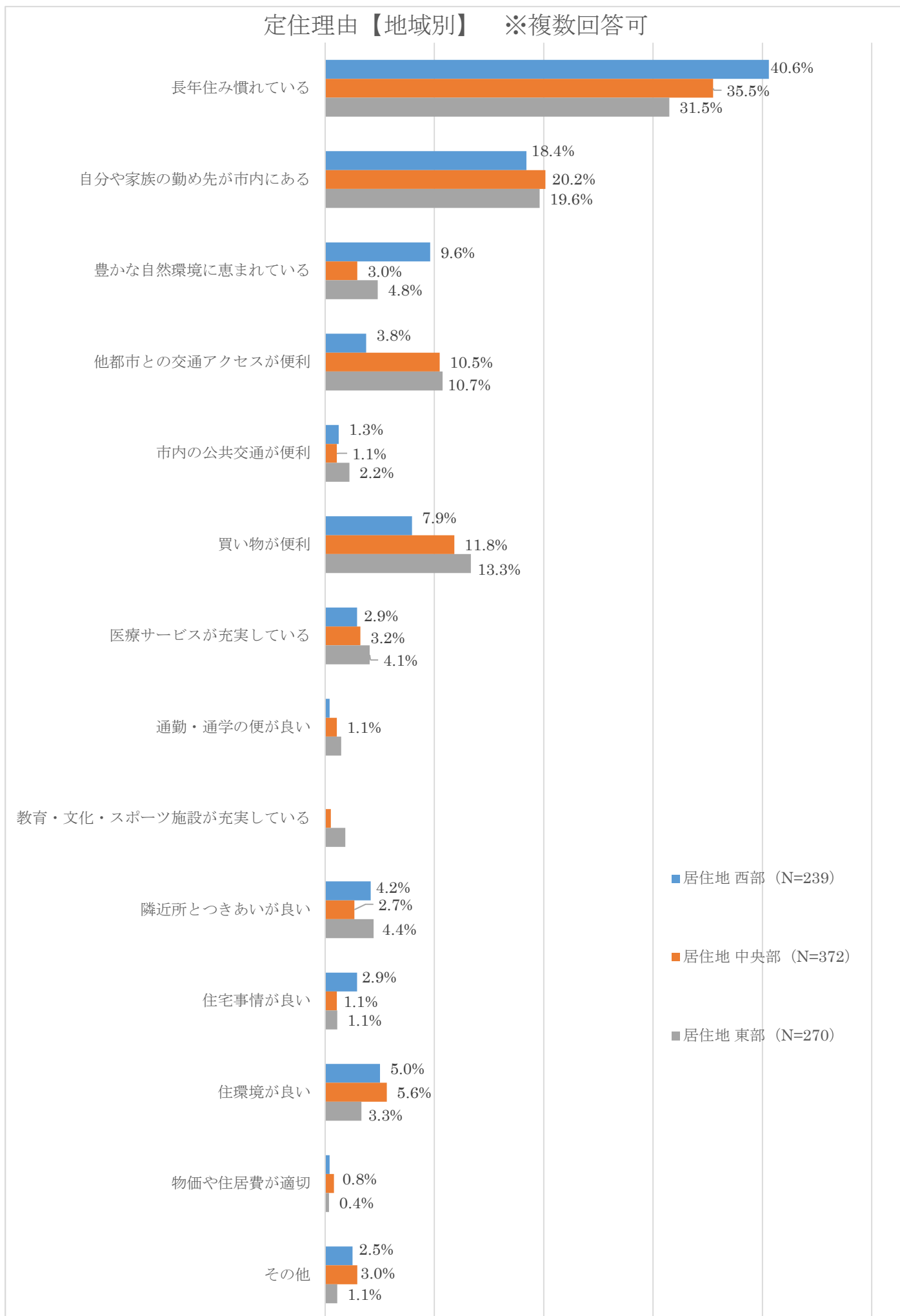
全体では、「長年住みなれている」が35.7%で最も高く、次いで「自分や家族の勤め先が市内にある」(19.5%)となっている。属性別にみても、全体的な傾向と大きくは変わらない。



その他の主な回答

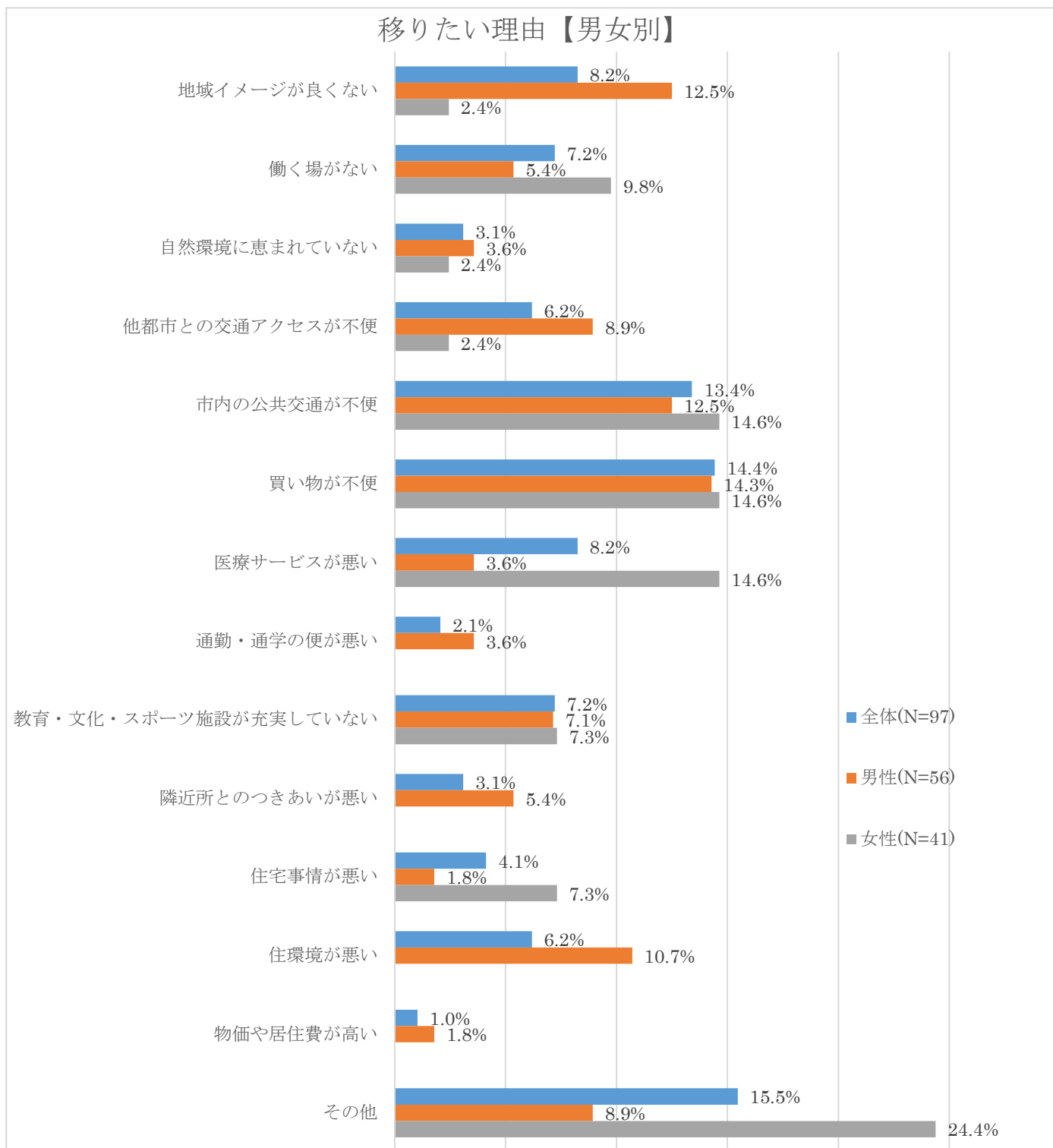
- ・気候がいい ・雪が少ない ・親族が近く（市内）に住んでいる ・レッドイーグルスが好き
- ・ゴルフ場が多い ・人口がちょうどよい（札幌は多すぎる） など

定住理由【地域別】 ※複数回答可



エ 市外に移りたい理由

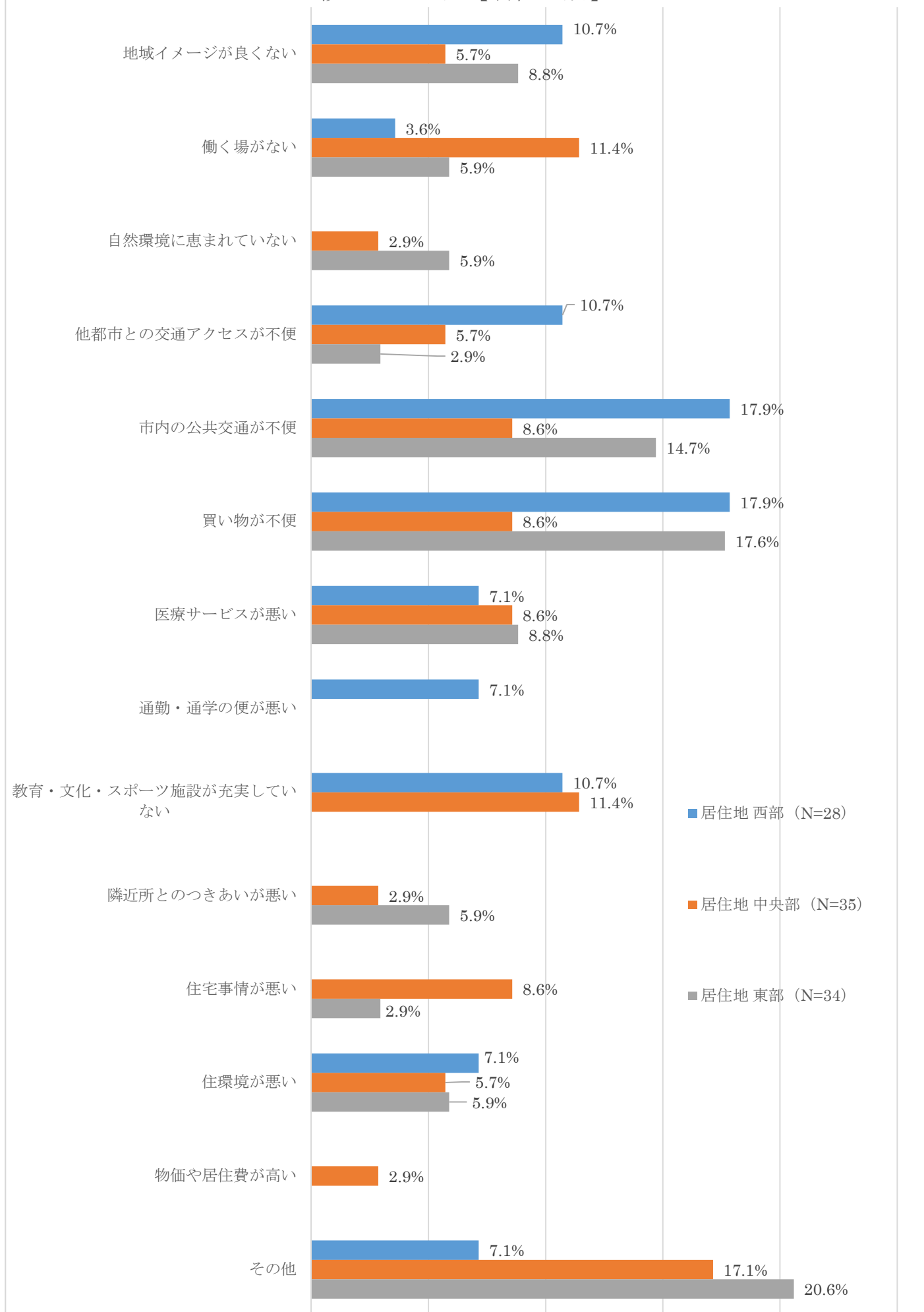
全体として、「買い物が不便」が14.4%で最も高く、次いで「市内の公共交通が不便」(13.4%)、「地域イメージが良くない」(8.2%)の順となっている。男女別では、男性は「買い物が不便」が14.3%で最も高く、次いで「市内の公共交通が不便」(12.5%)、「地域イメージが良くない」(12.5%)となっている。一方、女性は「医療サービスが悪い」「市内の公共交通が不便」「買い物が不便」がいずれも14.6%で最も高くなっている。



その他の主な回答

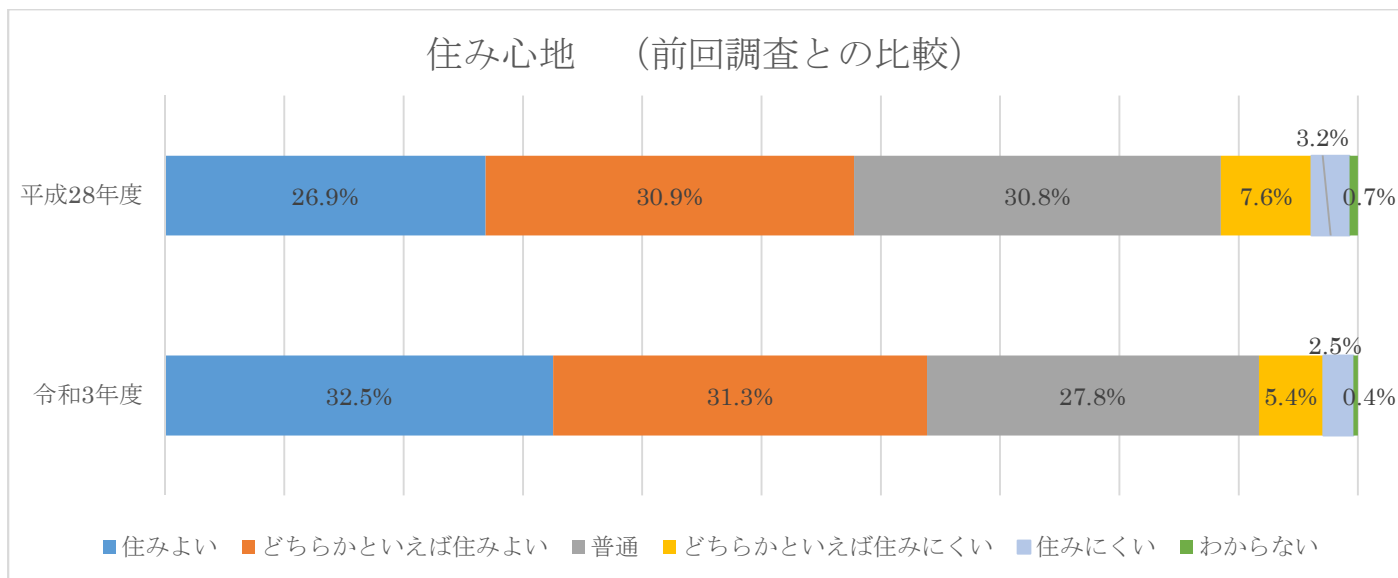
- ・職場が市外 ・親族が市外に住んでいる ・地元に戻りたい ・暖かい所に住みたい ・家族の都合
- ・知人のいないところへ行きたい ・海が近く、火山が近いため心配 ・分娩できる産院が少ない
- ・住んでいて楽しい何かがない など

移りたい理由【居住地別】

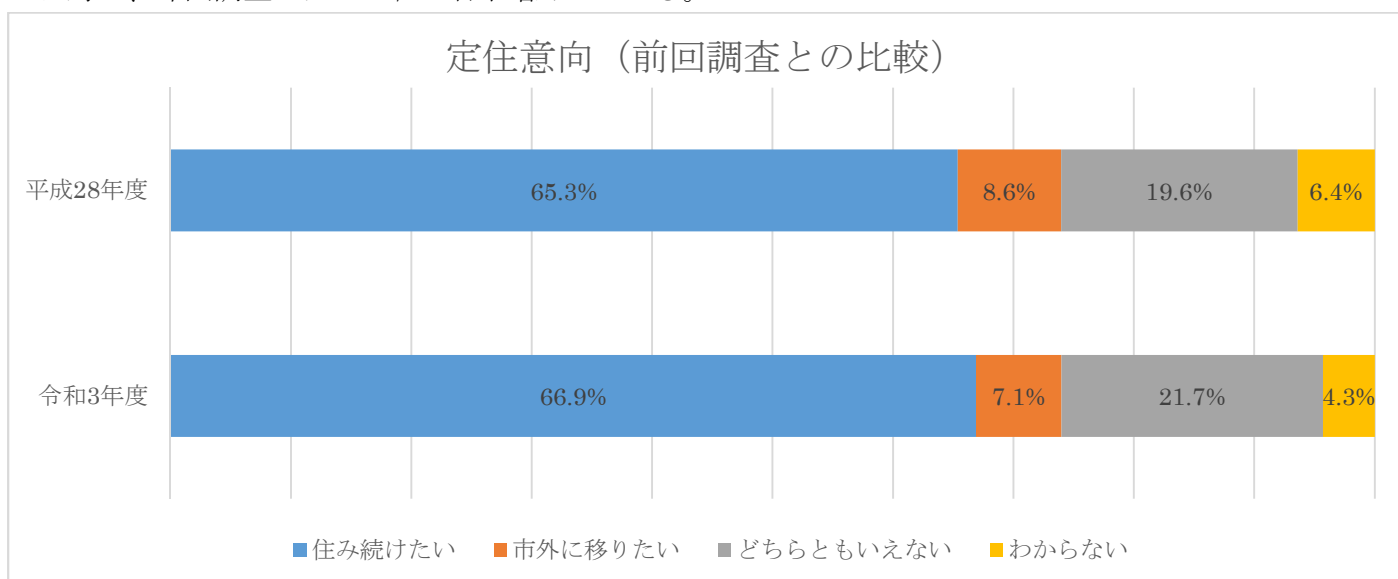


オ 前回の調査結果（平成28年度）との比較

平成28年調査の住み心地では、住みよいと回答（「住みよい」＋「どちらかといえば住みよい」）が57.8%、住みにくいと回答（「住みにくい」＋「どちらかといえば住みにくい」）が10.8%となっているのに対し、今回調査では、それぞれ63.8%、7.9%となり、住み良いと回答が6.0ポイント増加、住みにくいと回答が2.9ポイント減少する結果となっている。

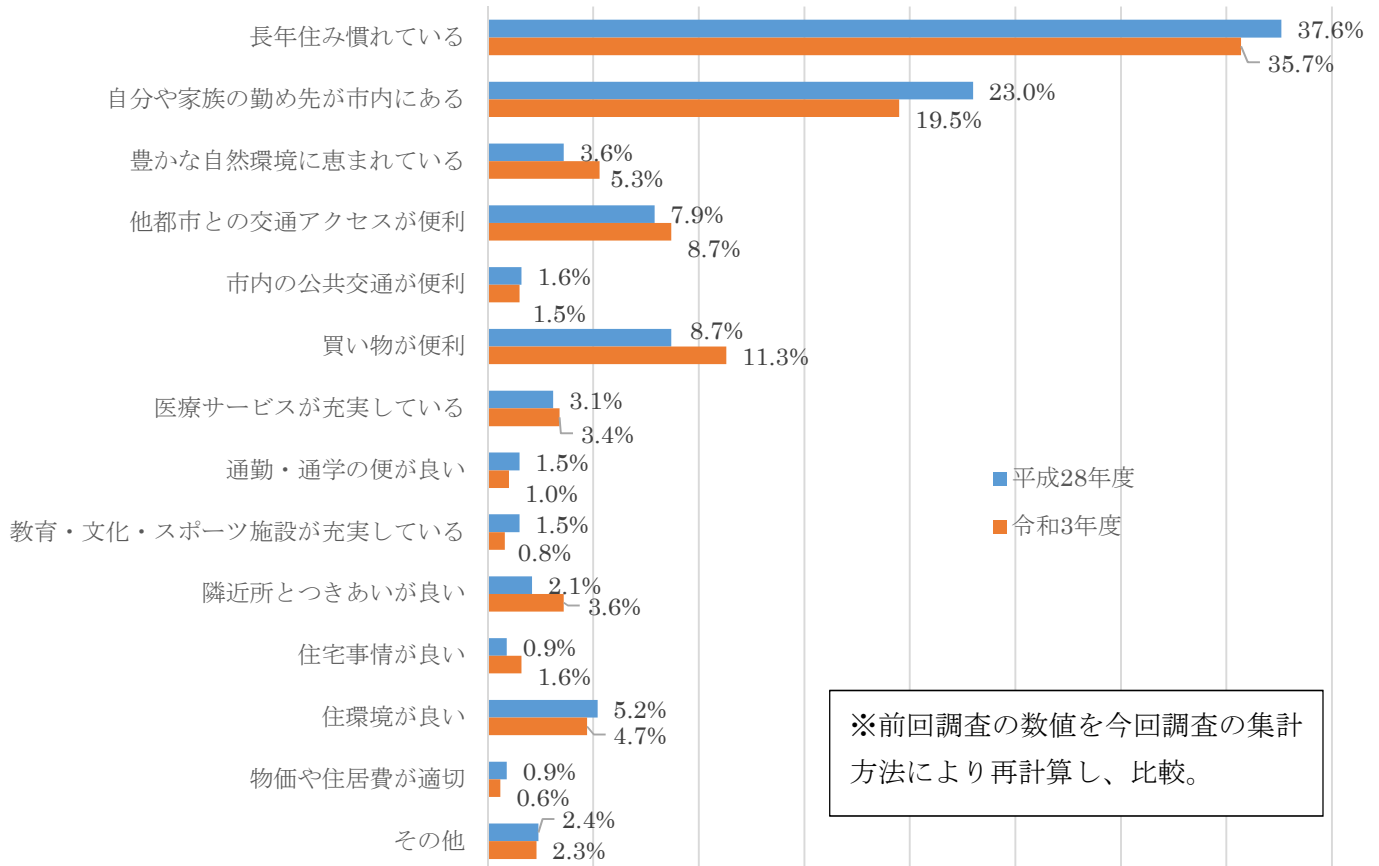


今後の苫小牧市での定住意向については、「住み続けたい」との回答が、前回調査では65.3%であったのに対し、今回調査では66.9%と若干増加している。



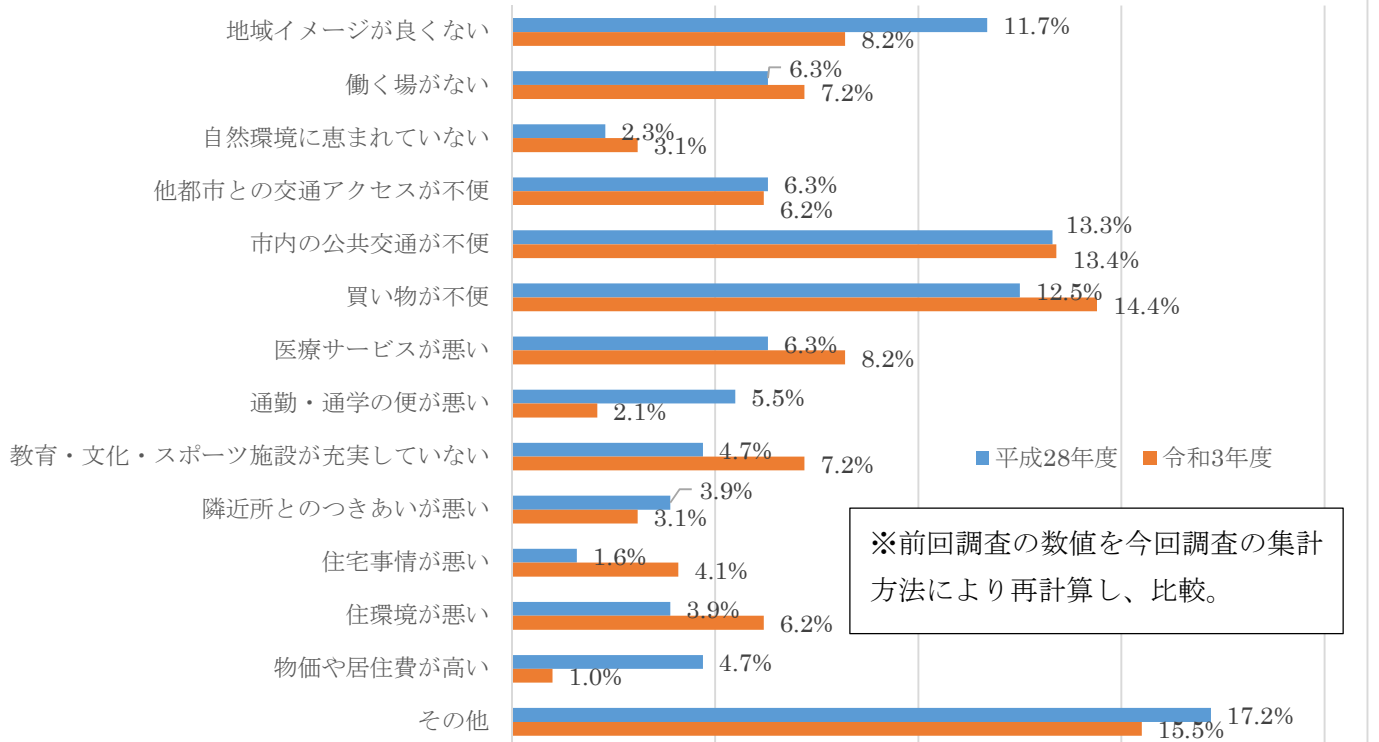
「住み続けたい」と思う理由について比較すると、前回調査、今回調査ともに「長年住みなれている」が最も高くなっており、次いで「自分や家族の勤め先が市内にある」となっている。また、「豊かな自然環境に恵まれている」については1.7ポイント、「買い物が便利」については2.6ポイント、それぞれ前回調査から増加している。

住み続けたい理由（前回調査との比較）



一方、「市外に移りたい」と思う理由について比較すると、前回調査では「市内の公共交通が不便」が最も高く、次いで、「買い物が不便」「地域イメージが良くない」の順となっていたが、今回は「買い物が不便」が最も高く、次いで「市内の公共交通が不便」「地域イメージが良くない」「医療サービスが悪い」となっている。

市外に移りたい理由（前回調査との比較）

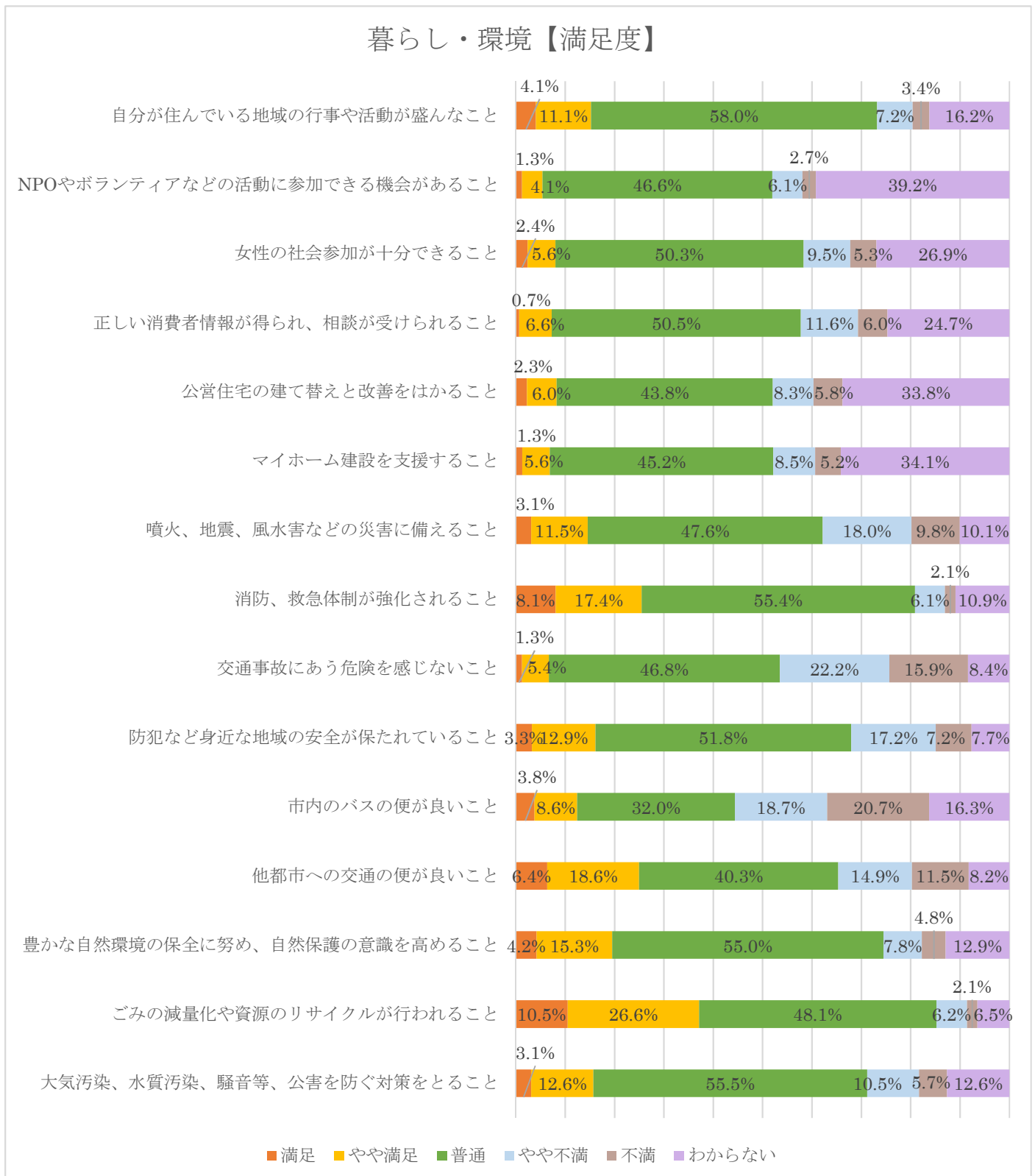


(3) 施策の満足度と今後の重要度について

ア 暮らし・環境

<現状の満足度>

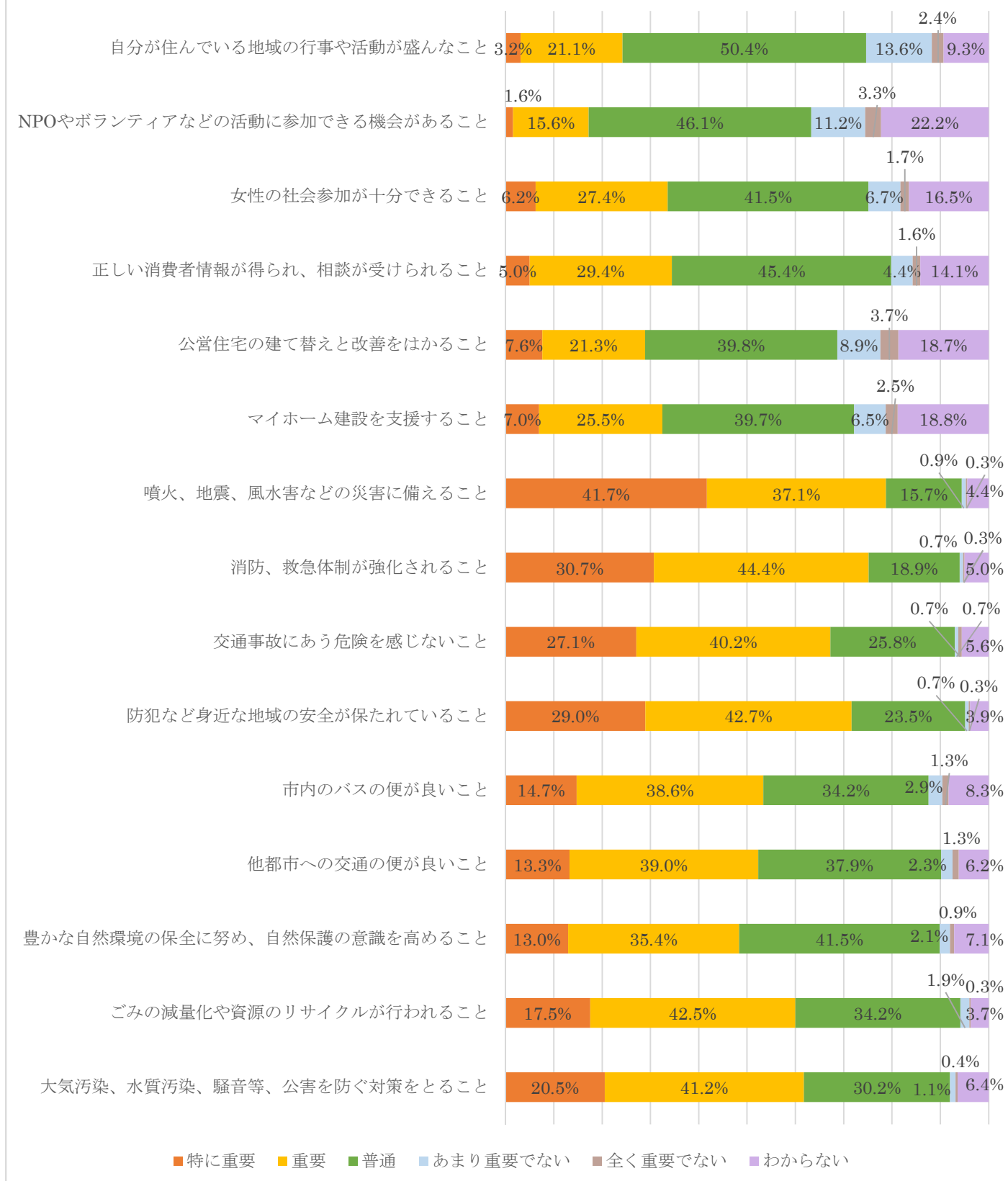
生活環境の現状の満足度について、「普通」との回答割合が比較的高いが、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）と満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合を比較すると、満足よりも不満の割合の方が高いものは、順に「交通事故にあう危険を感じないこと」「市内のバス利用の便がよいこと」「噴火、地震、風水害などの災害に備えること」となっている。一方、満足している割合の方が高いものは、順に「ごみの減量化や資源のリサイクルが行われること」、「消防、救急体制が強化されること」、「豊かな自然環境の保全に努め、自然保護の意識を高めること」となっている。



<今後の重要度>

生活環境の今後の重要度について、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、全ての項目において、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。特にその差が大きい項目は、順に「噴火、地震、風水害などの災害に備えること」、「消防、救急体制が強化されること」、「防犯など身近な地域の安全が保たれていること」、「交通事故にあう危険を感じないこと」となっている。

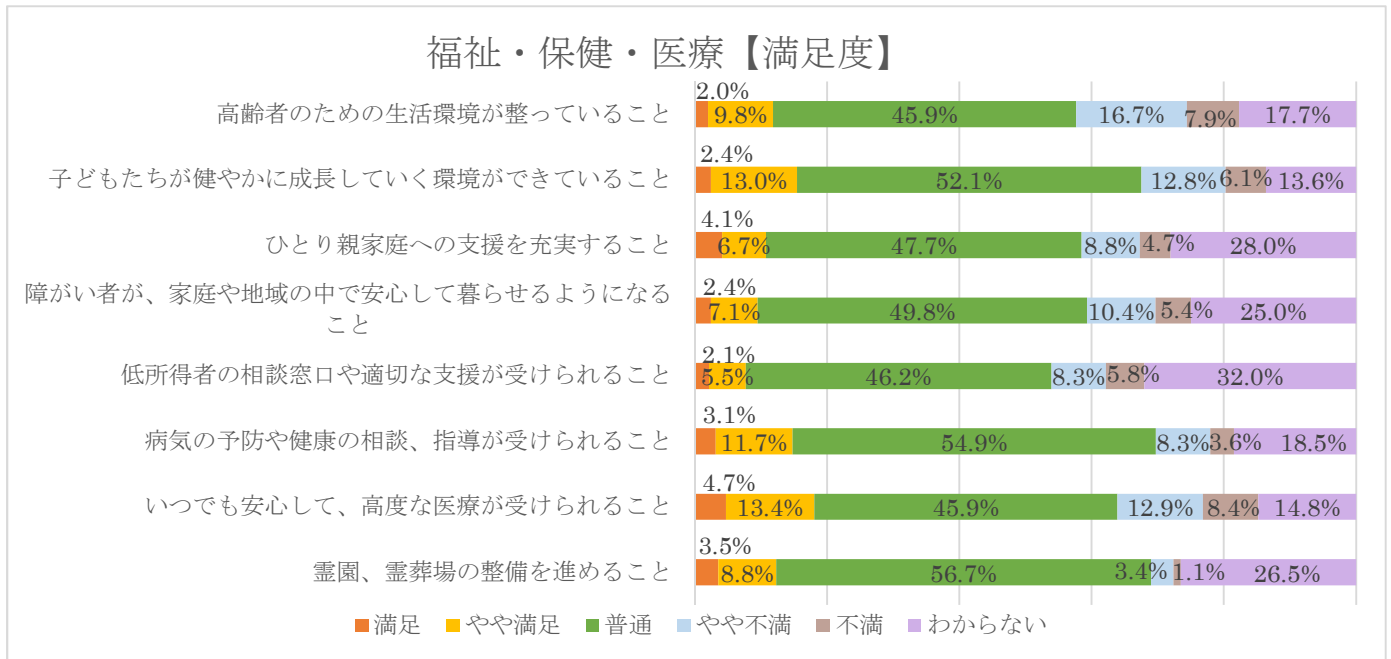
暮らし・環境【重要度】



イ 福祉・保健・医療

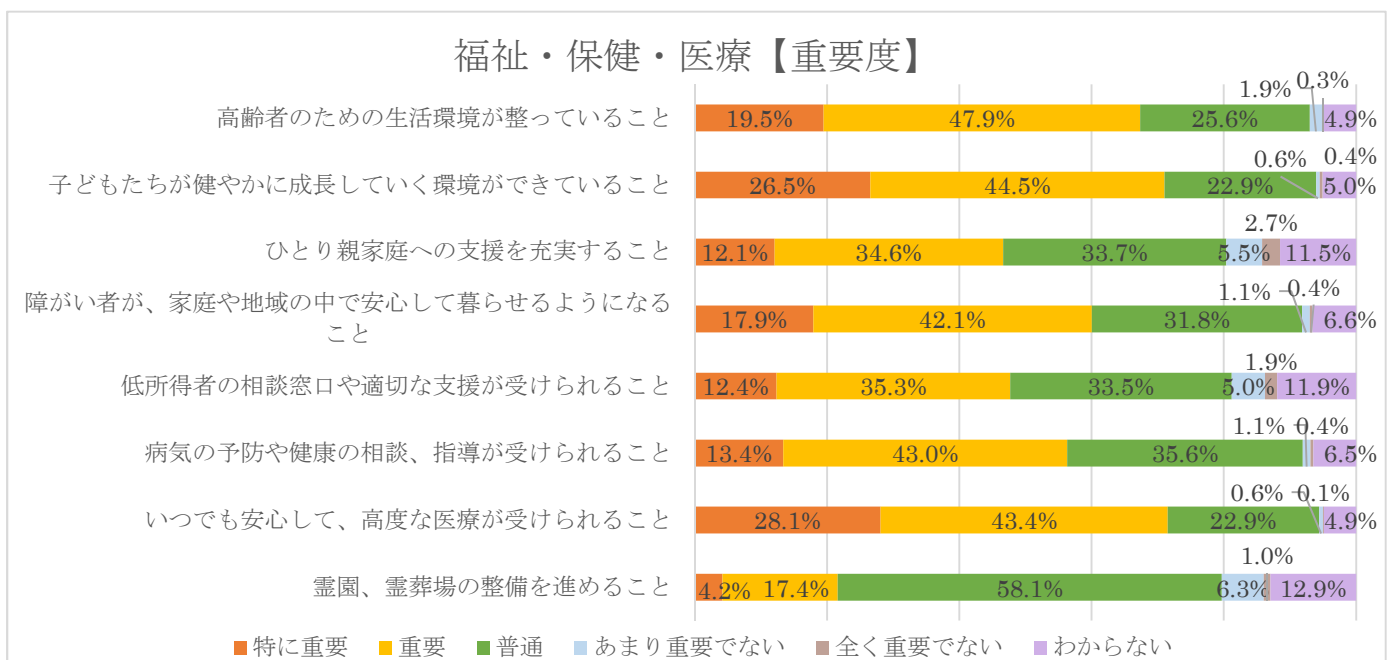
<現状の満足度>

福祉・保健・医療の現状の満足度について、「普通」や「わからない」との回答割合が比較的高いが、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）と満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合を比較すると、「病気の予防や健康の相談、指導が受けられること」「霊園、霊葬場の整備を進めること」を除く他の項目全てにおいて満足よりも不満の割合の方が高い。不満の割合の高い項目は、順に「高齢者のための生活環境が整っていること」、「低所得者の相談窓口や適切な支援が受けられること」、「障がい者が、家庭や地域の中で安心して暮らせるようになること」となっている。



<今後の重要度>

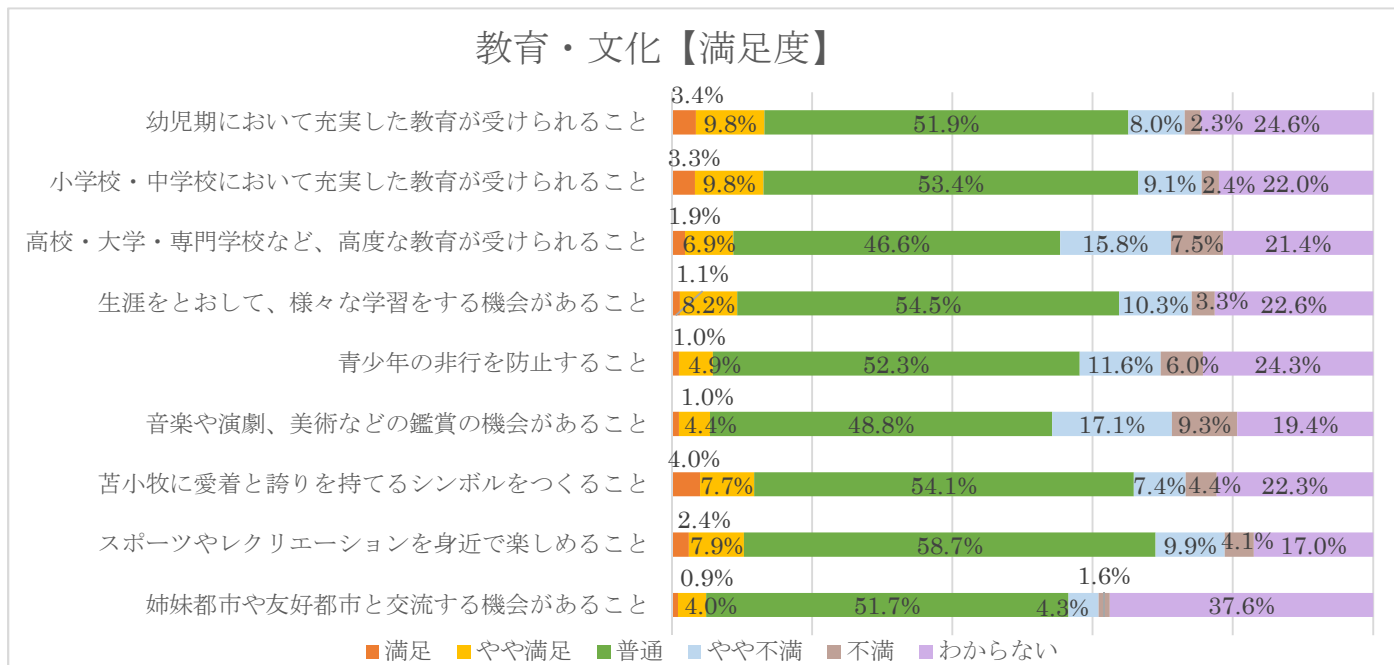
福祉・保健・医療の今後の重要度について、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、全ての項目において、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。特にその差が大きい項目は、順に「いつでも安心して、高度な医療が受けられること」、「子どもたちが健やかに成長していく環境ができていくこと」、「高齢者のための生活環境が整っていること」となっている。



ウ 教育・文化

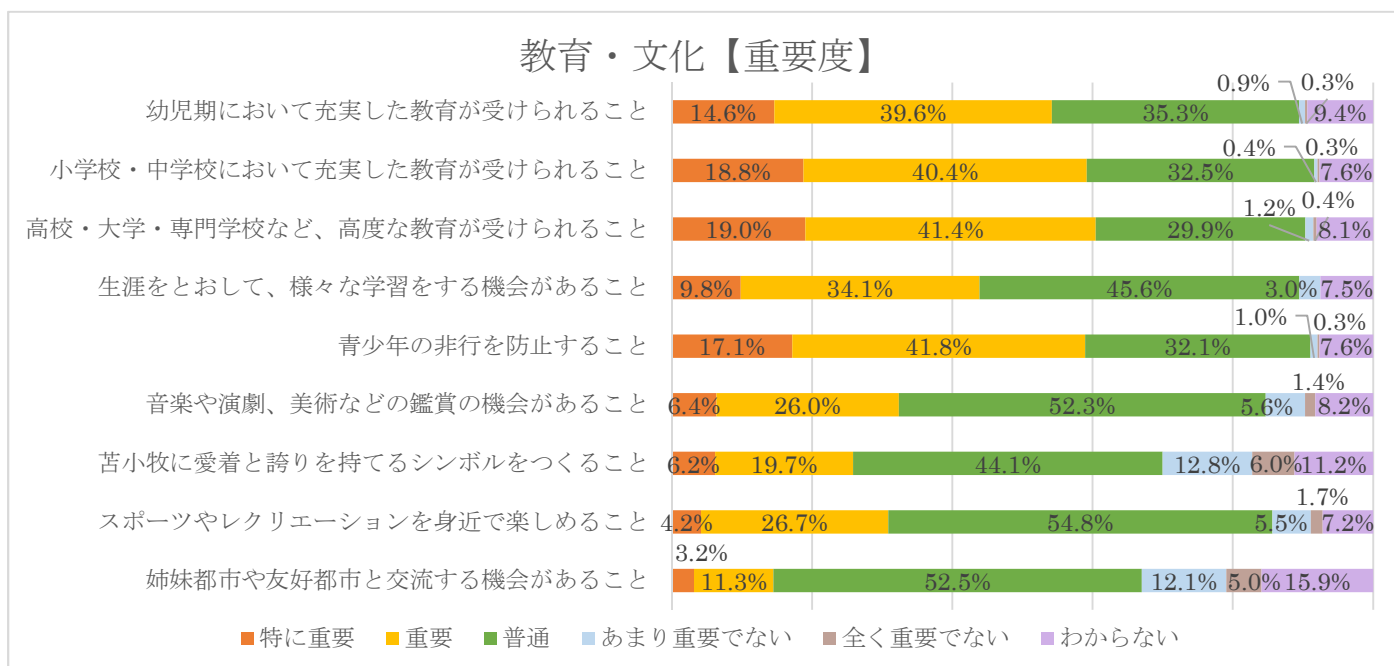
<現状の満足度>

教育・文化の現状の満足度について、「普通」や「わからない」との回答割合が比較的高いが、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）と満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合を比較すると、ほとんどの項目において満足よりも不満の割合の方が高い。不満の割合の方が高いものは、順に「音楽や演劇、美術、伝統芸能などの芸術鑑賞の機会があること」、「高校・大学・専門学校など、高度な教育が受けられること」、「青少年の非行を防止すること」となっている。



<今後の重要度>

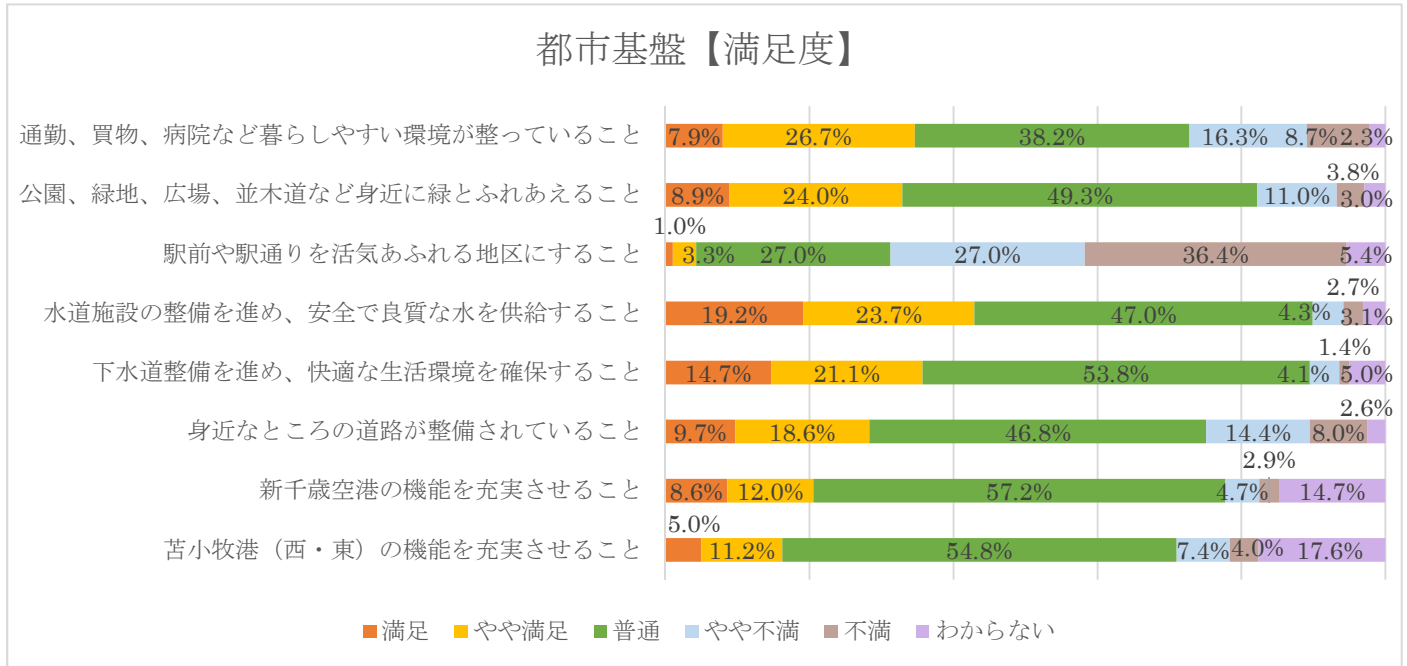
教育・文化の今後の重要度について、「普通」との回答割合が比較的高いものの、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、「姉妹都市と交流する機会があること」を除く他の項目全てにおいて、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。特にその差が大きい項目は、順に「高校・大学・専門学校など、高度な教育が受けられること」、「小学校・中学校において充実した教育が受けられること」、「青少年の非行を防止すること」となっている。



エ 都市基盤

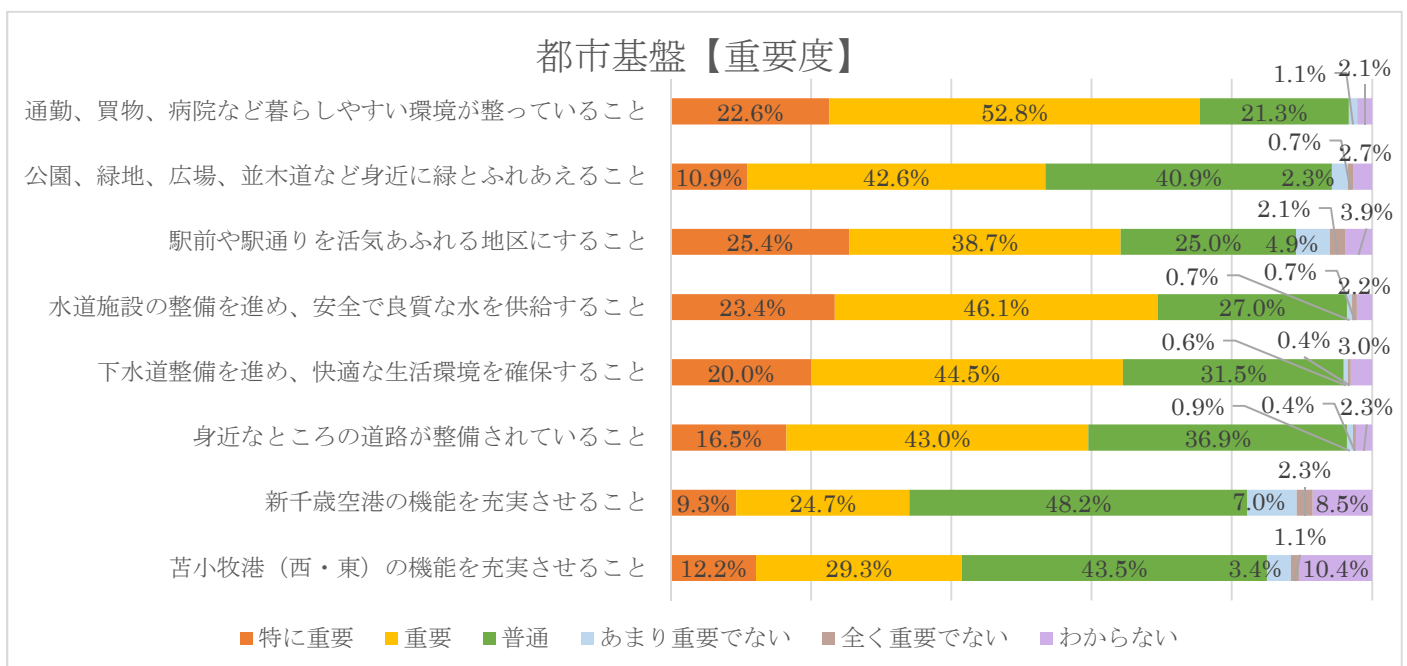
<現状の満足度>

都市基盤の現状の満足度について、「普通」の回答割合が「駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること」を除いて高くなっている。「駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること」については、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）が63.4%と非常に高くなっている。その他の項目は全て満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合が高くなっており、高い順に「水道施設の整備を進め、安全で良質な水を供給すること」、「下水道整備を進め、快適な生活環境を確保すること」、「公園、緑地、広場、並木道など身近に緑とふれあえること」となっている。



<今後の重要度>

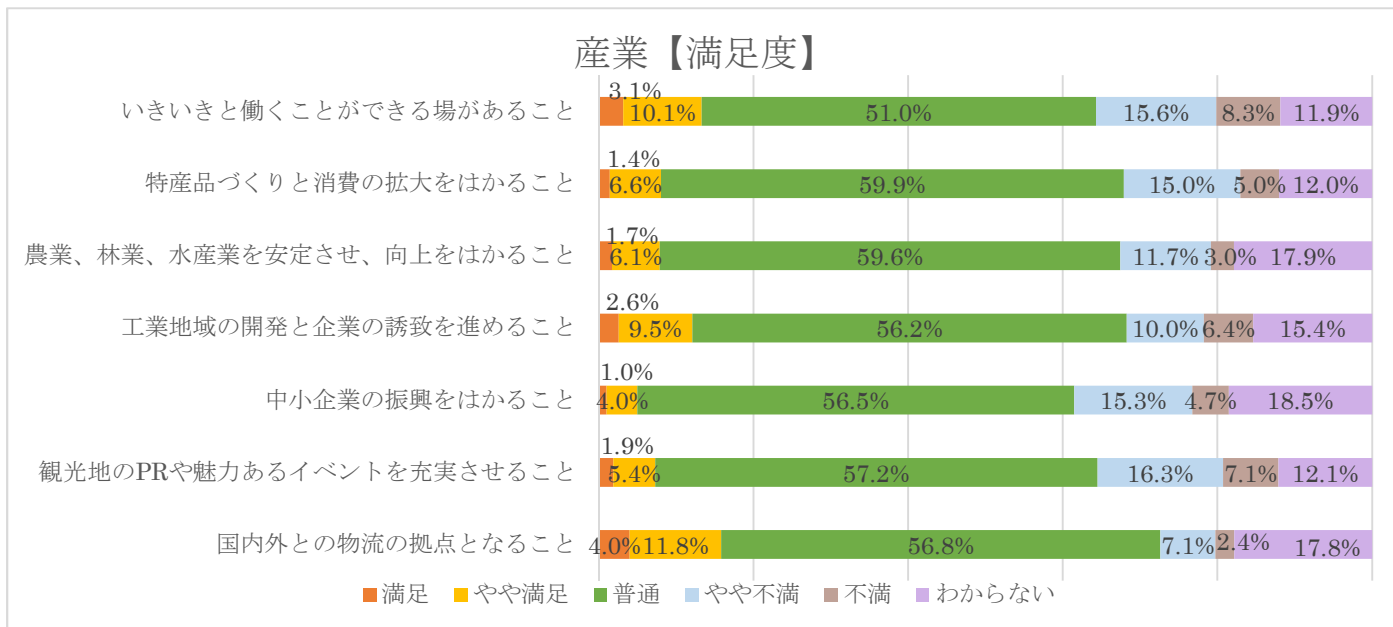
都市基盤の今後の重要度について、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、全ての項目において、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。特にその差が大きい項目は、順に「通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること」、「水道施設の整備を進め、安全で良質な水を供給すること」、「下水道整備を進め、快適な環境を確保すること」となっている。



オ 産業

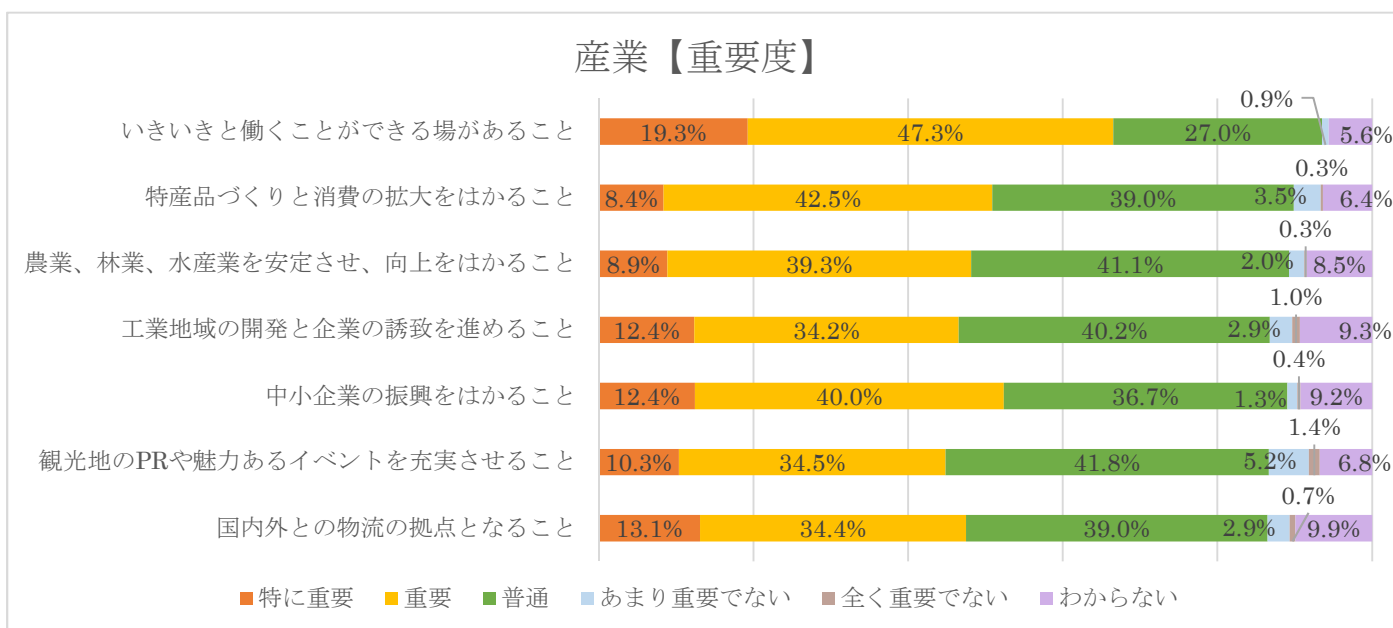
<現状の満足度>

産業の現状の満足度について、「普通」や「わからない」との回答割合が比較的高いが、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）と満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合を比較すると、全ての項目において満足よりも不満の割合の方が高い。不満の割合の方が高いものは、順に「観光地のPRや魅力あるイベントを充実させること」、「中小企業の振興をはかること」、「特産品づくりと消費の拡大をはかること」となっている。



<今後の重要度>

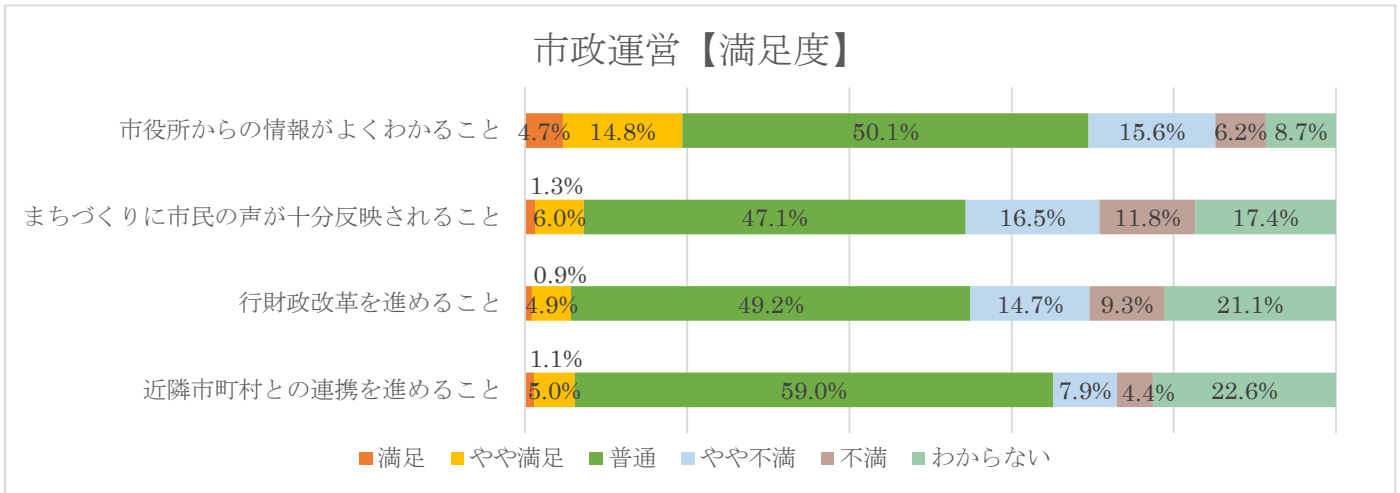
産業の今後の重要度について、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、全ての項目において、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。特にその差が大きい項目は、順に「いきいきと働くことができる場があること」、「中小企業の振興をはかること」、「特産品づくりと消費の拡大をはかること」となっている。



カ 市政運営

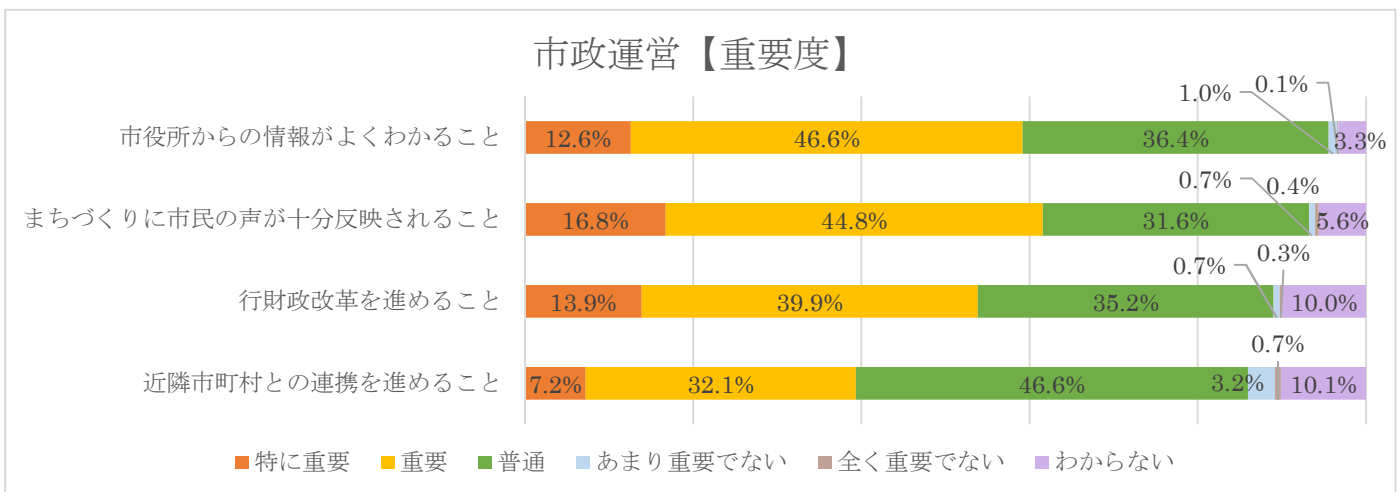
<現状の満足度>

市政運営の現状の満足度について、「普通」や「わからない」との回答割合が高いが、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）と満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合を比較すると、全ての項目において満足よりも不満の割合の方が高い。不満の割合の方が高いものは、順に「まちづくりに市民の声が十分反映されること」、「行財政改革を進めること」となっている。



<今後の重要度>

市政運営の今後の重要度について、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、全ての項目において、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。特にその差が大きい項目は、順に「まちづくりに市民の声が十分反映されること」、「市役所からの情報がよくわかること」となっている。



キ 満足度・重要度分析

重点的に取り組むべき施策を抽出するため、施策項目ごとに満足度、重要度の偏差値を算出し、全項目の総体的な位置づけがわかるよう、満足度、重要度を軸として図表化を行った。

○算出方法

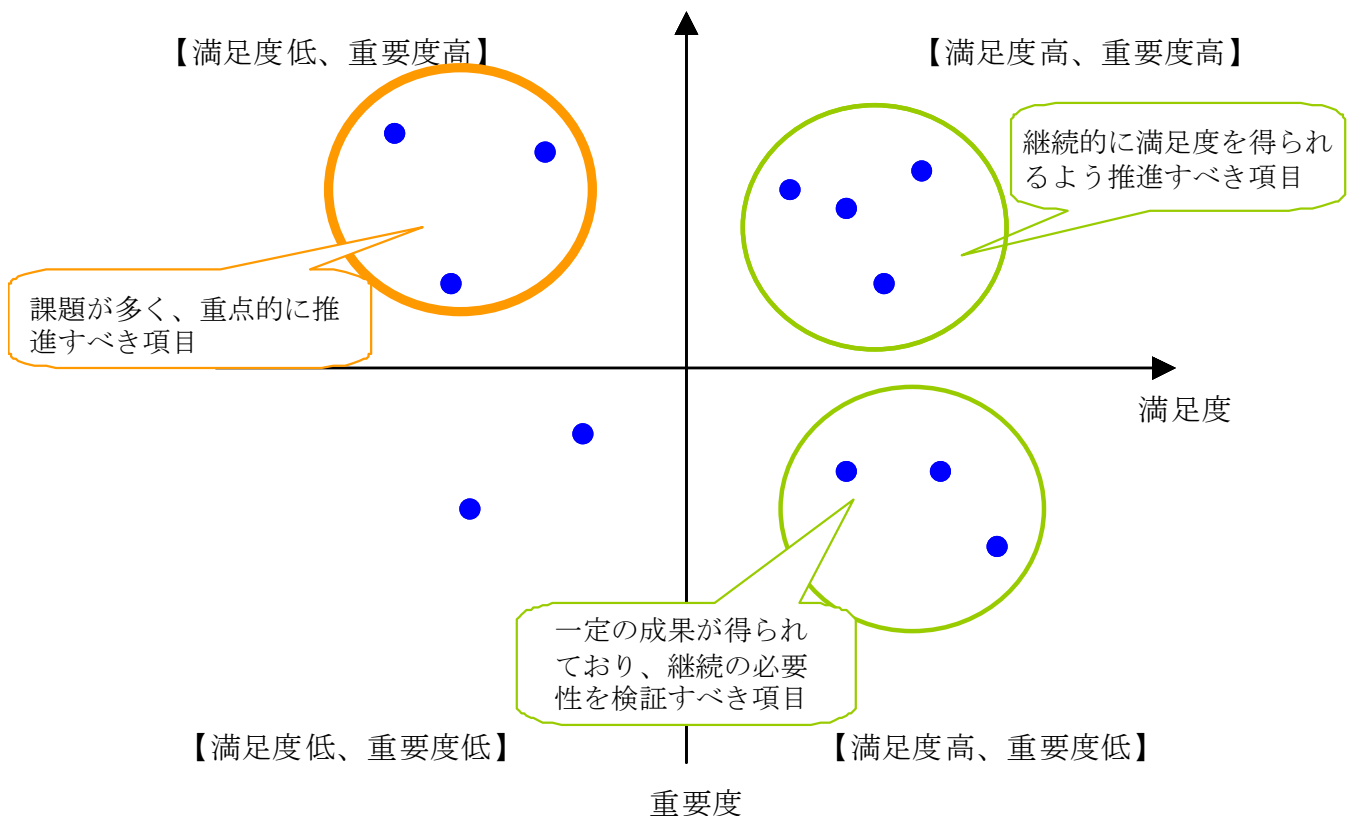
項目ごとの5段階評価を点数化し、各項目の平均点を得点として、「くらし・環境」「福祉・保健・医療」「教育・文化」「都市基盤」「産業」「市政運営」を統合して、項目間での偏差値を算出した。

選択肢の得点算出条件

選択肢	点数
「満足」／「特に重要」	5点
「やや満足」／「重要」	4点
「どちらともいえない」	3点
「やや不満」／「あまり重要でない」	2点
「不満」／「まったく重要でない」	1点
「わからない」・無回答	除外

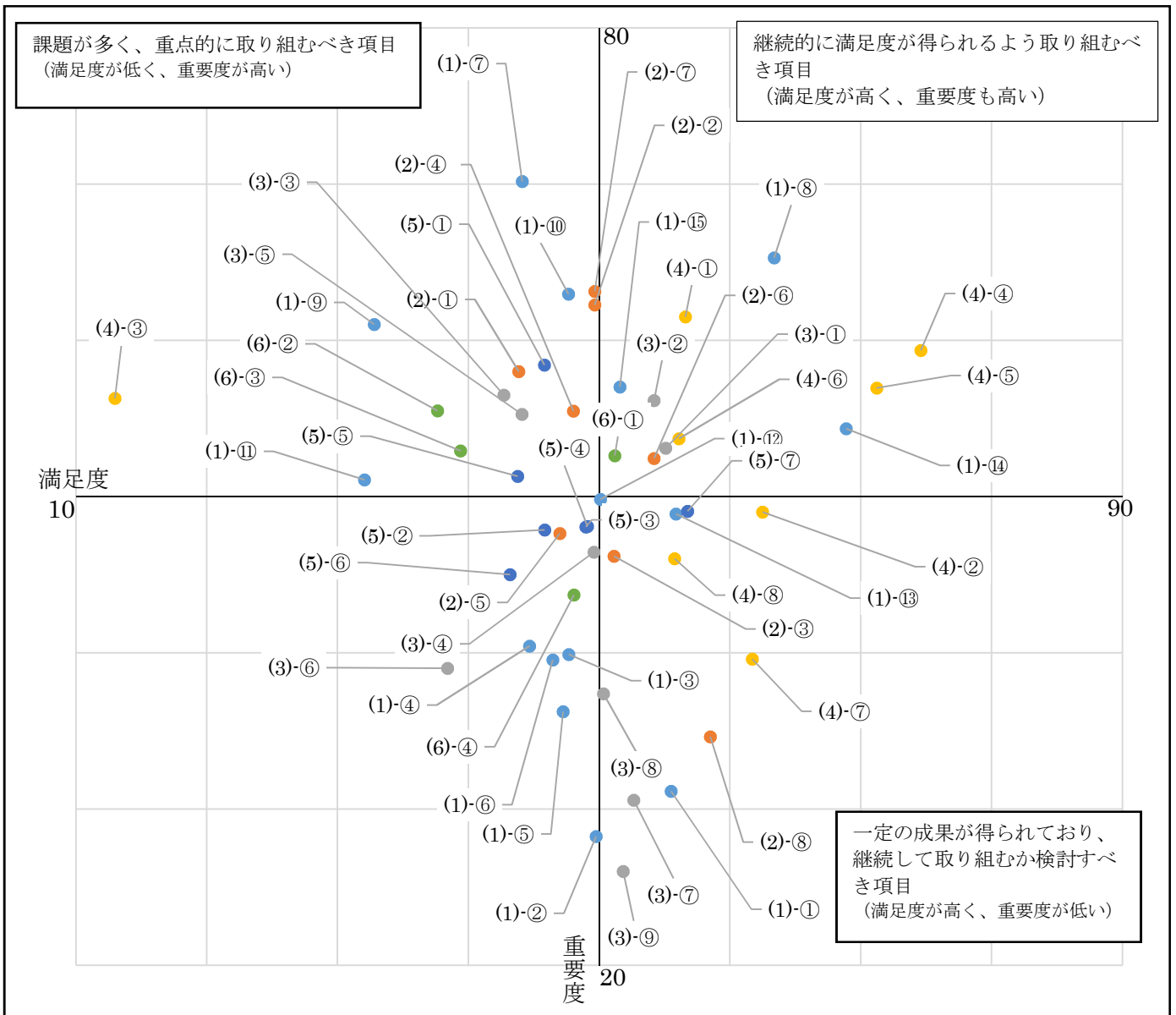
ここで偏差値とは、全体の平均値を50とし、それからのへだたりの度合いを算定した相対的な数値である。したがって、全体の平均値より高ければ50より高い値、低ければ50より低い値で示される。このようなデータ加工をした後、満足度を横軸、重要度を縦軸にとり、各項目の満足度・重要度の関係を図示した。

満足度・重要度分析（イメージ）



○満足度・重要度評価

各施策項目の得点から算出した偏差値に基づき、満足度、重要度を軸としたマトリクス上にプロットし、関係を図示すると以下ようになる。



分類	設問項目	満足度	重要度	分類	設問項目	満足度	重要度	
くらし・環境 (1)	①自分が住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと	55.5	31.1	教育・文化 (3)	①幼児期において充実した教育が受けられること	55.1	53.1	
	②NPOやボランティアなどの活動に参加できる機会があること	49.8	28.2		②小学校・中学校において充実した教育が受けられること	54.2	56.2	
	③女性の社会参加が十分できること	47.7	39.9		③高校・大学・専門学校など、高度な教育が受けられること	42.7	56.5	
	④正しい消費者情報が得られ、相談が受けられること	44.7	40.4		④生涯をとおして、様々な学習をする機会があること	49.6	46.4	
	⑤公営住宅の建て替えと改善をはかること	47.3	36.2		⑤青少年の非行を防止すること	44.1	55.3	
	⑥マイホーム建設を支援すること	46.5	39.5		⑥音楽や演劇、美術、伝統芸能などの芸術鑑賞の機会があること	38.4	39.0	
	⑦噴火、地震、風水害などの災害に備えること	44.1	70.2		⑦苫小牧に愛着と誇りを持つシンボルをつくること	52.7	30.6	
	⑧消防、救急体制が強化されること	63.4	65.3		⑧スポーツやレクリエーションを身近で楽しめること	50.3	37.4	
	⑨交通事故にあう危険を感じないこと	32.8	61.0		⑨姉妹都市と交流する機会があること	51.8	26.0	
	⑩防犯など身近な地域の安全が保たれていること	47.7	63.0		都市基盤 (4)	①通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること	56.6	61.5
	⑪市内のバス利用の便がよいこと	32.1	51.1			②公園、緑地、広場、並木道など身近に緑とふれあえること	62.5	49.0
	⑫他都市への交通の便がよいこと	50.1	49.8			③駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること	13.0	56.3
	⑬豊かな自然環境の保全に努め、自然保護の意識を高めること	55.9	48.9			④水道施設の整備を進め、安全で良質な水を供給すること	74.6	59.4
	⑭ごみの減量化や資源のリサイクルが行われること	68.9	54.3			⑤下水道整備を進め、快適な生活環境を確保すること	71.2	56.9
	⑮大気汚染、水質汚染、騒音等、公害を防ぐ対策をとること	51.6	57.0			⑥身近なところの道路が整備されていること	56.1	53.7
	福祉・医療 (2)	①高齢者のための生活環境が整っていること	43.8			58.0	⑦新千歳空港の機能を充実させること	61.7
②子供たちが健やかに成長していく環境ができていないこと		49.7	62.3	⑧苫小牧港(西・東)の機能を充実させること		55.8	46.0	
③ひとり親家庭への支援を充実すること		51.1	46.2	産業 (5)	①いきいきと働くことができる場があること	45.8	58.4	
④障がい者が、家庭や地域の中で安心して暮らせるようになること		48.0	55.5		②特産品づくりと消費の拡大をはかること	45.8	47.9	
⑤低所得者の相談窓口や適切な支援が受けられること		47.0	47.6		③農業、林業、水産業を安定させ、向上をはかること	49.0	48.0	
⑥病気の予防や健康の相談、指導が受けられること		54.2	52.4		④工業地域の開発と企業の誘致を進めること	49.1	48.1	
⑦いつでも安心して、高度な医療が受けられること		49.7	63.1		⑤中小企業の振興をはかること	43.8	51.3	
⑧霊園、霊葬場の整備を進めること		58.5	34.6		⑥観光地のPRや魅力あるイベントを充実させること	43.2	45.0	
市営運 (6)					⑦国内外との物流の拠点となること	56.8	49.1	
					①市役所からの情報がよくわかること	51.2	52.6	
				②まちづくりで市民の声が十分反映されること	37.7	55.5		
				③行財政改革を進めること	39.4	52.9		
				④近隣市町村との連携を進めること	48.1	43.7		

青数字:偏差値50.0以上(平均より高い評価)
 赤数字:偏差値50.0未満(平均より低い評価)
 :満足度が低くかつ重要度が高く、重点的に推進すべき項目

各分野・項目の特徴を以下に整理する。

【くらし・環境】

満足度では、「地域の行事や活動」「消防救急体制」「自然環境保全」「ごみの減量化やリサイクル」などの項目において高い得点となっている。一方、「市内のバスの利用の便」、「交通安全」、「噴火、地震、風水害などの防災対策」などにおいては低い得点となっており、全体的には満足度の低い分野といえる。

重要度では、「噴火、地震、風水害などの防災対策」が、全項目中最も高い得点となっており、満足度も低いことから課題が多い項目といえる。その他、「消防・救急体制」、「防犯・交通安全対策」の得点も高くなっている。

【福祉・保健・医療】

満足度では、「霊園、霊葬場」、「病気予防、健康相談・指導体制」、「ひとり親家庭への支援」で50を超えているものの、その他の項目では得点が低くなっている。

重要度では、満足度の高い施策項目を除くほとんどの施策項目で偏差値が50を超えており、特に「子育て環境」、「高齢者の生活環境」、「高度医療の受診機会」、「障がい者福祉」に関する施策項目については、満足度が低くかつ重要度が高くなっており、積極的な対応が不可欠な項目といえる。

【教育・文化】

満足度では、「高等教育」、「生涯学習」、「青少年の非行防止」、「芸術鑑賞機会」に関する施策項目で偏差値が50を下回っている。

重要度では、「幼児教育」、「学校教育」及び「青少年の非行防止」において得点が高くなっている。「社会学習」、「スポーツ・レクリエーション」、「姉妹都市交流」については得点が低く、市民の関心があまり高くないことが伺える。

【都市基盤】

満足度では、「駅前・駅通りの活性化」を除く全ての施策項目において50を大きく上回っており、全体的には満足度の高い分野である。「駅前・駅通りの活性化」については、満足度が13.0と極端に低く重要度も56.3と50を大きく超えており、積極的な対応が不可欠な項目といえる。

【産業】

満足度では、「物流の拠点」以外の項目が全て50を下回っている。

重要度では、「雇用の場の確保」、「中小企業振興」において得点が高くなっており、満足度も低いことから課題が多い項目といえる。

【市政運営】

満足度では、「市役所からの情報がよくわかること」以外の項目で偏差値が50を下回っており、満足度の低い分野であることが伺える。

重要度では、「近隣市町村との連携」を除く全ての項目で得点が50を上回り、特に「まちづくりに市民の声が十分反映されること」、「行財政改革を進めること」で高くなっている。

分類	設問項目	満足度				重要度			
		全体	西部	中央部	東部	全体	西部	中央部	東部
くらし・環境	①自分が住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと	55.5	54.3	53.9	58.6	31.1	32.1	29.9	33.1
	②NPOやボランティアなどの活動に参加できる機会があること	49.8	48.6	50.0	50.3	28.2	28.9	29.4	26.9
	③女性の社会参加が十分できること	47.7	49.1	48.7	45.5	39.9	39.6	40.0	40.4
	④正しい消費者情報が得られ、相談が受けられること	44.7	44.4	46.0	43.5	40.4	38.6	41.1	41.1
	⑤公営住宅の建て替えと改善をはかること	47.3	56.5	43.0	45.7	36.2	36.6	35.4	37.7
	⑥マイホーム建設を支援すること	46.5	50.7	45.3	44.5	39.5	42.3	36.4	42.1
	⑦噴火、地震、風水害などの災害に備えること	44.1	49.4	43.6	40.7	70.2	70.9	68.6	70.9
	⑧消防、救急体制が強化されること	63.4	65.7	62.1	62.1	65.3	67.2	63.7	65.3
	⑨交通事故にあう危険を感じないこと	32.8	35.0	31.6	34.5	61.0	58.8	60.4	63.1
	⑩防犯など身近な地域の安全が保たれていること	47.7	50.2	46.6	47.7	63.0	62.9	62.7	63.0
	⑪市内のバス利用の便がよいこと	32.1	30.4	37.8	26.8	51.1	51.8	48.3	54.9
	⑫他都市への交通の便がよいこと	50.1	40.2	54.6	52.0	49.8	47.9	51.2	49.5
	⑬豊かな自然環境の保全に努め、自然保護の意識を高めること	55.9	55.7	55.6	56.1	48.9	51.7	49.0	46.3
	⑭ごみの減量化や資源のリサイクルが行われること	68.9	68.3	67.9	69.2	54.3	56.8	53.5	53.4
	⑮大気汚染、水質汚染、騒音等、公害を防ぐ対策をとること	51.6	56.1	49.4	50.4	57.0	58.2	56.4	56.6
福祉・保健・医療	①高齢者のための生活環境が整っていること	43.8	46.5	44.9	40.6	58.0	58.4	58.0	57.2
	②子供たちが健やかに成長していく環境ができていくこと	49.7	47.8	50.1	50.3	62.3	62.0	62.8	61.1
	③ひとり親家庭への支援を充実すること	51.1	51.0	52.4	49.1	46.2	46.4	47.7	43.9
	④障がい者が、家庭や地域の中で安心して暮らせるようになること	48.0	49.0	48.2	46.6	55.5	55.9	55.6	55.0
	⑤低所得者の相談窓口や適切な支援が受けられること	47.0	47.9	47.6	44.6	47.6	48.1	49.0	45.4
	⑥病気予防や健康の相談、指導が受けられること	54.2	55.3	54.5	51.9	52.4	52.4	52.8	51.6
	⑦いつでも安心して、高度な医療が受けられること	49.7	50.4	51.6	45.6	63.1	63.7	62.3	63.2
	⑧霊園、霊葬場の整備を進めること	58.5	59.5	58.3	56.7	34.6	36.6	35.5	32.2
教育・文化	①幼児期において充実した教育が受けられること	55.1	58.0	52.0	57.6	53.1	49.5	54.3	54.5
	②小学校・中学校において充実した教育が受けられること	54.2	53.4	53.1	56.6	56.2	53.0	57.6	56.7
	③高校・大学・専門学校など、高度な教育が受けられること	42.7	40.9	41.7	46.2	56.5	52.6	58.0	57.3
	④生涯をとおして、様々な学習をする機会があること	49.6	48.4	48.8	51.7	46.4	45.5	47.5	45.6
	⑤青少年の非行を防止すること	44.1	43.0	45.2	43.8	55.3	56.3	54.8	54.8
	⑥音楽や演劇、美術、伝統芸能などの芸術鑑賞の機会があること	38.4	41.1	38.3	37.6	39.0	36.7	39.8	40.2
	⑦苦小牧に愛着と誇りを持つシンボルをつくること	52.7	53.7	52.5	52.4	30.6	32.4	31.4	28.2
	⑧スポーツやレクリエーションを身近で楽しめること	50.3	51.2	49.8	50.5	37.4	35.2	37.9	38.7
	⑨姉妹都市と交流する機会があること	51.8	51.5	52.1	51.8	26.0	26.5	25.8	26.7
都市基盤	①通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること	56.6	50.2	59.7	56.7	61.5	61.2	62.2	60.4
	②公園、緑地、広場、並木道など身近に緑とふれあえること	62.5	61.2	61.7	63.6	49.0	47.1	50.1	49.1
	③駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること	13.0	10.6	10.5	21.9	56.3	60.0	58.6	49.4
	④水道施設の整備を進め、安全で良質な水を供給すること	74.6	71.6	74.7	75.2	59.4	60.8	58.9	58.4
	⑤下水道整備を進め、快適な生活環境を確保すること	71.2	69.7	70.8	71.5	56.9	57.2	57.6	55.4
	⑥身近なところの道路が整備されていること	56.1	55.5	55.5	57.2	53.7	50.3	54.5	55.3
	⑦新千歳空港の機能を充実させること	61.7	61.0	61.1	62.5	39.6	39.3	39.1	40.8
	⑧苦小牧港（西・東）の機能を充実させること	55.8	53.4	56.8	55.7	46.0	48.8	45.5	44.5
産業	①いきいきと働くことができる場があること	45.8	49.6	44.9	44.1	58.4	59.4	56.8	59.9
	②特産品づくりと消費の拡大をはかること	45.8	44.7	46.8	46.0	47.9	48.6	47.5	48.2
	③農業、林業、水産業を安定させ、向上をはかること	49.0	48.7	49.1	49.3	48.0	48.7	47.4	49.0
	④工業地域の開発と企業の誘致を進めること	49.1	47.2	48.8	51.5	48.1	46.9	48.3	48.9
	⑤中小企業の振興をはかること	43.8	42.3	43.3	46.3	51.3	51.7	51.0	51.8
	⑥観光地のPRや魅力あるイベントを充実させること	43.2	40.3	44.9	43.3	45.0	45.5	43.4	47.1
	⑦国内外との物流の拠点となること	56.8	55.5	56.1	58.4	49.1	51.0	48.5	48.7
市政運営	①市役所からの情報がよくわかること	51.2	52.8	50.9	49.8	52.6	51.0	52.8	53.5
	②まちづくりに市民の声が十分反映されること	37.7	39.6	37.6	36.9	55.5	53.7	56.5	55.1
	③行財政改革を進めること	39.4	42.2	38.9	38.2	52.9	50.6	54.0	52.8
	④近隣市町村との連携を進めること	48.1	46.7	50.5	45.8	43.7	44.3	42.7	44.6

<居住地別の特徴>

■西部

満足度では、「公営住宅の建て替えと改善をはかること」、「大気汚染、水質汚染、騒音等、公害を防ぐ対策をとること」、「いきいきと働くことができる場があること」で、他地域に比べ満足度は高くなっている。一方、「他都市への交通の便がよいこと」、「子どもたちが健やかに成長していく環境ができていくこと」、「通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること」は他地域より低くなっており、特に「他都市への交通の便がよいこと」は、他地域全ての得点が50以上であるのに対し、当地域は40.2と大きく下回っている。

重要度では、「噴火、地震、風水害などの災害に備えること」の得点が70.9と全項目の中で最も高くなっている。その他「国内外との物流の拠点となること」のニーズが他の地域が50を下回っている中で51.0と高くなっている。また、「幼児期において充実した教育が受けられること」が49.5となっており、他の地域と比べ唯一50を下回っている施策項目である。

■中央部

満足度では、「市内のバス利用の便がよいこと」、「他都市との交通の便がよいこと」「通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること」で、他地域に比べ高くなっている。また、「交通事故にあう気炎を感じない」、「大気汚染、水質汚染、騒音等、公害を防ぐ対策をとること」、「駅前や駅前通りを活気あふれる地区にすること」は、他地域より低く、特に「駅前や駅前通りを活気あふれる地区にすること」では満足度が10.5と全項目の中で最も低くなっている。

重要度では、「公園、緑地、広場、並木道など身近に緑とふれあえること」、「行財政改革を進めること」が他地域に比べて高くなっている。一方、「自分が住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと」、「市内のバス利用の便がよいこと」、「いきいきと働くことができる場があること」は他地域に比べて低く、特に「市内のバス利用の便がよいこと」は、他地域が50を下回っている中で50.1となっている。

■東部

満足度では、「生涯をとおして、様々な学習をする機会があること」、「工業地域の開発と企業の誘致を進めること」について、他地域が50を下回っているのに対し、それぞれ51.7、51.5となっている。また、「駅前や駅前通りを活気あふれる地区にすること」では21.9と他地域よりも高くなっている。一方で「噴火、地震、風水害などの災害に備えること」、「市内のバス利用の便がよいこと」「いつでも安心して、高度な医療が受けられること」で他地域より低くなっており、特に「いつでも安心して、高度な医療が受けられること」については、他の地域が全て50を上回っているのに対し、45.6となっている。

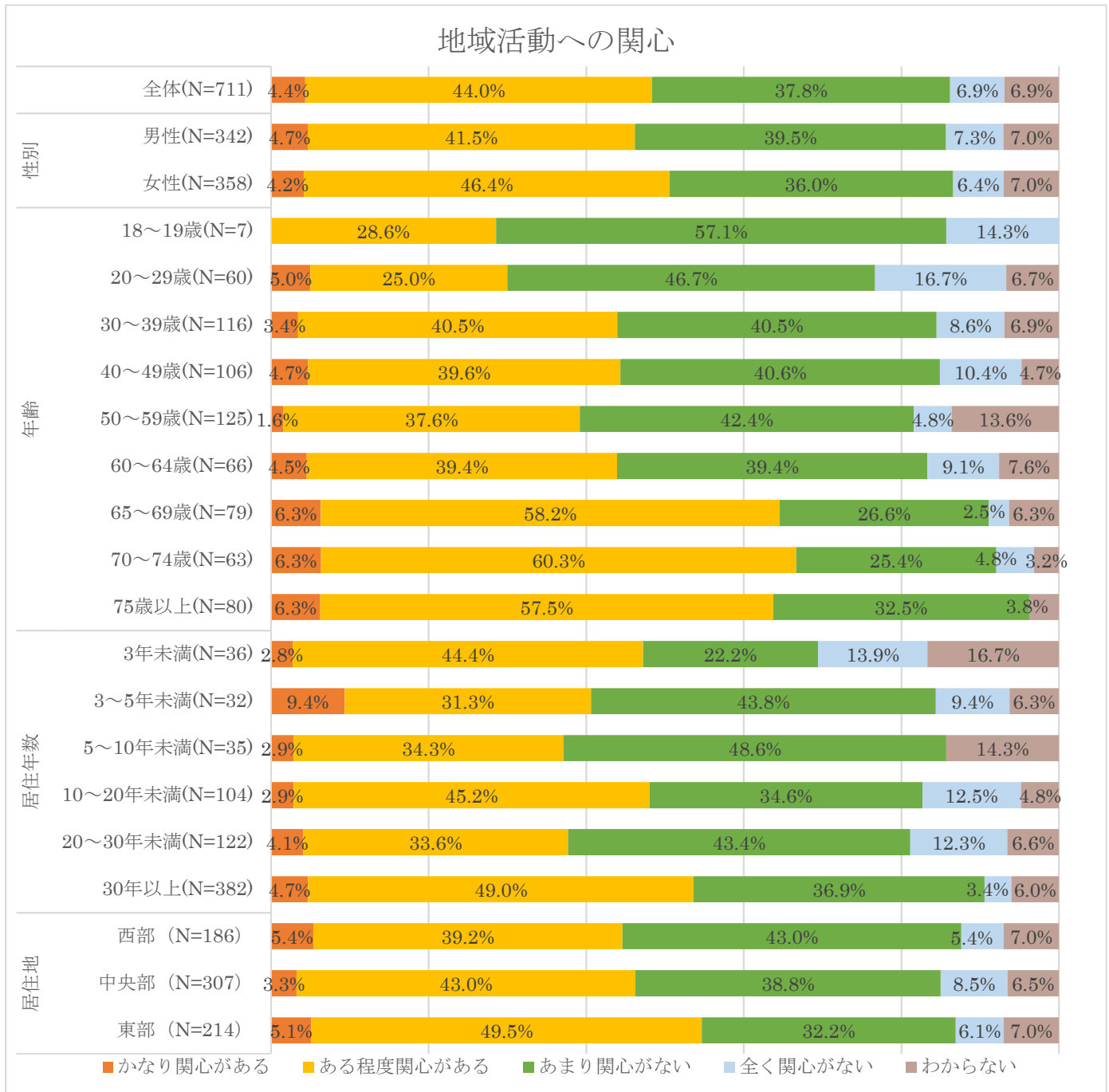
重要度では、「交通事故にあう危険を感じないこと」、「市内のバス利用の便がよいこと」で他地域より高くなっている。また、「豊かな自然環境の保全に努め、自然保護の意識を高めること」、「ひとり親家庭への支援を充実すること」、「駅前や駅前通りを活気あふれる地区にすること」では、他地域より低くなっており、特に「駅前や駅前通りを活気あふれる地区にすること」では、他地域が50を上回っているのに対し、49.4となっている。

(4) 地域活動について

ア 地域活動への関心度

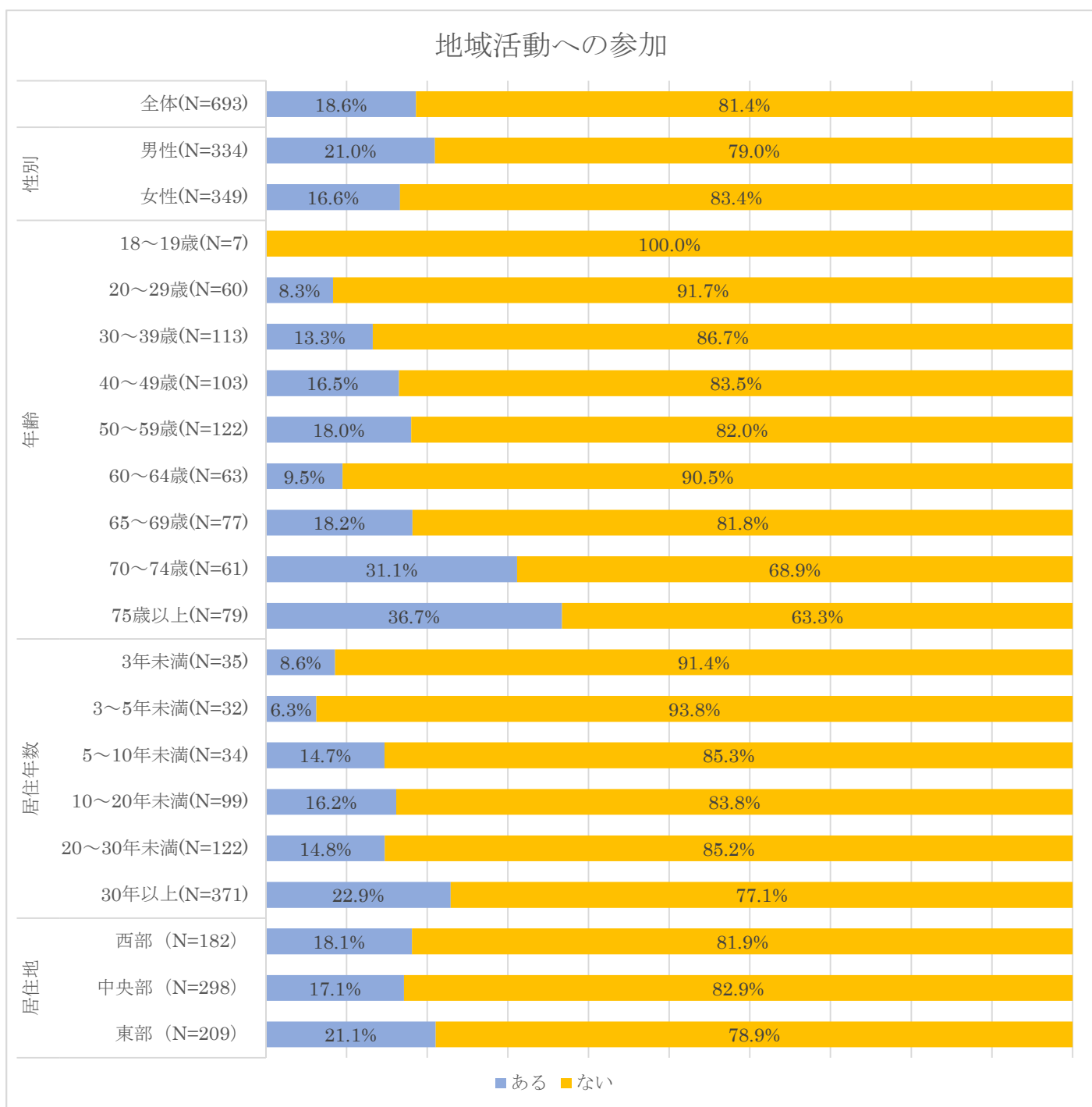
お住まいの地域での活動への関心度については、「ある程度関心がある」が44.0%で最も高く、「かなり関心がある」と合わせて48.4%がとなっている。

属性別にみると、男女別では、男性に比べ女性の方、年齢別では、年齢層が高くなるにつれて関心度が高くなっている。また、居住地別では、東に行くほど関心度が高くなっている。



イ 現在参加している地域活動の有無

現在、「参加している地域活動がある」とする回答は、全体の18.6%となっている。
属性別にみると、年齢別では、年齢層が高くなるにつれて関心度が高くなっている。



ウ 現在参加している地域活動の内容

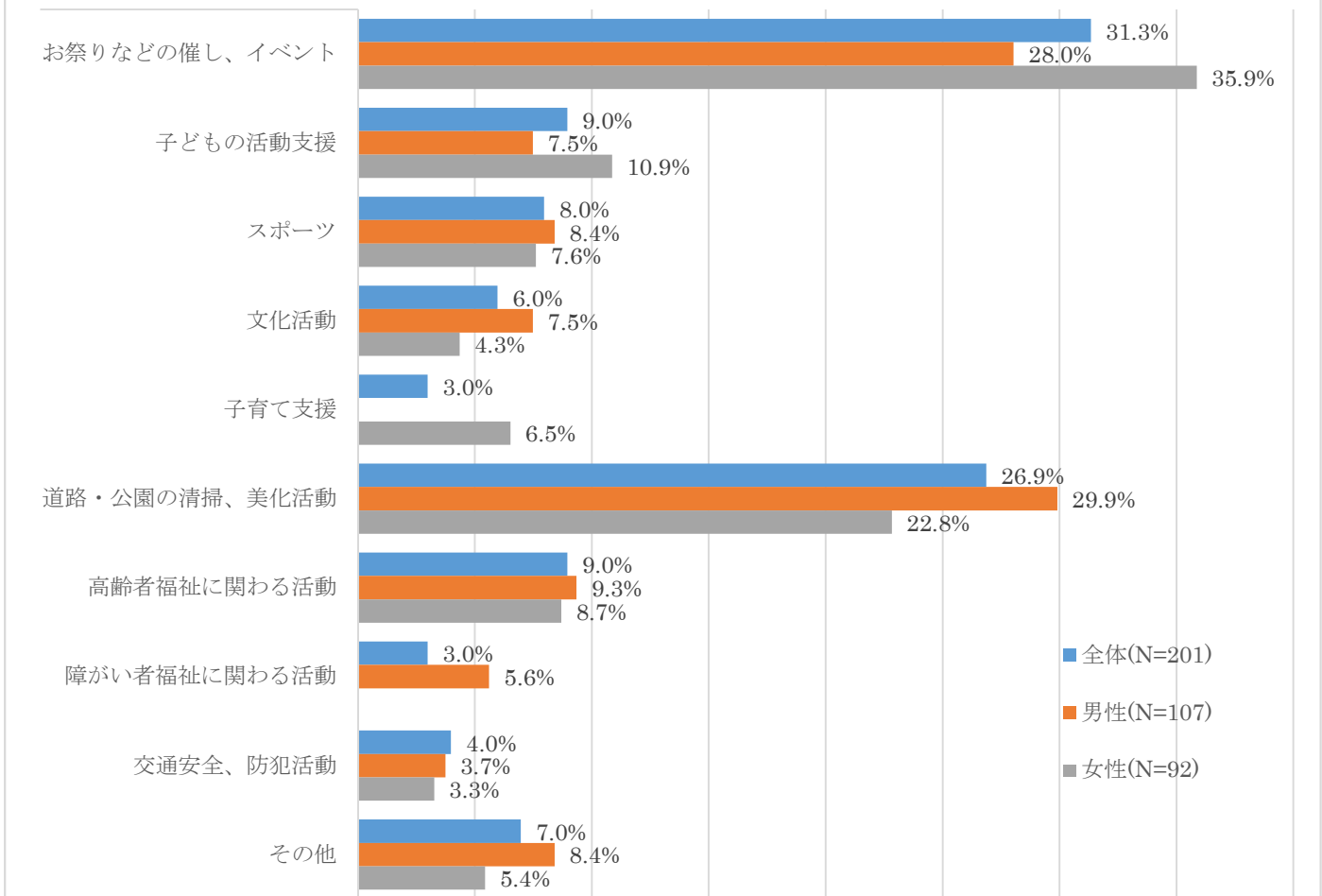
参加している地域活動の内容では、「お祭りなどの催し、イベント」が31.3%で最も高く、次いで「道路・公園の清掃、美化活動」(26.9%)となっている。

居住地別では、「西部」では「お祭りなどの催し、イベント」、「中央部」では「交通安全、防犯活動」の参加割合が他地域より高くなっている。

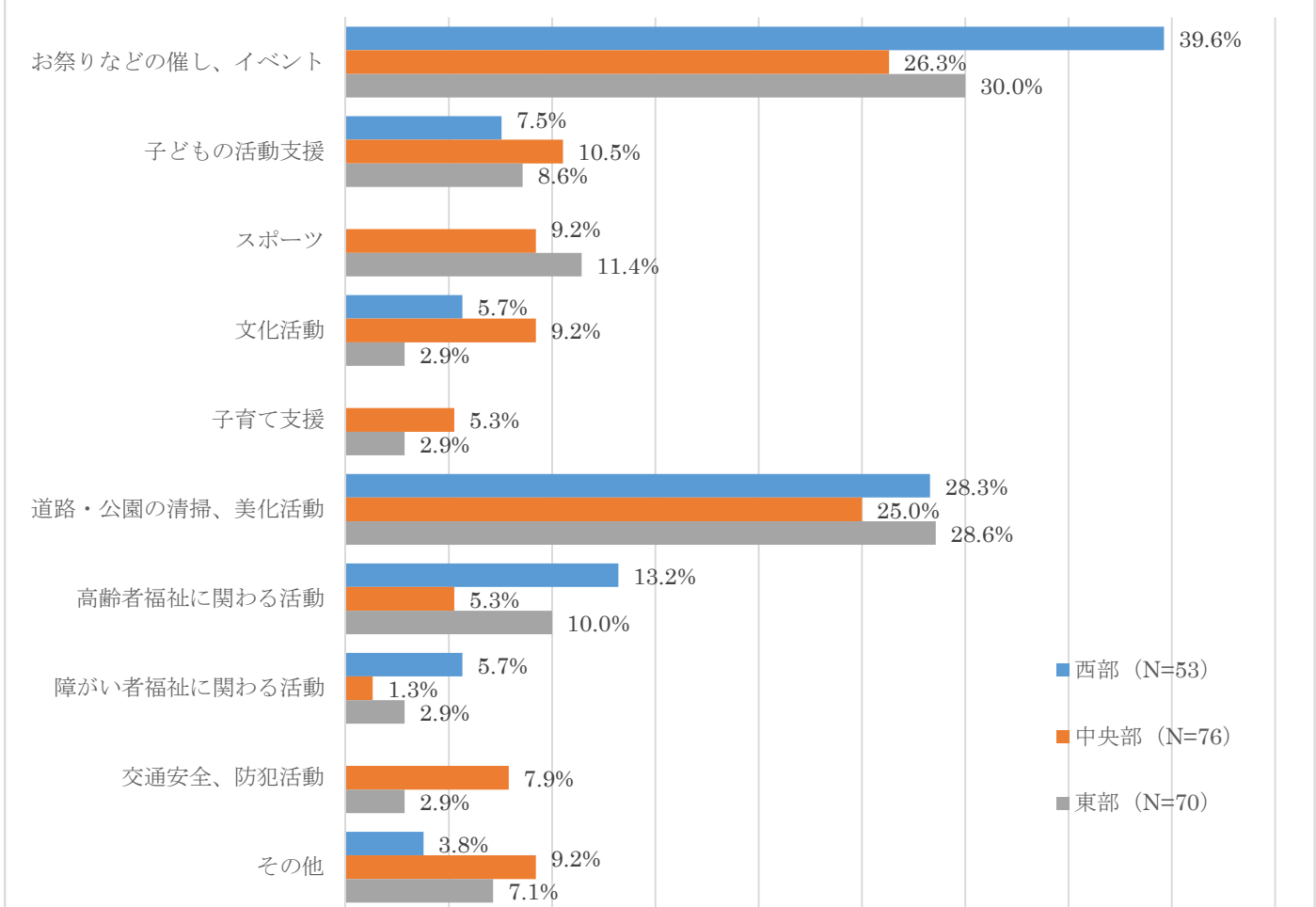
その他の主な回答

・消防団 ・廃品回収 ・小中学校CS委員 ・町内会活動(役員等) など

参加している活動【男女別】 ※複数回答可



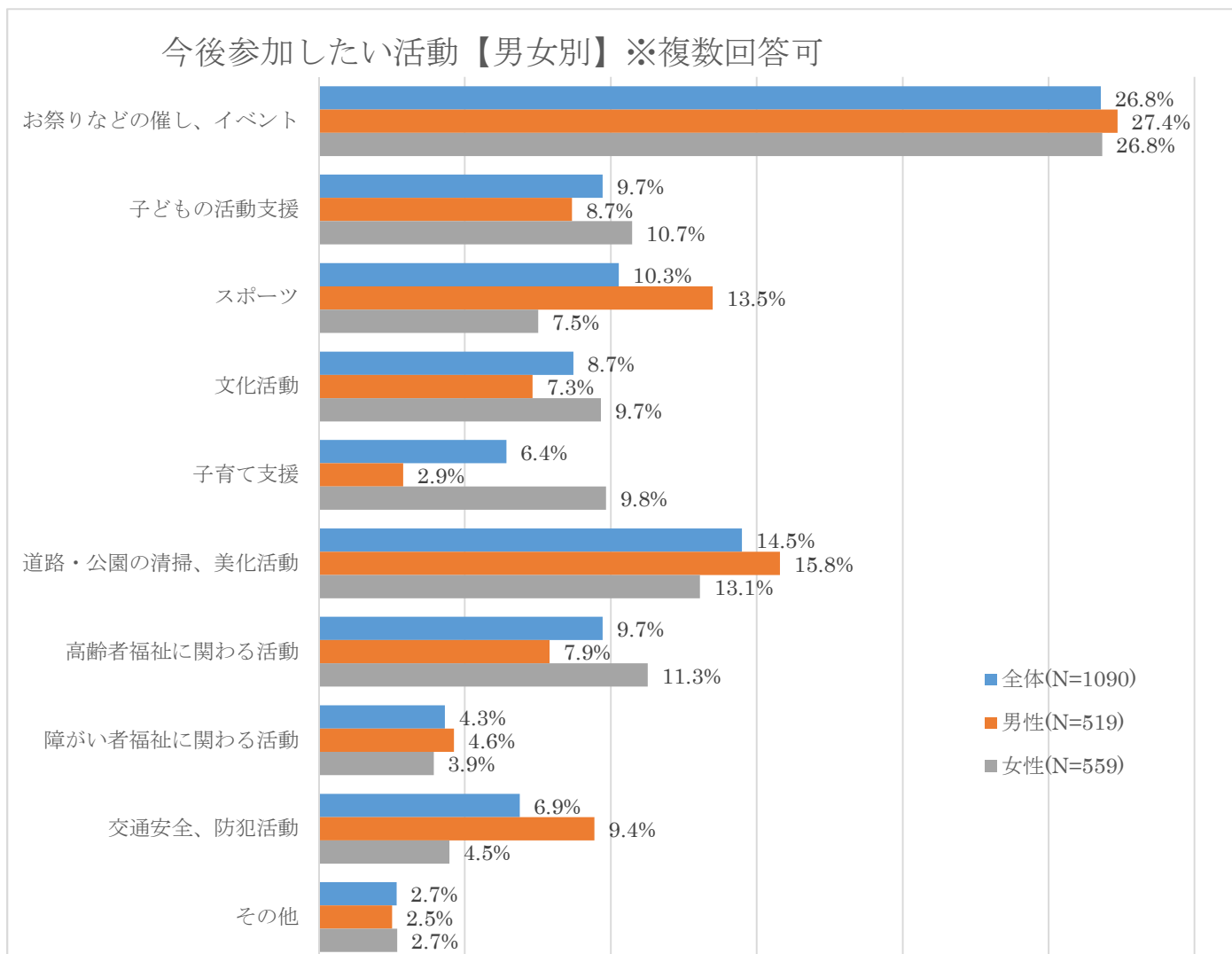
参加している活動【地域別】 ※複数回答可



エ 今後（も）参加したい地域活動の内容

今後（も）参加したい地域活動としては、「お祭りなどの催し、イベント」が26.8%で最も高く、次いで「道路・公園の清掃、美化活動」（14.5%）、「スポーツ」（10.3%）となっている。

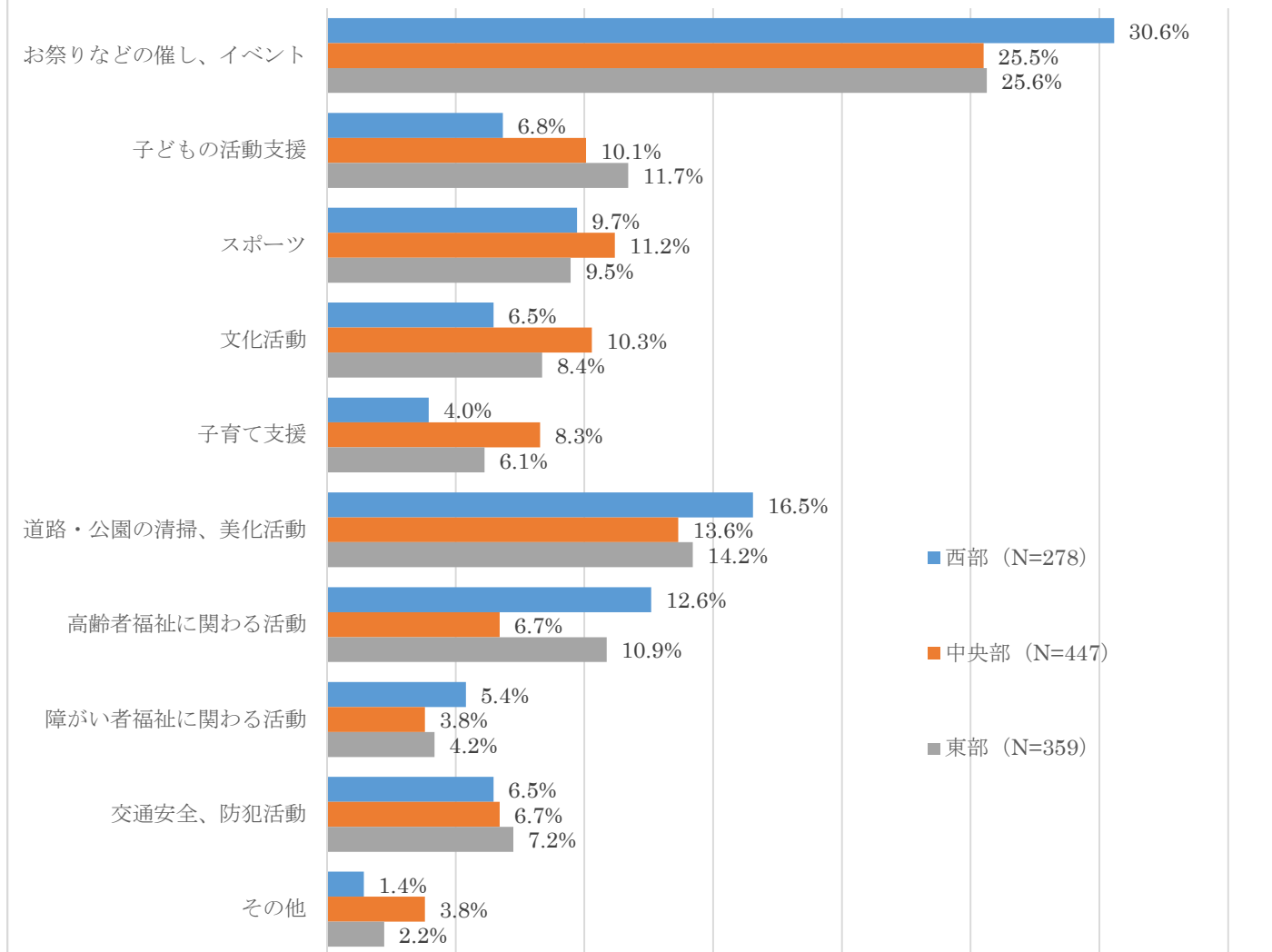
属性別にみると、男女別では、1・2位は男女ともに「お祭りなどの催し、イベント」、「道路・公園の清掃、美化活動」で変わらないものの、3位については、男性は「スポーツ」、女性は「高齢者福祉に関わる活動」となっている。



その他の主な回答

- ・ 廃品回収 ・ 環境美化（美観）活動の重視 ・ 苫小牧市コラボイベント ・ 町内会活動（役員等）
- ・ 自然保護活動 ・ 地域サロン ・ 年齢や障がい、金銭状況により参加したくても出来ない
- ・ 参加する機会がない など

今後参加したい活動【地域別】 ※複数回答可



(5) 市民・企業・行政が連携・協力して進めることが必要な事項

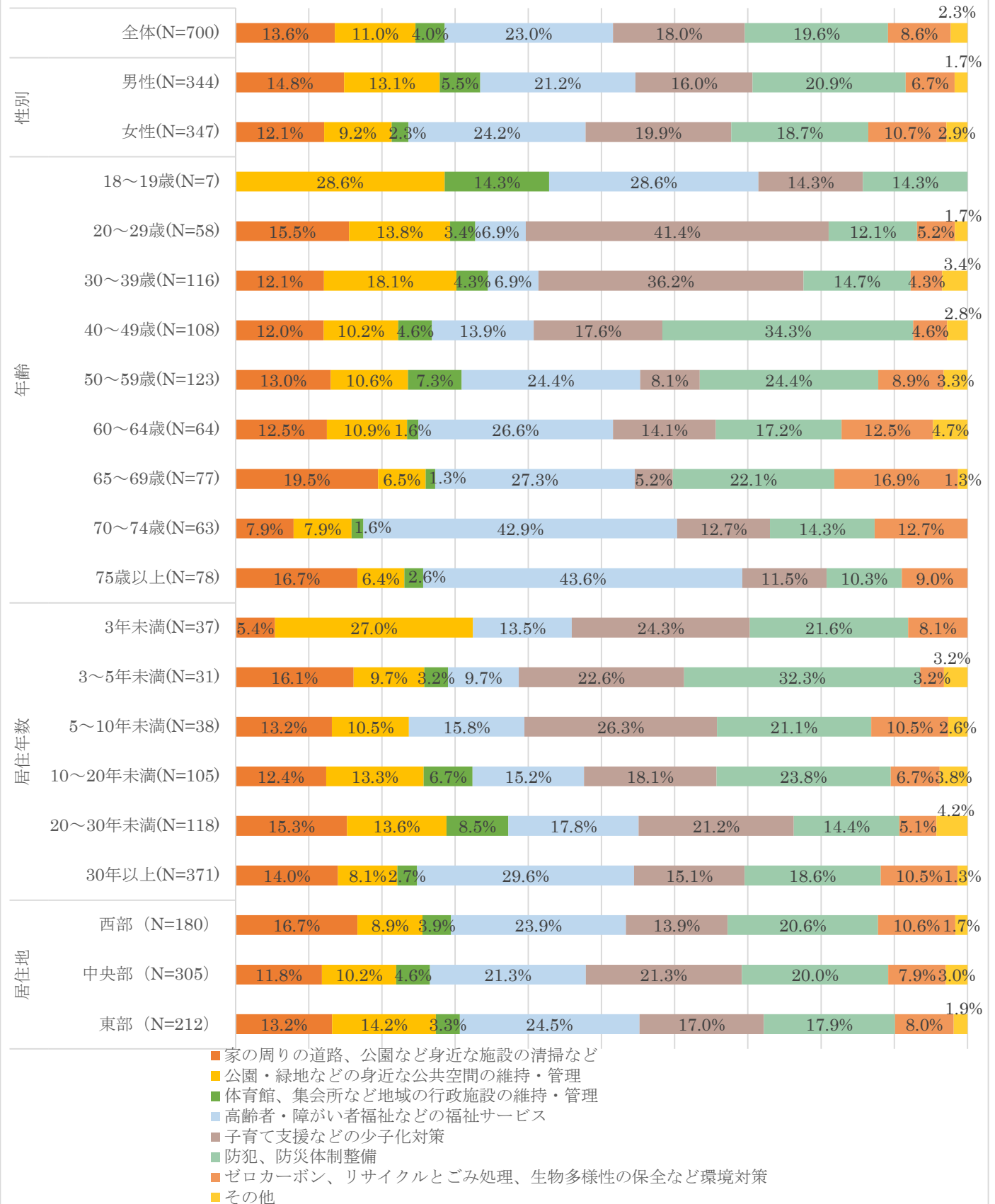
「高齢者・障がい者福祉などの福祉サービス」が23.0%で最も高く、次いで「防犯、防災体制整備」(19.6%)、「子育て支援などの少子化対策」(18.0%)となっている。

属性別にみると、年齢別では、「39歳以下」で「子育て支援などの少子化対策」が、「40～49歳」で「防犯、防災体制整備」が、「70歳以上」で「高齢者・障がい者福祉などの福祉サービス」が、それぞれ他の年齢層よりも回答割合が高くなっている。

その他の主な回答

- ・道路の整備、時差式信号機追加など
- ・医療体制の充実
- ・路肩や草むらのゴミの清掃
- ・高台を作るなど災害設備の設置
- ・動物保護の問題
- ・駅前の活性化
- ・鹿の駆除 など

市民と企業、行政の連携

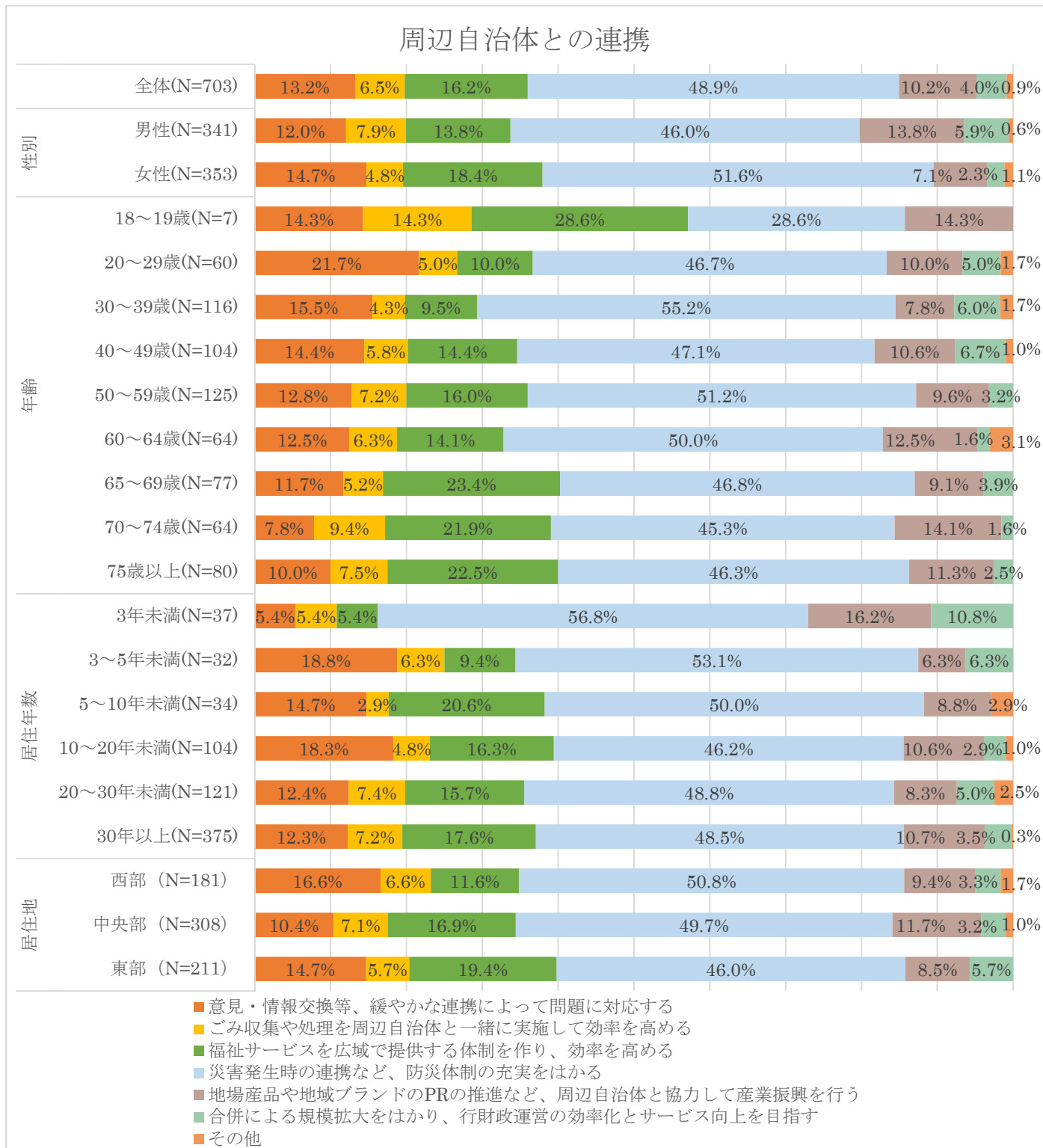


- 家の周りの道路、公園など身近な施設の清掃など
- 公園・緑地などの身近な公共空間の維持・管理
- 体育館、集会所など地域の行政施設の維持・管理
- 高齢者・障がい者福祉などの福祉サービス
- 子育て支援などの少子化対策
- 防犯、防災体制整備
- ゼロカーボン、リサイクルとごみ処理、生物多様性の保全など環境対策
- その他

(6) 本市と周辺自治体とで連携・協力が必要な事項

「災害発生時の連携など、防災体制の充実をはかる」が48.9%で最も高く、次いで「福祉サービスを広域で提供する体制を作り、効率を高める」(16.2%)となっている。

属性別にみると、年齢別では「意見・情報交換等、緩やかな連携によって問題に対応する」の回答割合が年齢層が上がるにつれて低くなり、逆に「福祉サービスを広域で提供する体制をつくり、効率を高める」の回答割合が高くなっている。



その他の主な回答

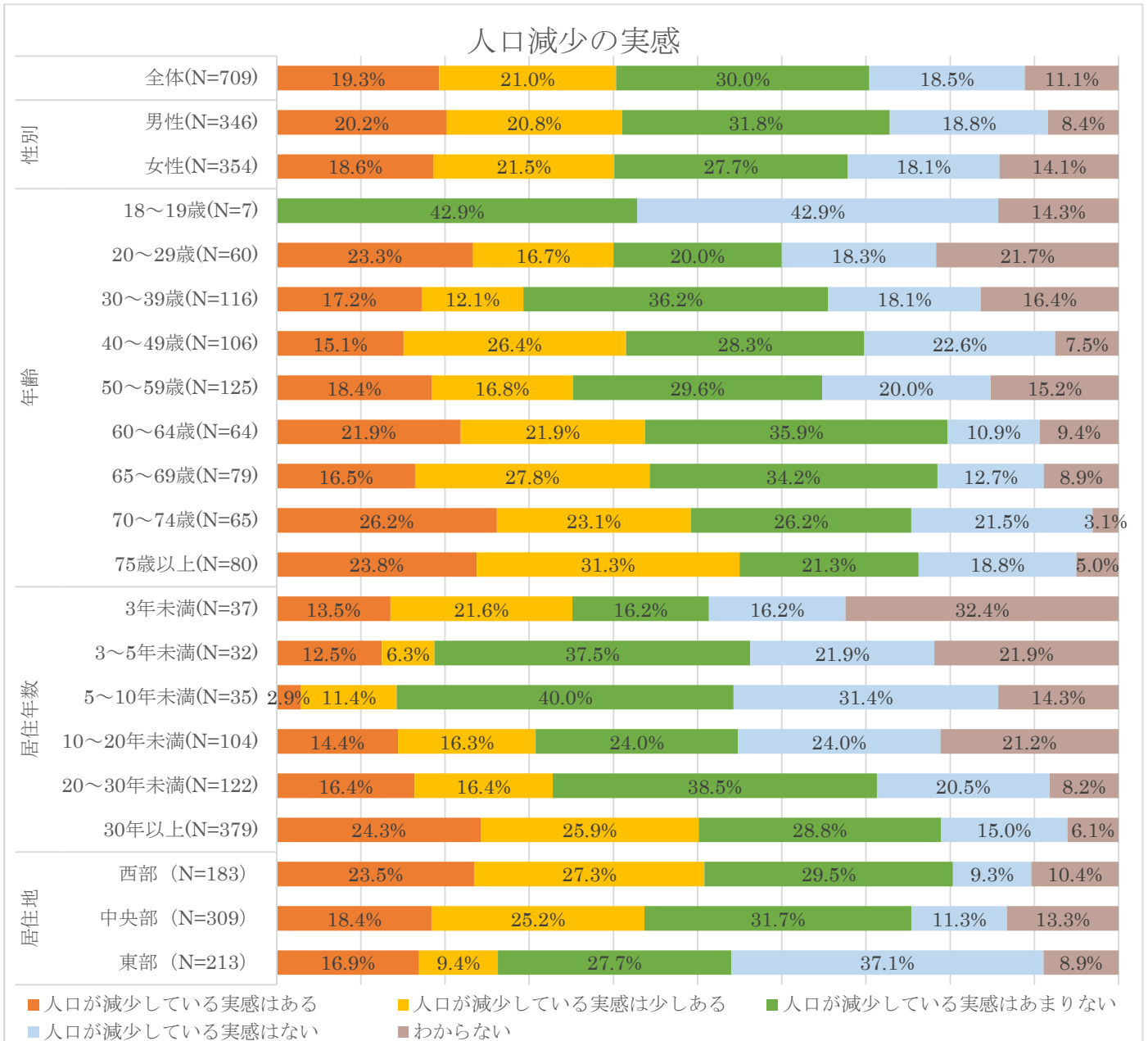
- ・猫を保護しているボランティア達に市からも助けてあげてほしい
- ・駅の近くに学校を作る。また、若い年代のための場所を作り学生などの若い年代を増やす
- ・苫小牧へ通う近隣町村の高校生の末永い足の確保 など

(7) 人口減少について

ア 人口減少の実感

人口減少の実感について、「実感はある」との回答（「実感はある」＋「少し実感はある」）は40.3%、「実感はない」との回答（「あまり実感はない」＋「実感はない」）は48.5%となっており、全体では若干「実感はない」の回答が高い。

居住地別にみると、東に行くほど「実感はある」との回答（「実感はある」＋「少し実感はある」）が少なくなり、「東部」では「実感はない」との回答（「あまり実感はない」＋「実感はない」）が6割を超えており、地域によって人口減少の実感に対し大きな差がある。



イ 人口減少による影響

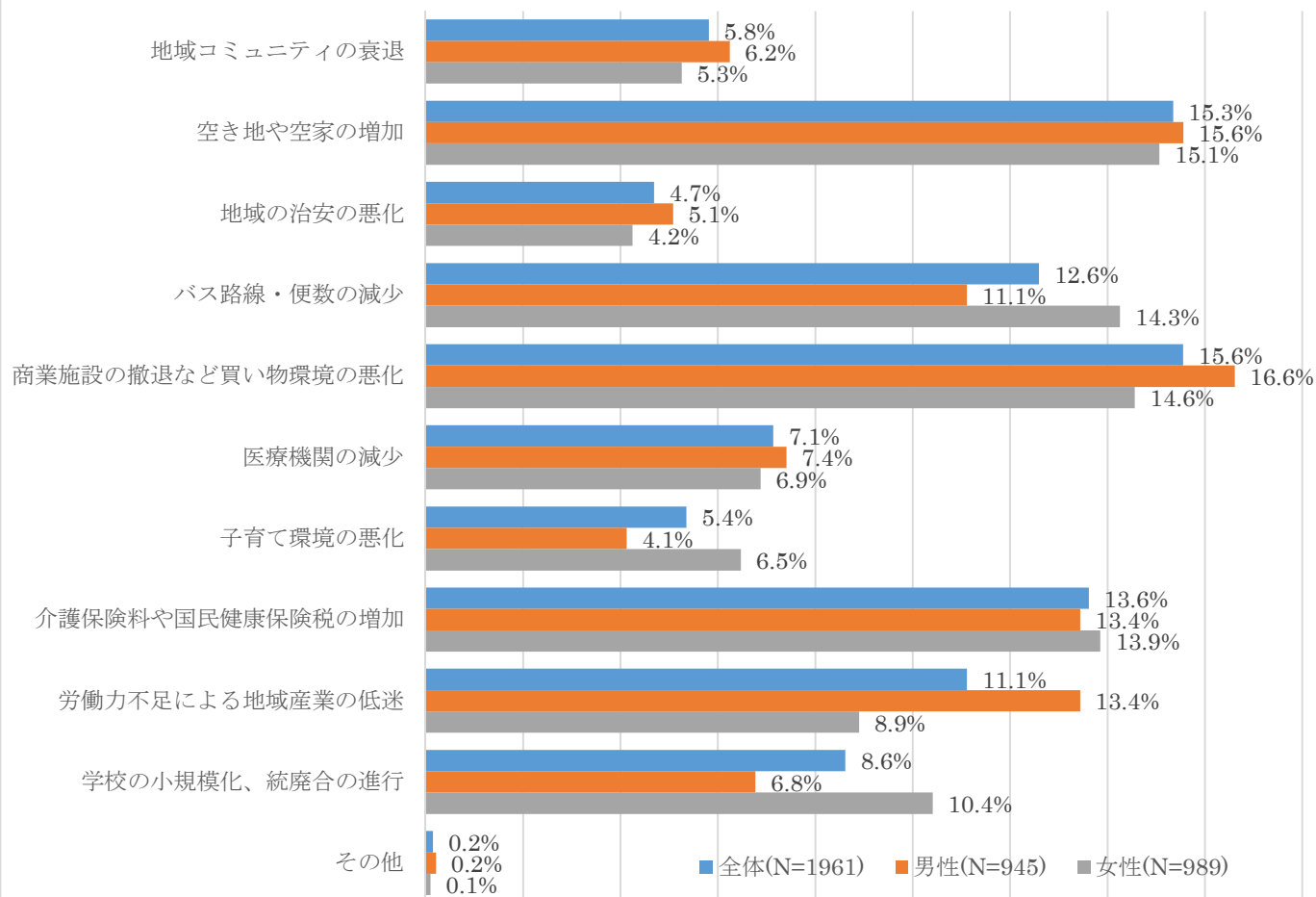
人口減少の影響について懸念することは、「商業施設の撤退など買い物環境の悪化」が15.6%で最も高く、次いで「空き地や空き家の増加」(15.3%)、となっている。

居住地別にみると、西に行くほど「空き地や空き家の増加」に対する回答が高くなっており、「中央部」では他の地域に比べて「バス路線の・便数の減少」が低くなっている。

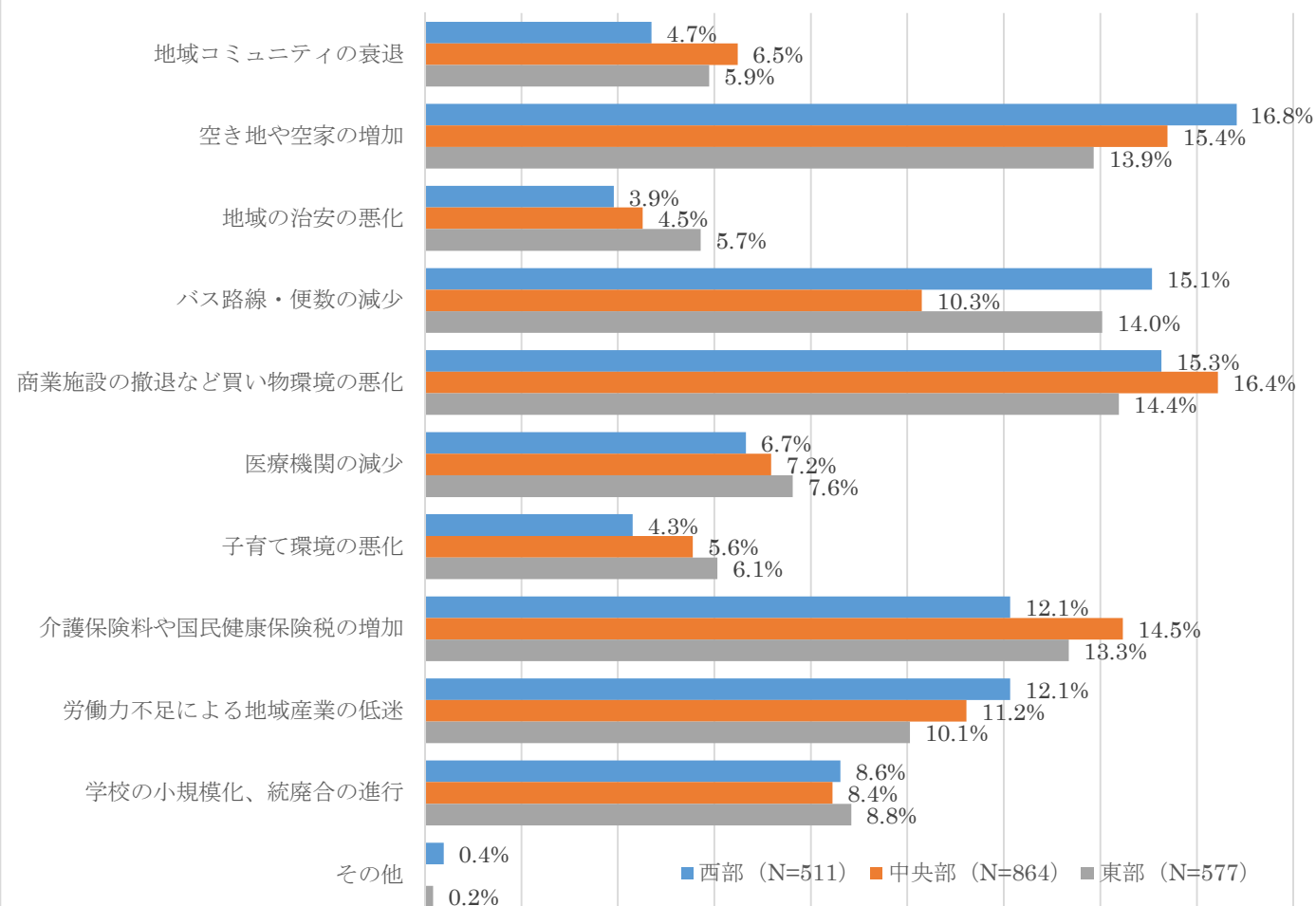
その他の主な回答

・介護・福祉施設の職員減少 ・パチンコ店の増加 ・若者の意識、価値観の相違 など

人口減少の影響【男女別】 ※複数回答可



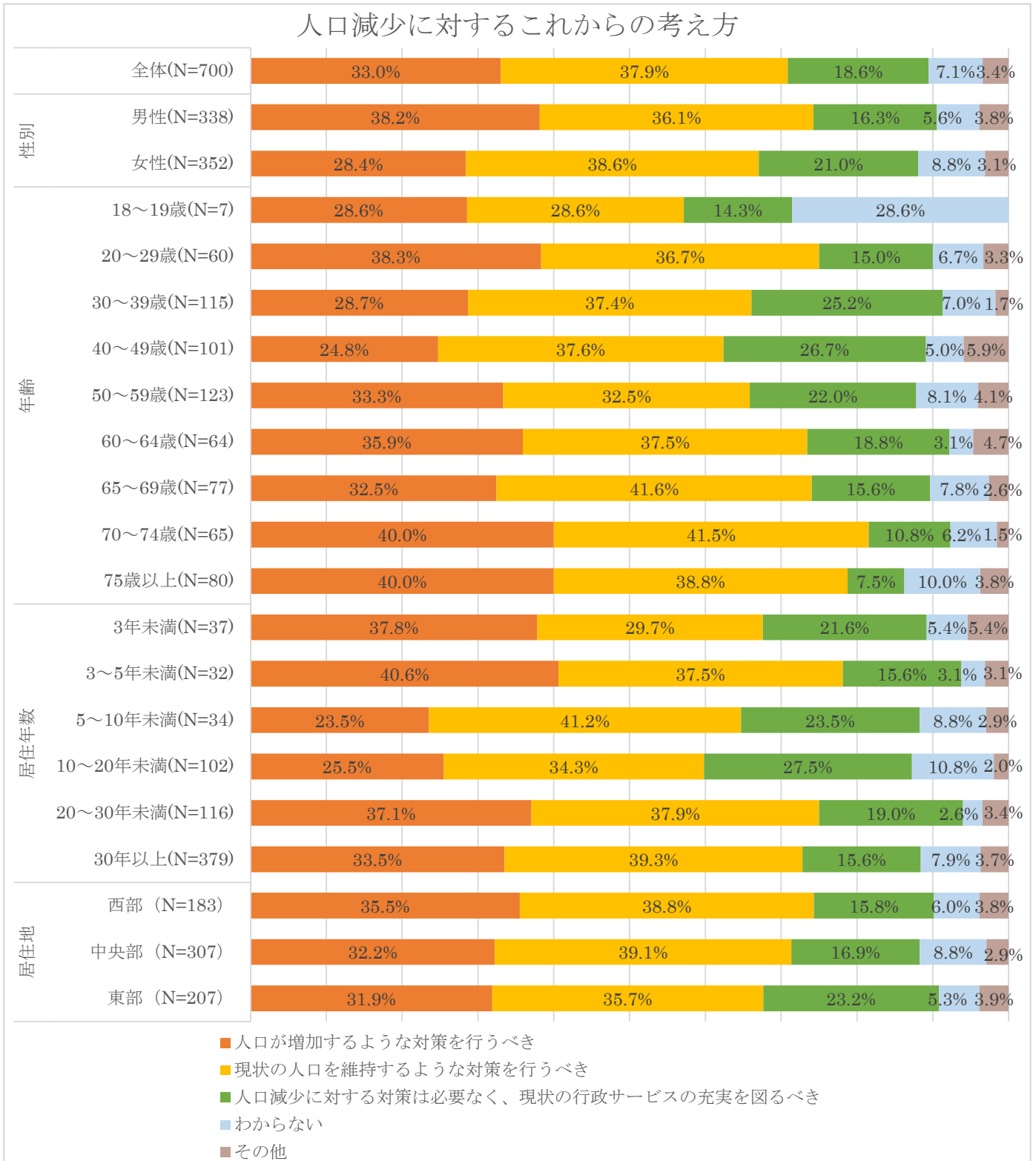
人口減少の影響【地域別】 ※複数回答可



ウ 人口減少に対する施策のあり方

人口対策に対する考え方は、「現状の人口を維持するような対策を行うべき」が37.9%、「人口が増加するような対策を行うべき」が33.0%と、現状の人口を維持もしくは増加すべきとの意見が7割を超える。

属性別にみると、男女別では、「人口増加対策」に対する回答が男性で高くなっている。年齢別では、「40～49歳」で「人口増加対策」に対する回答が低く、「人口減少に対する対策は必要なく、現状の行政サービスの充実を図るべき」が高くなっている。



その他の主な回答

- ・西部と東部の人口バランスをとること ・少子化対策 ・苫小牧全体で満遍なく定住できる対策
- ・人口減・高齢化を前提にした施策
- ・行政サービスの充実を図りながら現状を維持し、将来的には増加を図る対策を行うべき
- ・人口増減がどうこうの前に、それに関わってくる子育て環境の改善を図るべき
- ・安心して暮らせる医療・仕事 ・子どもなど、若年層の増加
- ・夏に涼しいので、避暑地として短期滞在の人口増を目指す
- ・人口の増減に左右されない対策をするべき など

エ 人口増加対策の重点施策

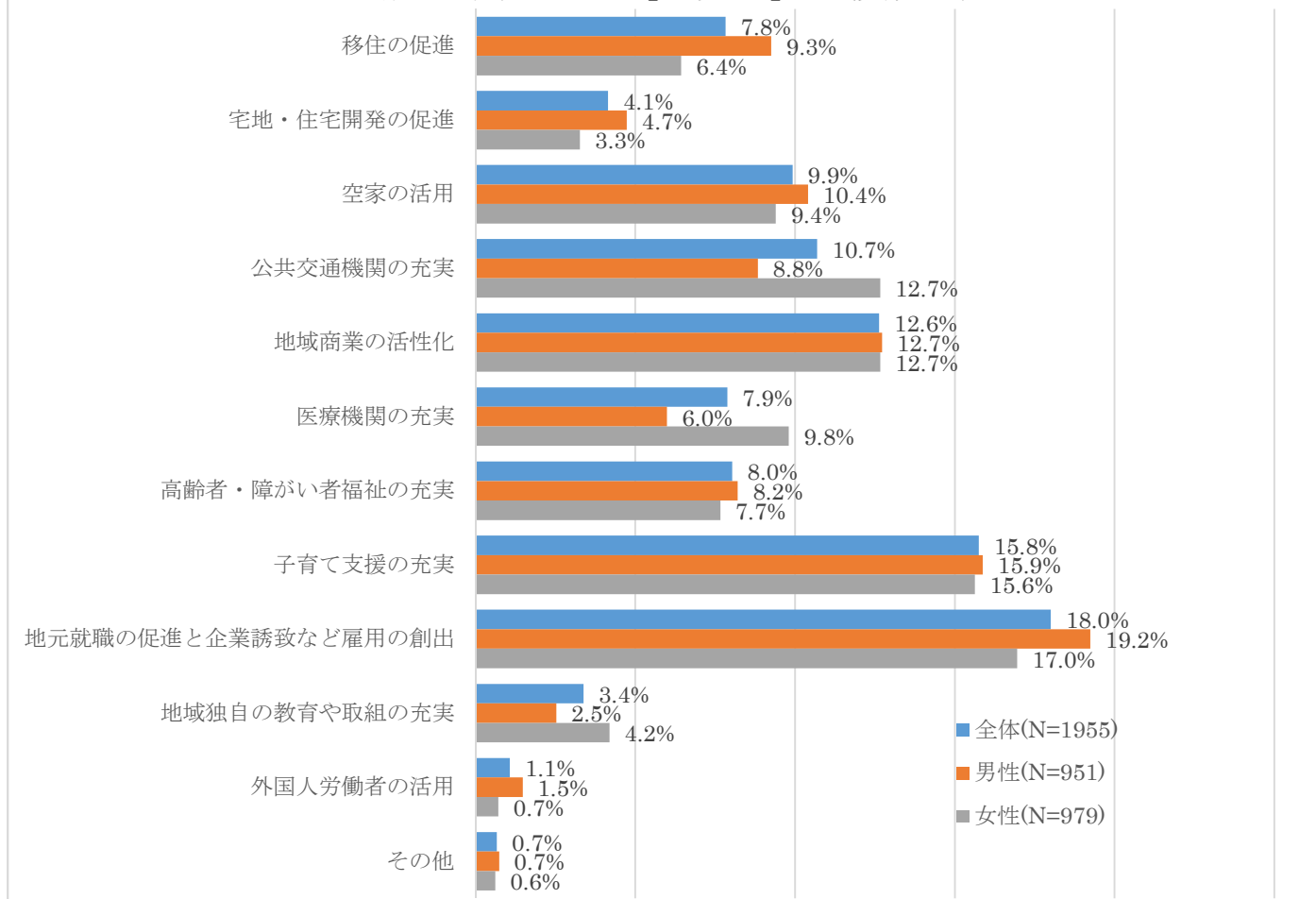
人口増加対策に取り組むとした場合、重点を置くべき対策については、「地元就職の促進と企業誘致など雇用の創出」が18.0%で最も高く、次いで「子育て支援の充実」(15.8%)、「地域商業の活性化」(12.6%)となっている。

属性別にみると、男性は「地元就職の促進と企業誘致など雇用の創出」が高くなっており、女性は「公共交通機関の充実」が高くなっている。地域別では「西部」で「高齢者・障がい者福祉の充実」が、「中央部」で「子育て支援の充実」と「地元就職の促進と企業誘致など雇用の創出」が、「東部」で「公共交通機関の充実」が、それぞれ他の地域に比べて高くなっている。

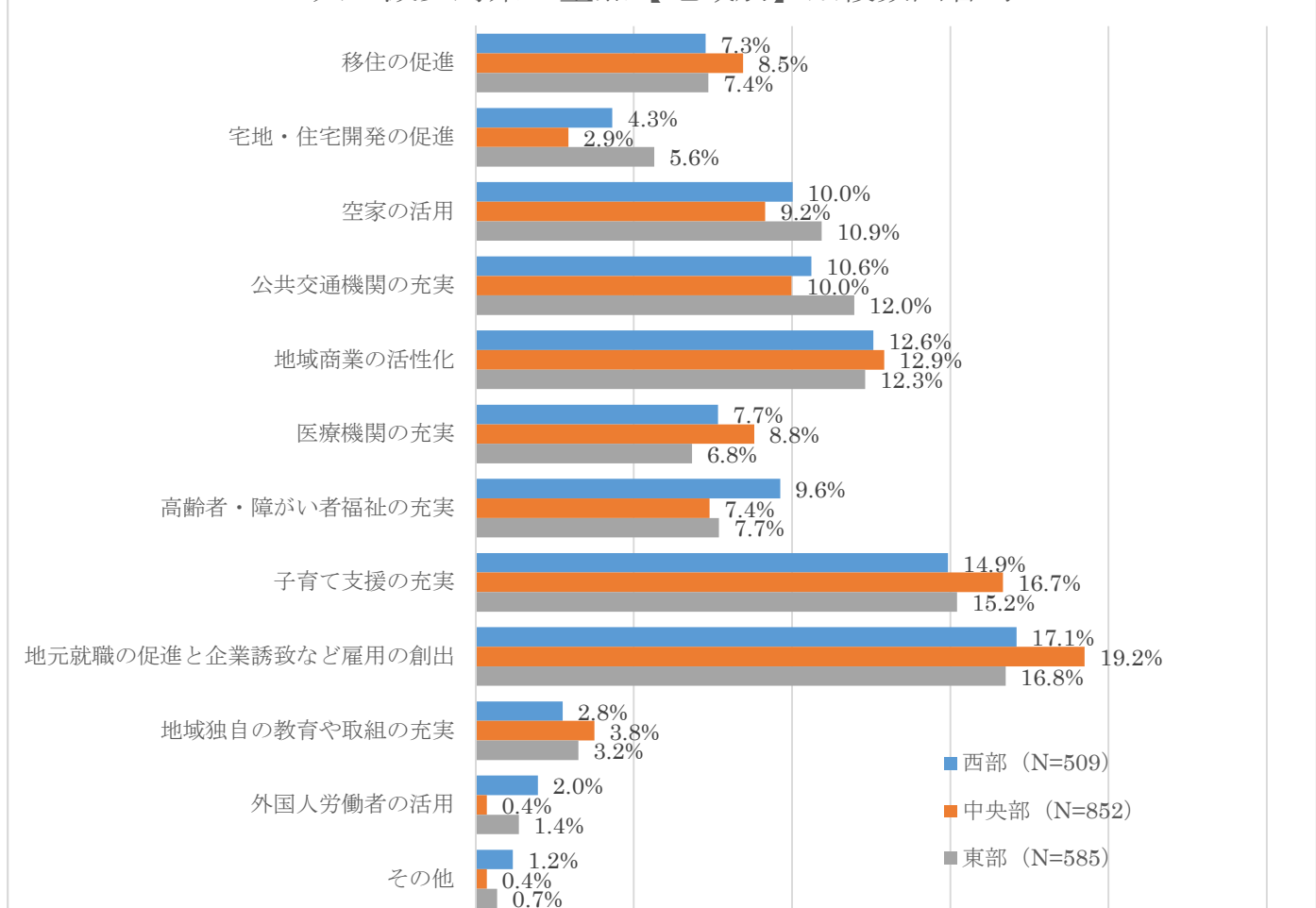
その他の主な回答

- ・毎日の買い物生活圏の充実 ・小・中・高の教育の高度化 ・駅前の整備
- ・特産物のPR、提供の場 ・若年家族を助ける環境づくり
- ・子育て支援の充実（赤ちゃんにかかる費用（おむつ、ミルク、病院）の無料化）
- ・効率・合理化などAIの活用。他には真似できない産業の創設可能な都市づくり。人材の集結
- ・自然を活かしたリゾート等の企業誘致 など

人口減少対策の重点【男女別】 ※複数回答可



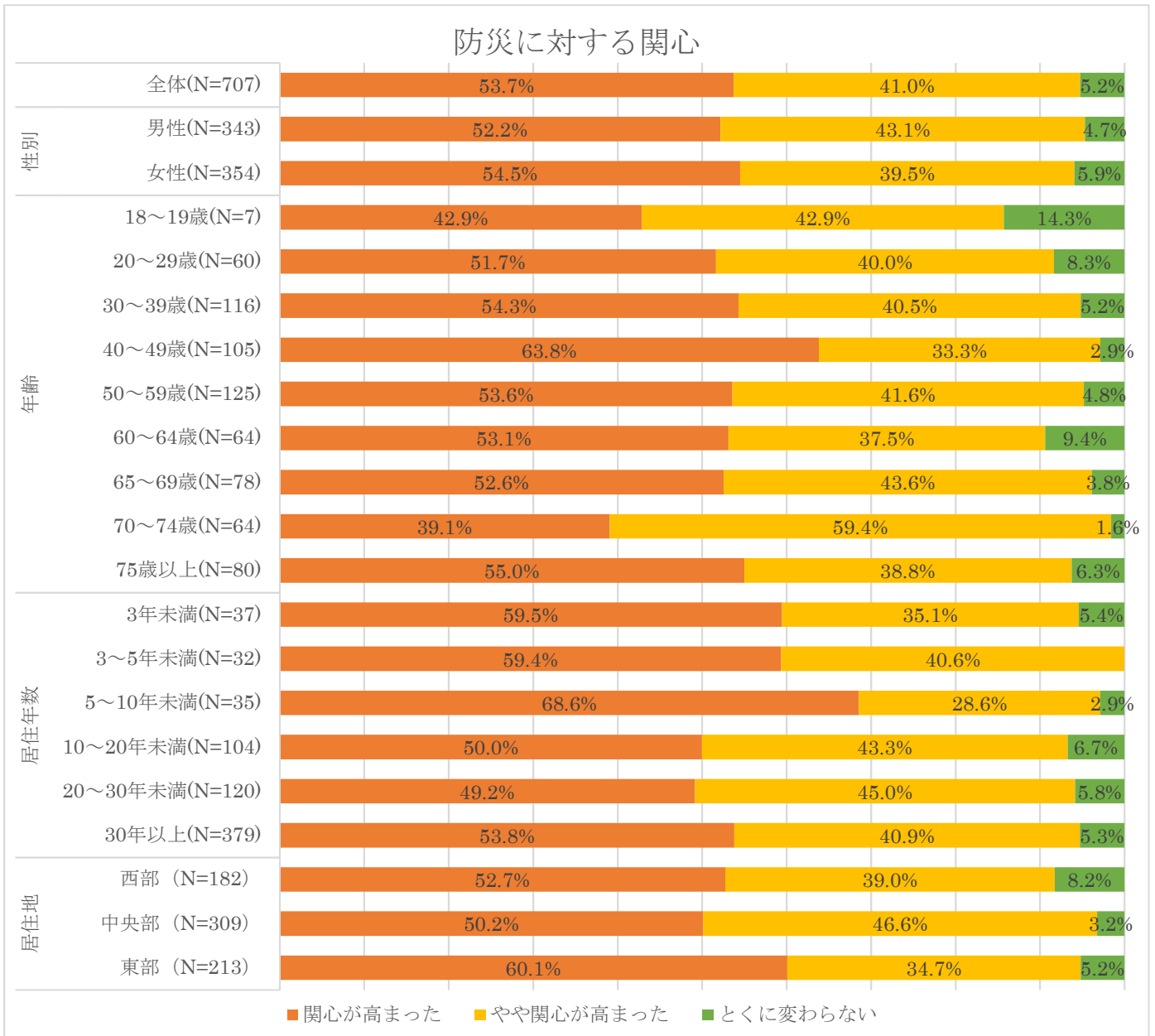
人口減少対策の重点【地域別】 ※複数回答可



(8) 防災について

ア 胆振東部地震や東日本大震災の発生による、防災対策への関心度の変化

「関心が高まった」、「やや関心が高まった」と合わせて全体の94.7%が関心が高まったと回答している。



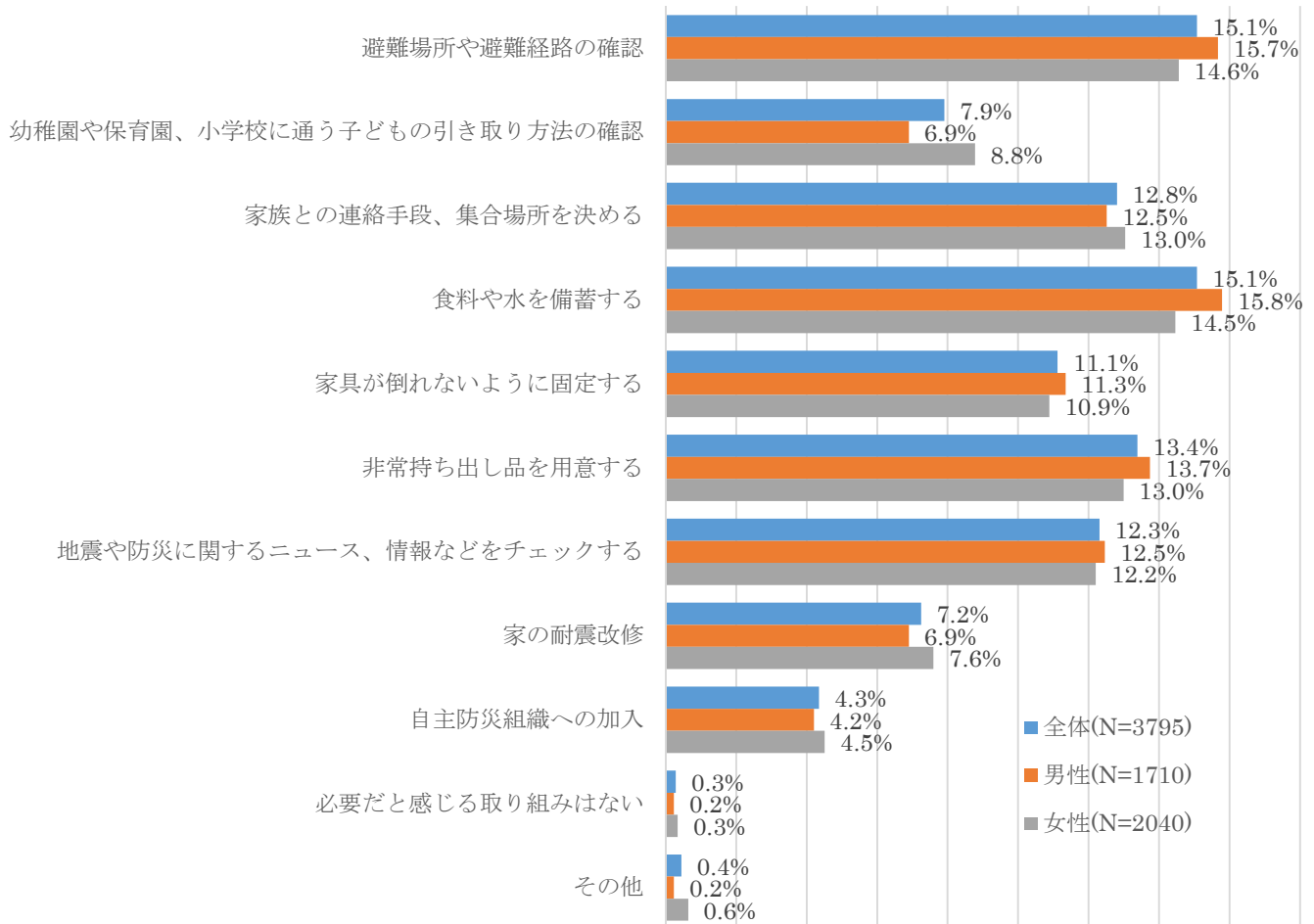
イ ご自身で必要と感じる防災対策

ご自身で対応が必要だと感じる準備、対策については、回答割合が高い順に「避難場所や避難経路の確認」(15.1%)、「食料や水を備蓄する」(15.1%)、「非常持ち出し品を用意する」(13.4%)、「家族との連絡手段、集合場所を決める」(12.8%)、「地震や防災に関するニュース、情報などをチェックする」(12.3%)となっている。

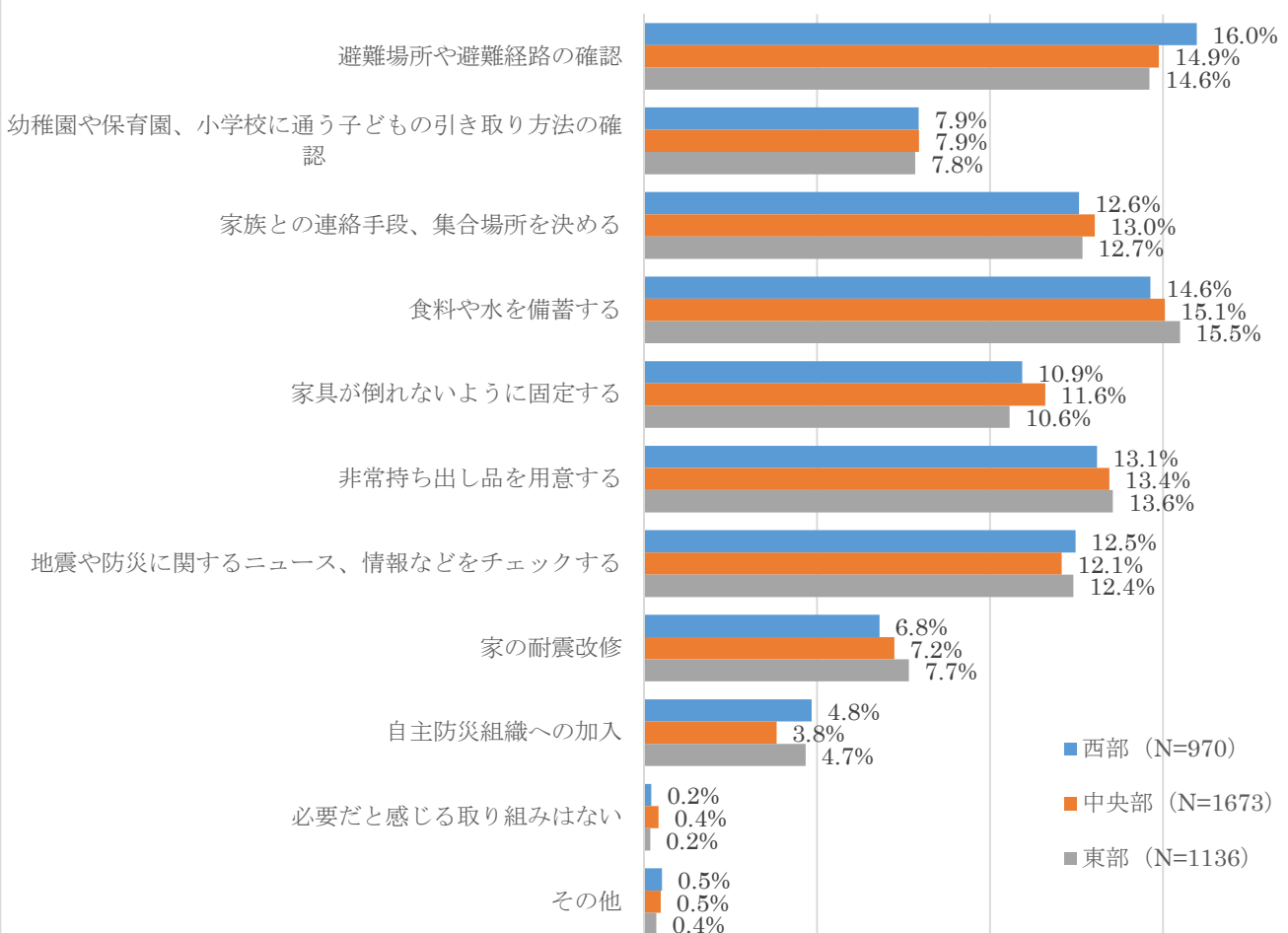
その他の主な回答

- ・危険なもの、場所等の確認 ・暖房の確保 ・自家用車のガソリン確保 ・行政の情報発信
- ・停電時の対策 ・災害時の防犯対策 ・ハザードマップの確認 ・発電機、電池など購入 など

必要な対策【男女別】 ※複数回答可



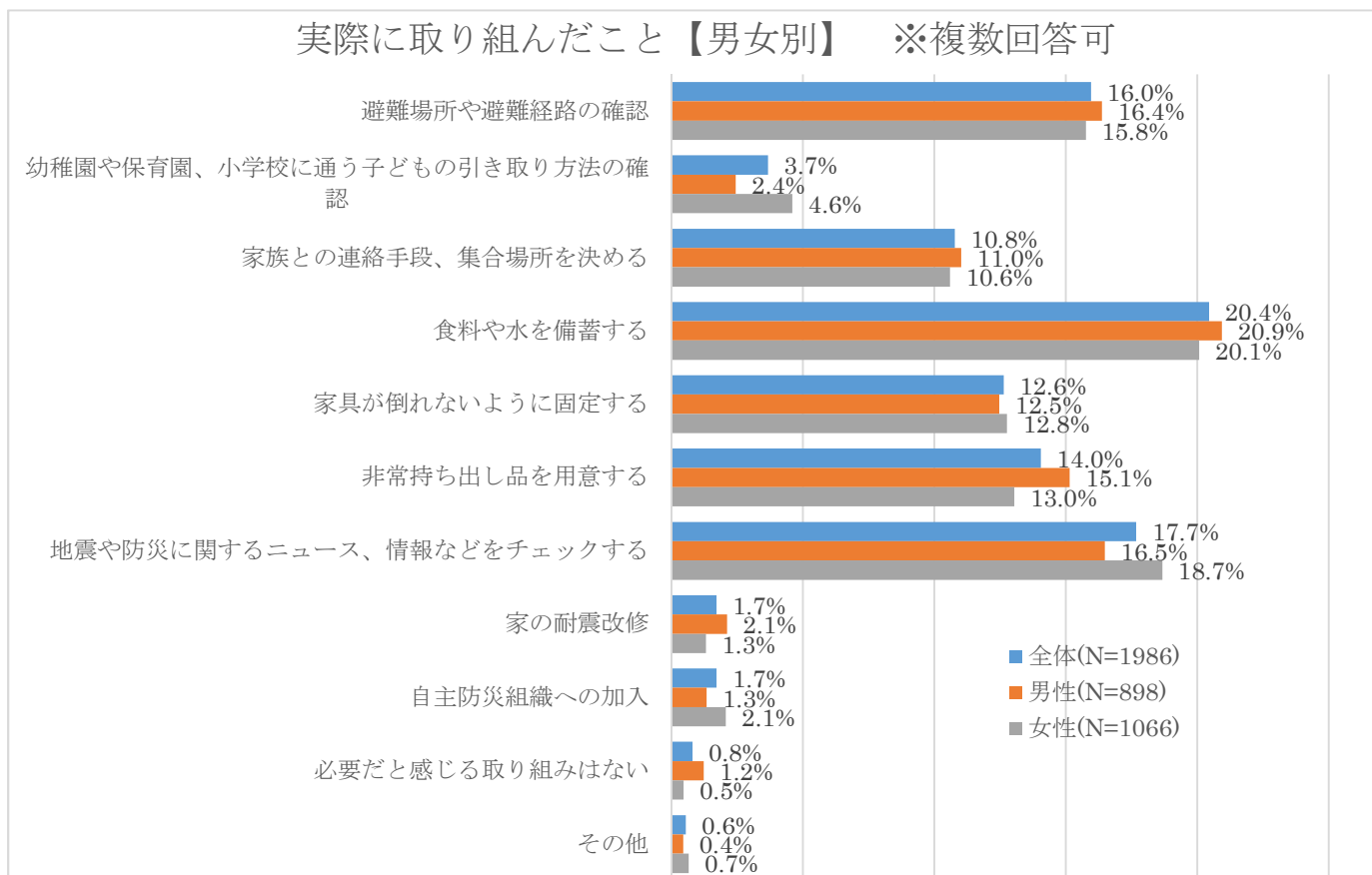
必要な対策【地域別】 ※複数回答可



ウ 実際に取り組んだ防災対策

実際に取り組んだ防災対策については、「食料や水を備蓄する」が20.4%で最も高く、次いで「地震や防災に関するニュース、情報などをチェックする」(17.7%)、「避難場所や避難経路の確認」(16.0%)、「非常持ち出し品を用意する」(14.0%)、となっている。

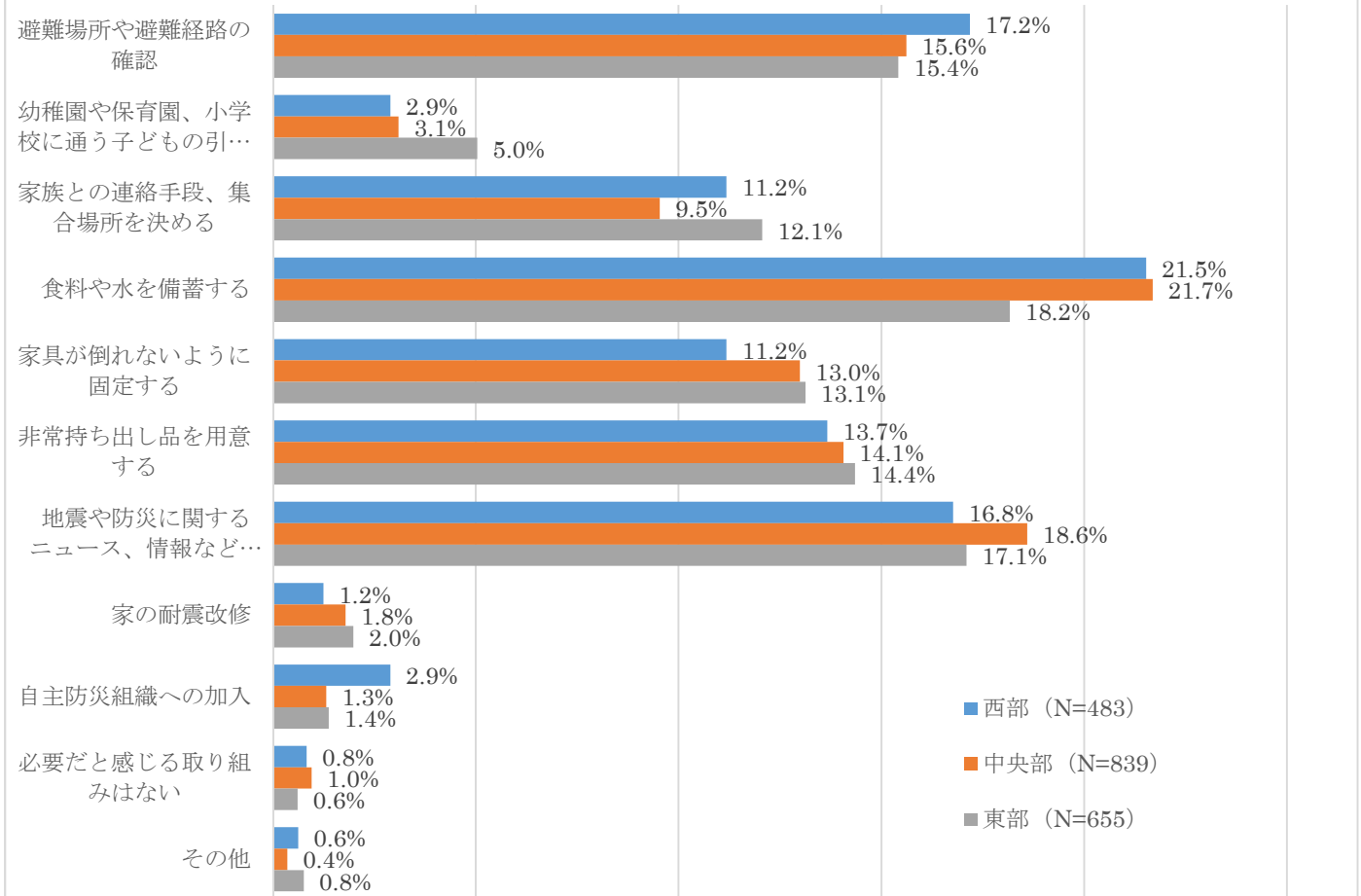
地域別に1位の回答をみると、全地域で「食料や水を備蓄する」となっている。2位の回答を見ると、「西部」が「避難場所や避難経路の確認」、「中央部」「東部」が「地震や防災に関するニュース、情報などをチェックする」となっている。



その他の回答

- ・暖房器具の購入
- ・自家用車のこまめな給油
- ・職場での危機対応マニュアルの策定
- ・蓄電池の購入
- ・停電時の対策
- ・災害時の防犯対策
- ・1か月に一度、防災避難訓練の実施。
- ・発電機、電池、ストーブなど購入 など

実際に取り組んだこと【地域別】 ※複数回答可



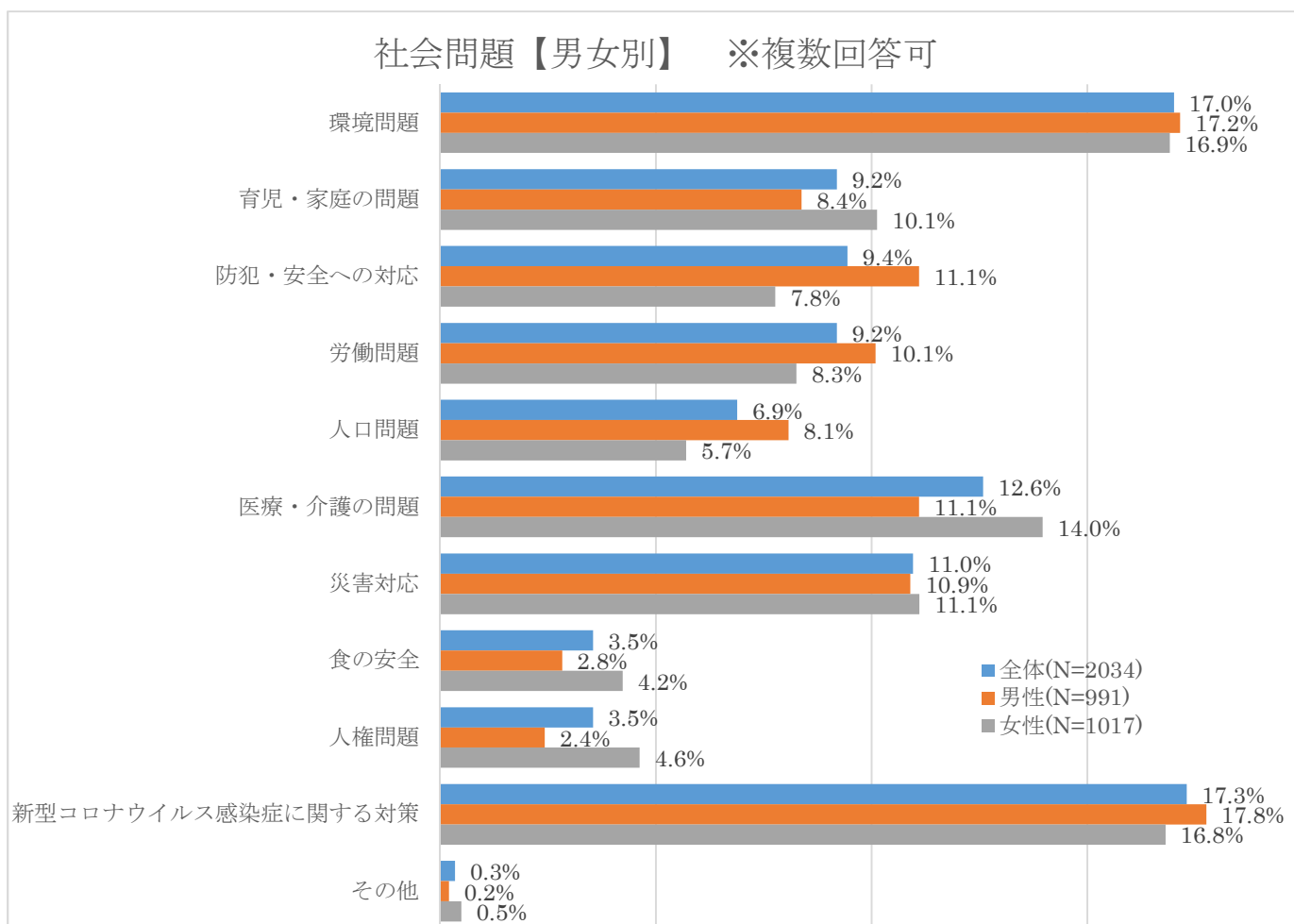
(9) 関心が高い社会問題（社会現象）について

関心が高い社会問題については、「新型コロナウイルス感染症に関する対策」が17.3%で最も高く、次いで「環境問題」（17.0%）、「医療・介護の問題」（12.6%）、「災害対応」（11.0%）となっている。

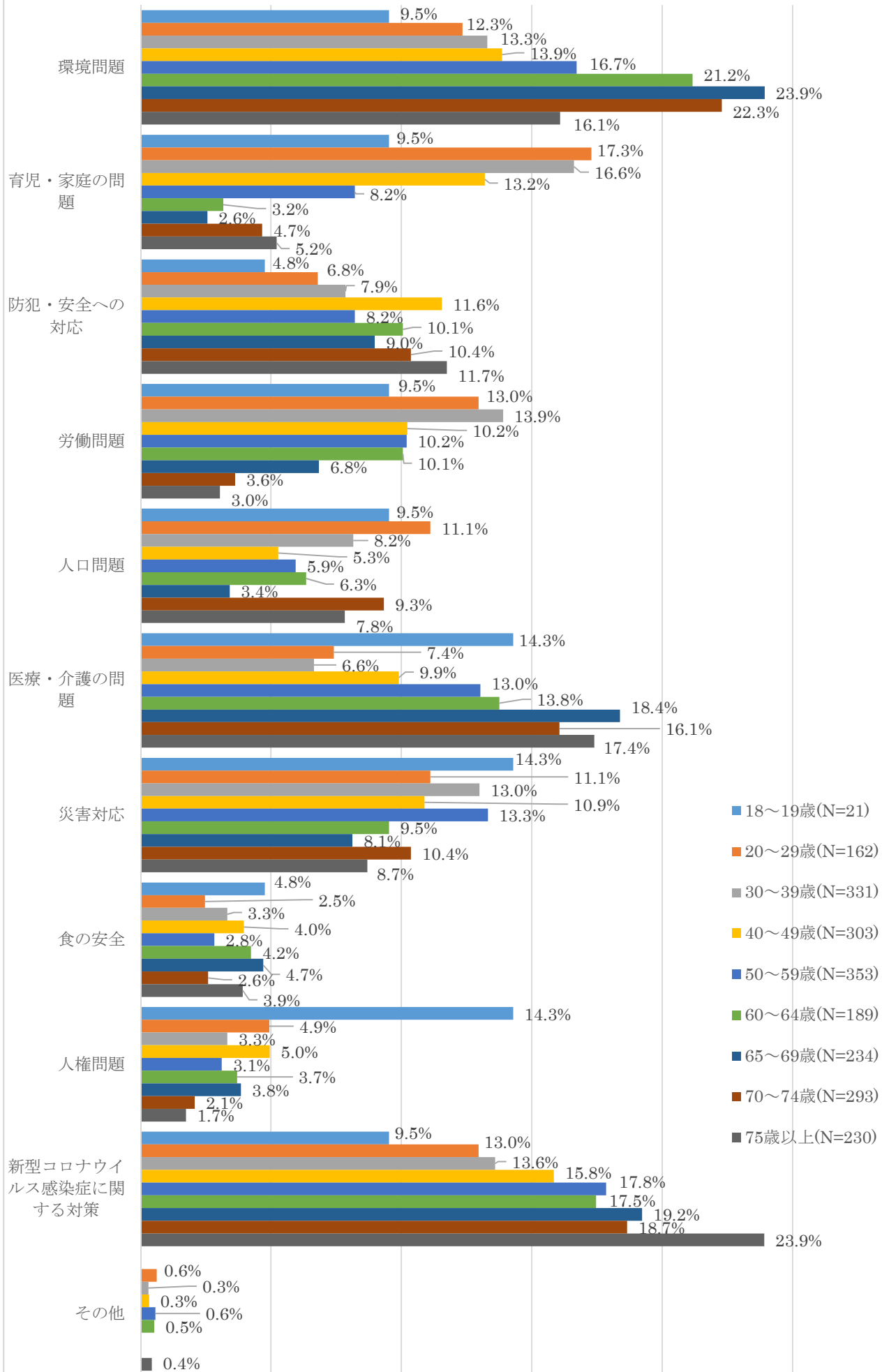
年齢別に回答割合の高い項目をみると、「49歳以下」では「育児・家庭の問題」、「50歳以上」では「環境問題」や「医療・介護の問題」となっている。なお、「新型コロナウイルス感染症に関する対策」については、年齢が高くなるほど関心も高まっている。

その他の主な回答

- ・行政のデジタル化
- ・育児・家庭の問題（ベビーシッター制の導入）
- ・税金の使い道
- ・障がい者への福祉を充実してほしい
- ・国際情勢、国家安全
- ・過剰な水際対策による、留学生・技能実習生など外国人への差別政策
- ・特になし



社会問題【年齢別】 ※複数回答可



(10) 北洋大学（旧苫小牧駒澤大学）について

ア 北洋大学のイメージ

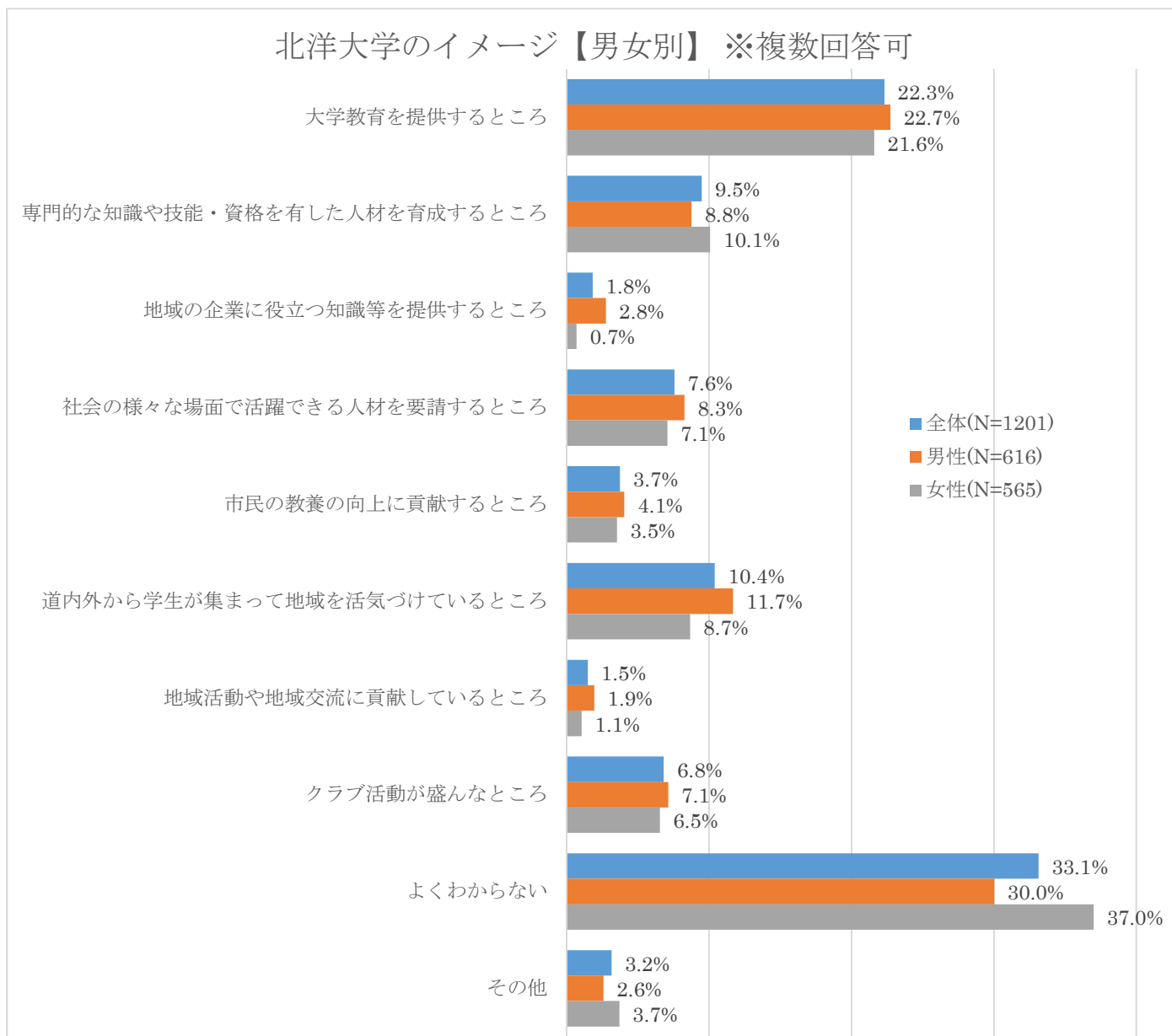
「北洋大学」のイメージとしては、「よくわからない」が33.1%で最も高く、次いで「大学教育を提供するところ」(22.3%)、「道内外から学生が集まって地域を活気づけているところ」(10.4%)、「専門的な知識や技能・資格を有した人材を育成するところ」(9.5%)となっている。

年齢別にみると、「65歳～69歳」「70歳～74歳」では、「大学教育を提供するところ」が最も高くなっており、「75歳以上」では「大学教育を提供するところ」が最も高く、次いで「道内外から学生が集まって地域を活気づけているところ」となっている。

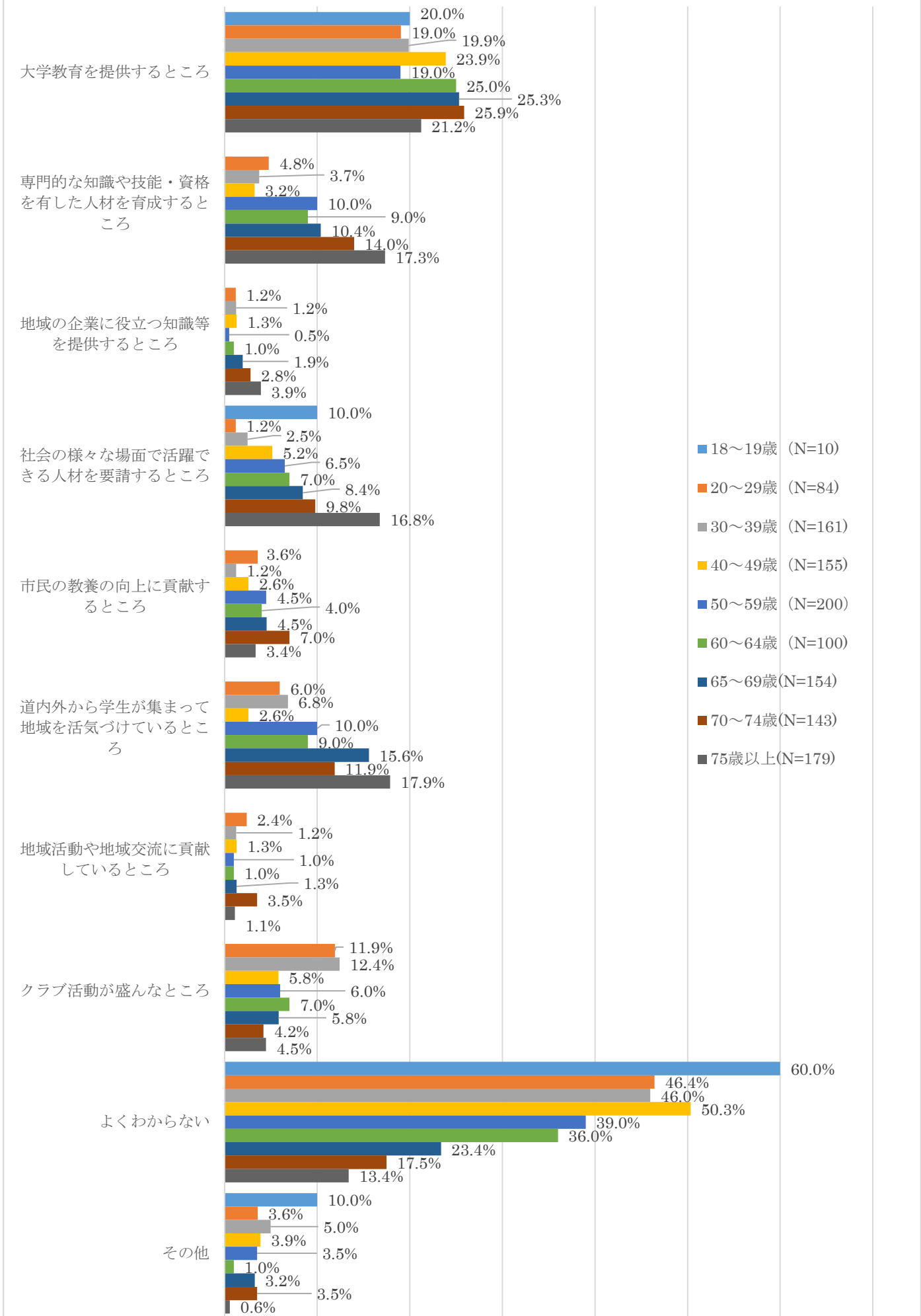
その他の主な回答

- ・ イベント会場に使用されていた ・ 外国人がいっぱいいる ・ 「駒大」名称がなくなって残念
- ・ 海洋学がメインかな？ ・ 交換留学生 ・ 学部がすくない ・ ファイターズの伊藤大海さんがいたところ
- ・ 苫小牧市の中央にないこと など

北洋大学のイメージ【男女別】 ※複数回答可



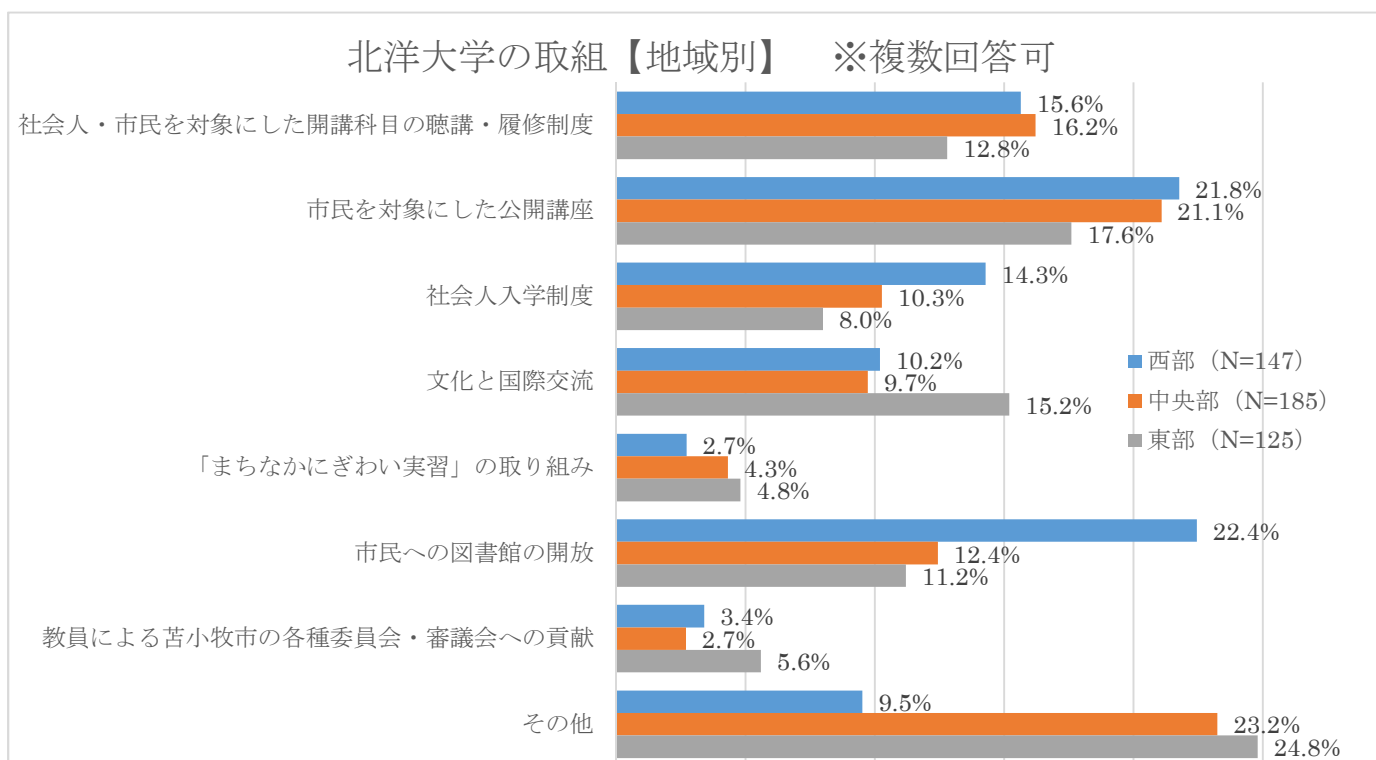
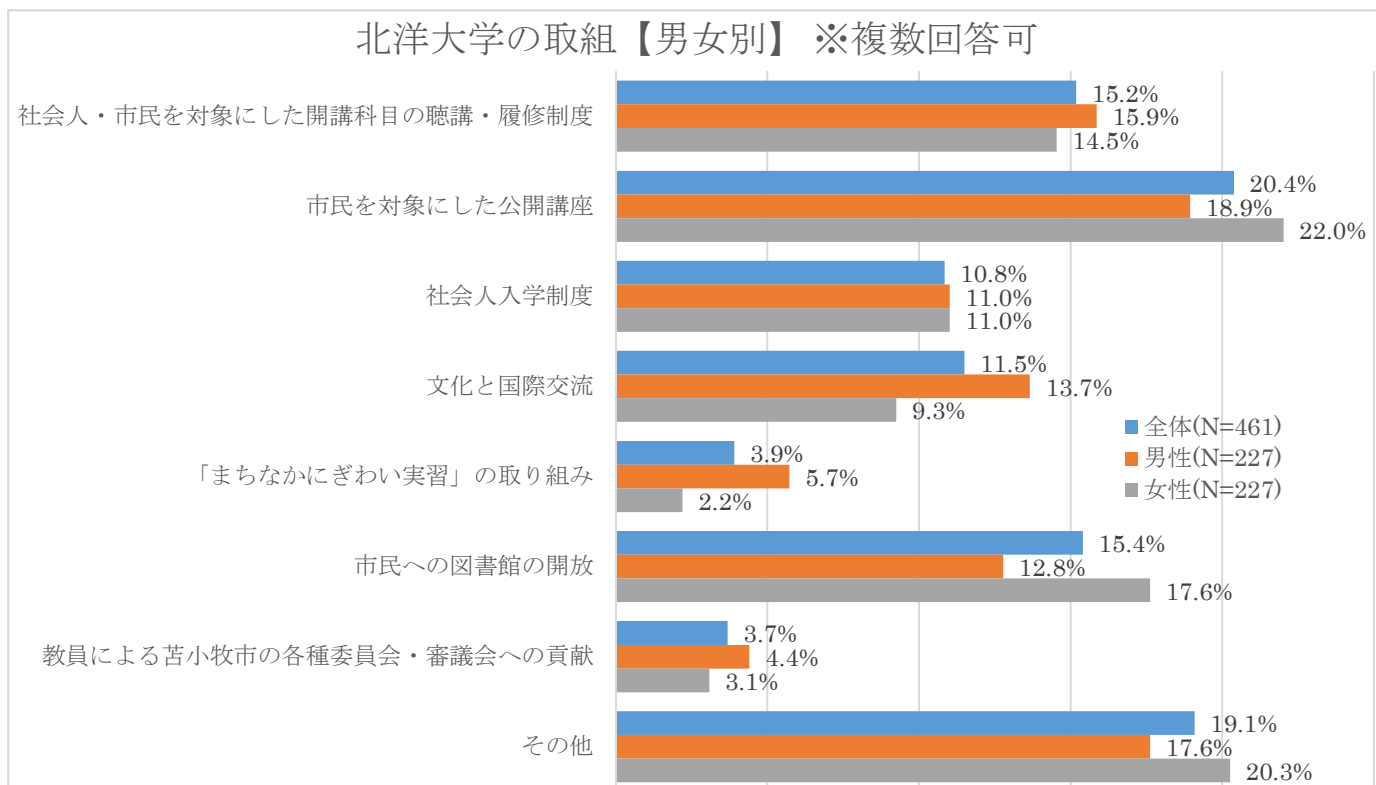
北洋大学のイメージ【年齢別】 ※複数回答可



イ 北洋大学が実施している生涯学習活動や地域連携活動の認知度

「北洋大学」が実施している生涯学習活動や地域連携活動の認知については、「市民を対象にした公開講座」が20.4%で最も高く、次いで「市民への図書館開放」(15.4%)、「社会人・市民を対象にした開講科目の聴講・履修制度」(15.2%)、となっている。

居住地域別にみると、大学に近い「西部」ではどの項目も比較的高めとなっている。また、「文化と国際交流」は「東部」が他の地域に比べて高くなっている。



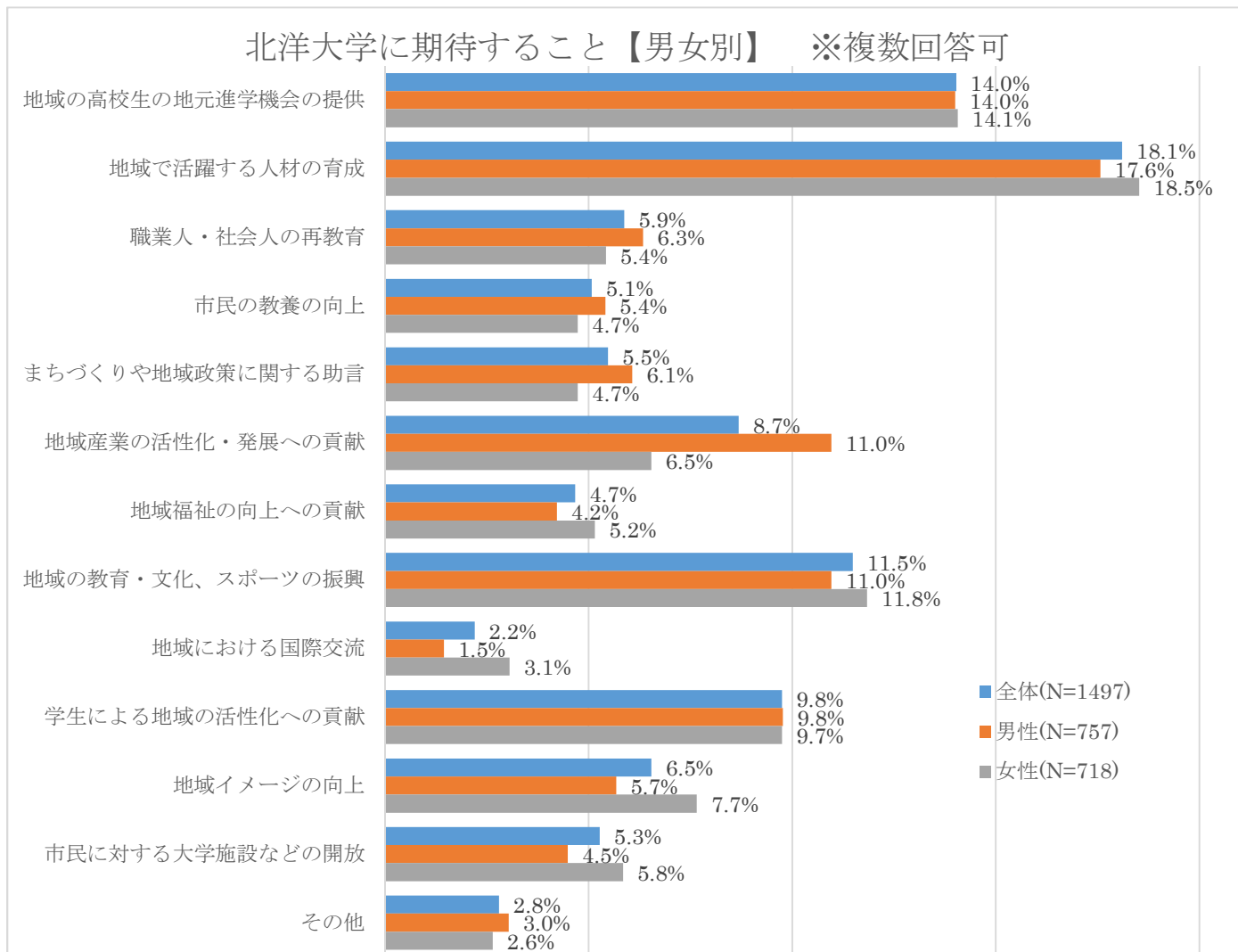
その他の主な回答

- ・情報が足りていない ・市民にあまり広報していない ・講座が少ない
- ・あまりにも遠すぎていけない。バスの便が悪い。北洋大学で資格を取る学科多くしてほしい。 など

ウ 北洋大学に期待すること

「北洋大学」に期待することとしては、「地域で活躍する人材の育成」が18.1%で最も高く、次いで「地域の高校生の地元進学機会の提供」(14.0%)、「地域の教育・文化・スポーツの振興」(11.5%)となっている。

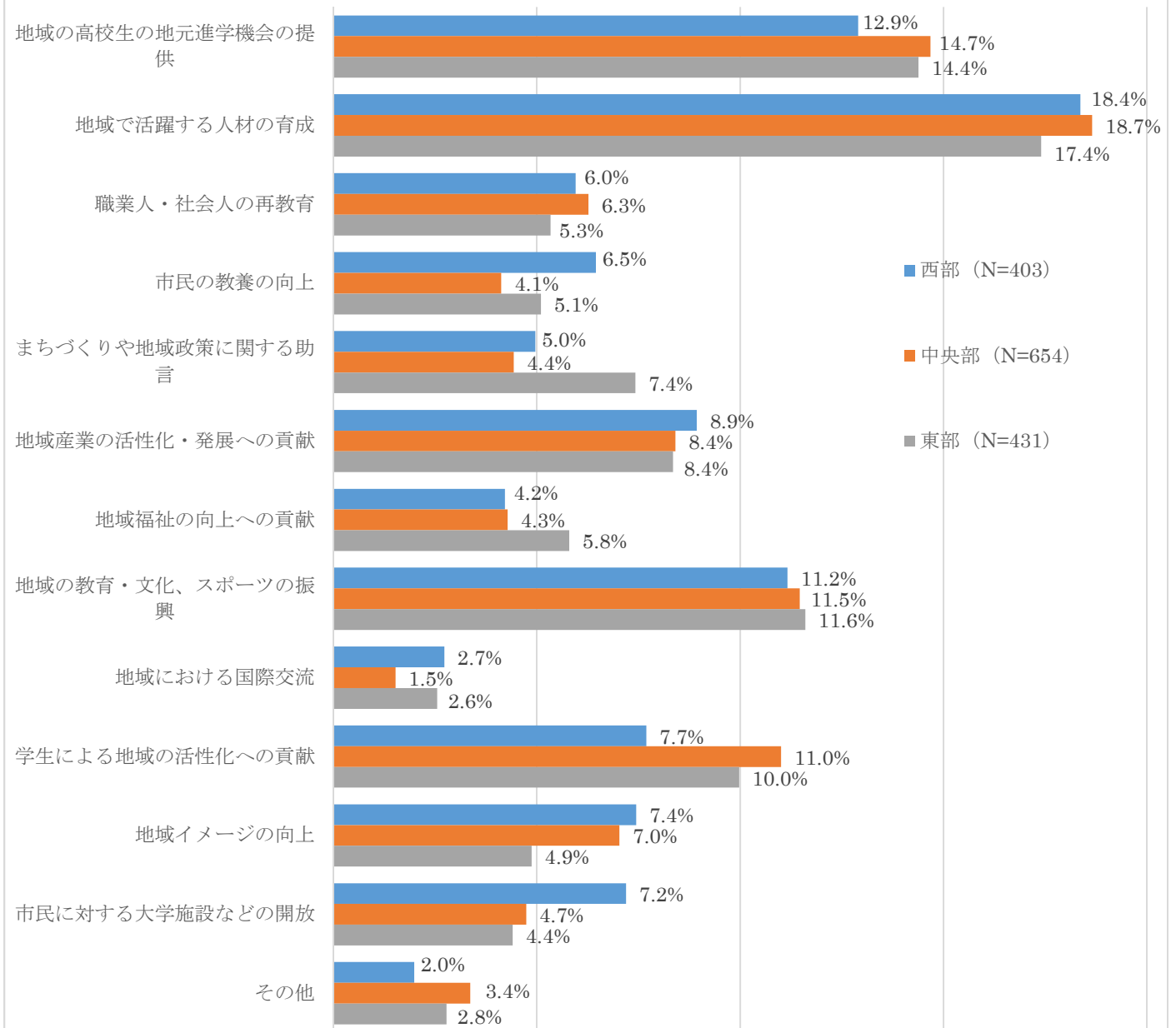
地域別にみると、「西部」では「市民に対する大学施設などの開放」が、「中央部」では「学生による地域の活性化への貢献」が、「東部」では「まちづくりや地域政策に対する助言」が類化の地域より高くなっている。



その他の主な回答

- ・ 地元で活躍できるエンジニアの排出 ・ 資格等を活かし大企業へ就職できるようなレベルアップな教育
- ・ 医療・介護の人材育成 ・ 短命な大学ではなく末永く存在してほしい
- ・ 卒業後、独立できるように教育するべき ・ 地域産業との合同企画 など

北洋大学に期待すること【地域別】 ※複数回答可



(11) 大切にしたい本市の個性・魅力

ア 本市の個性

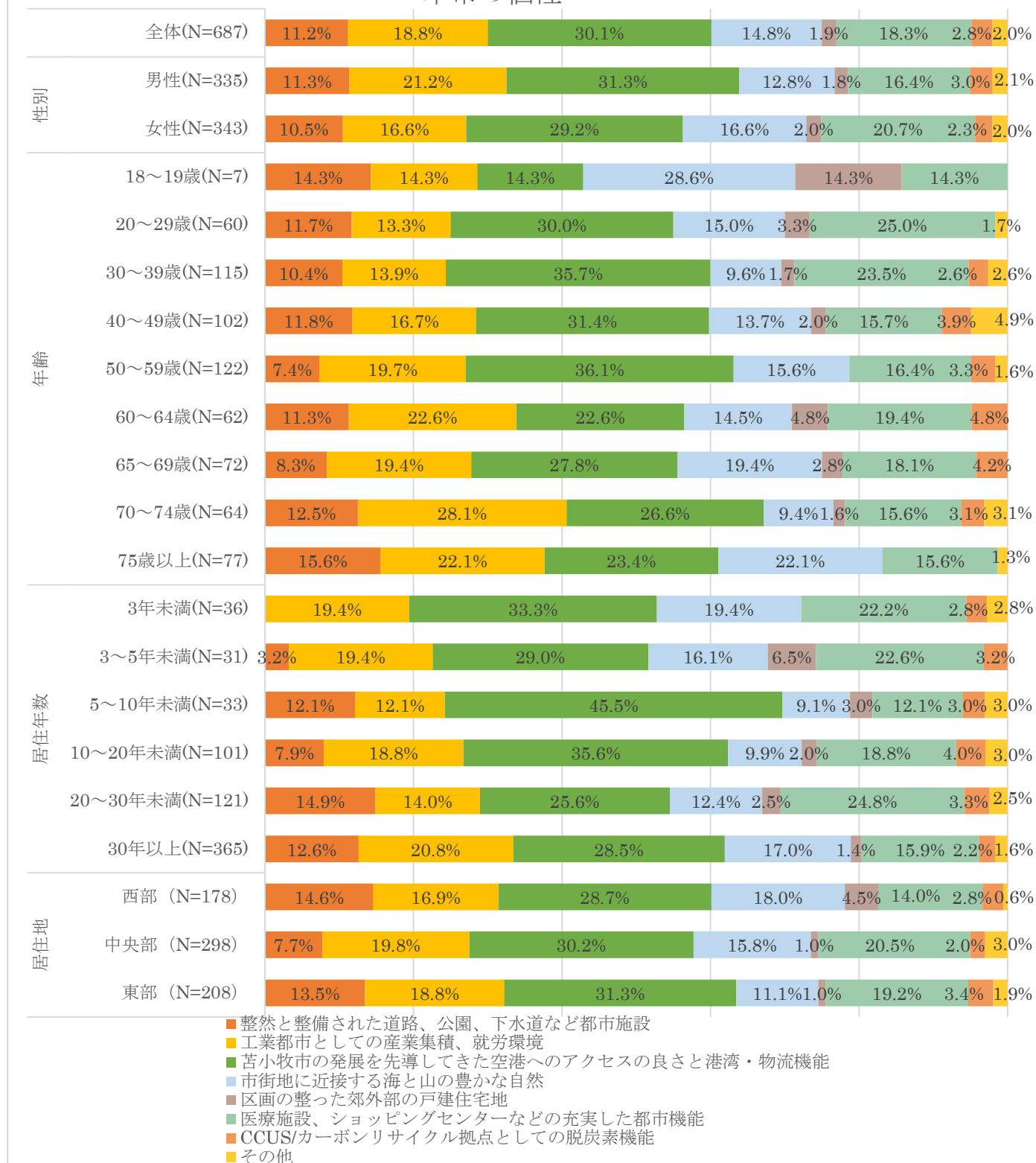
大切にしたい本市の個性・魅力については、「苫小牧市の発展を先導してきた空港へのアクセスの良さと港湾・物流機能」が30.1%で最も高く、次いで「工業都市としての産業集積、就労環境」(18.8%)、「医療施設、ショッピングセンターなどの充実した都市機能」(18.3%)となっている。

属性別にみると、年齢別では、「工業都市としての産業集積、就労環境」は「70～74歳」で、「苫小牧市の発展を先導してきた港湾・物流機能」は「30～39歳」「50～59歳」で、「医療施設、ショッピングセンターなどの充実した都市機能」は「20～29歳」で、「市街地に隣接する海と山の豊かな自然」は「18～19歳」で、それぞれ他の年齢層より回答割合が高くなっている。

その他の主な回答

- ・西と東の差がありすぎる
- ・スポーツ都市宣言していることの活動や施設
- ・空港・港湾に近いダブルポートと札幌圏に近い立地
- など

本市の個性

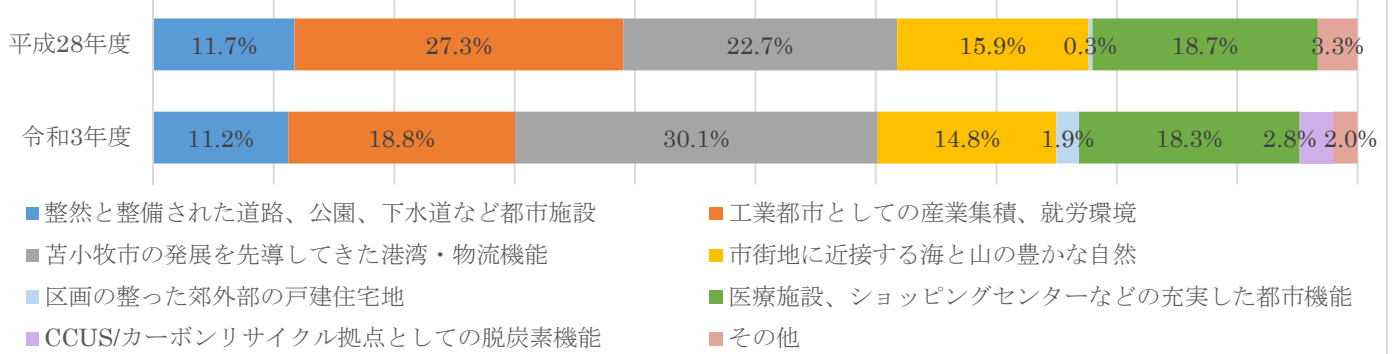


イ 本市の個性 前回調査結果（平成28年度）との比較

平成28年調査では「工業都市としての産業集積、就労環境」が27.3%、「苫小牧市の発展を先導してきた港湾・物流機能」が22.7%となっているのに対し、今回調査では、それぞれ18.8%、30.1%となり、「工業都市としての産業集積、就労環境」で8.5ポイント減少、「苫小牧市の発展を先導してきた港湾・物流機能」で7.4ポイント増加し、順位が入れ替わる結果となっている。

その他の項目については大きく変化はないが、今回調査より「CCUS/カーボンリサイクル拠点としての脱炭素機能」の項目が追加となっている。

大切にしたい本市の個性、魅力（前回調査との比較）



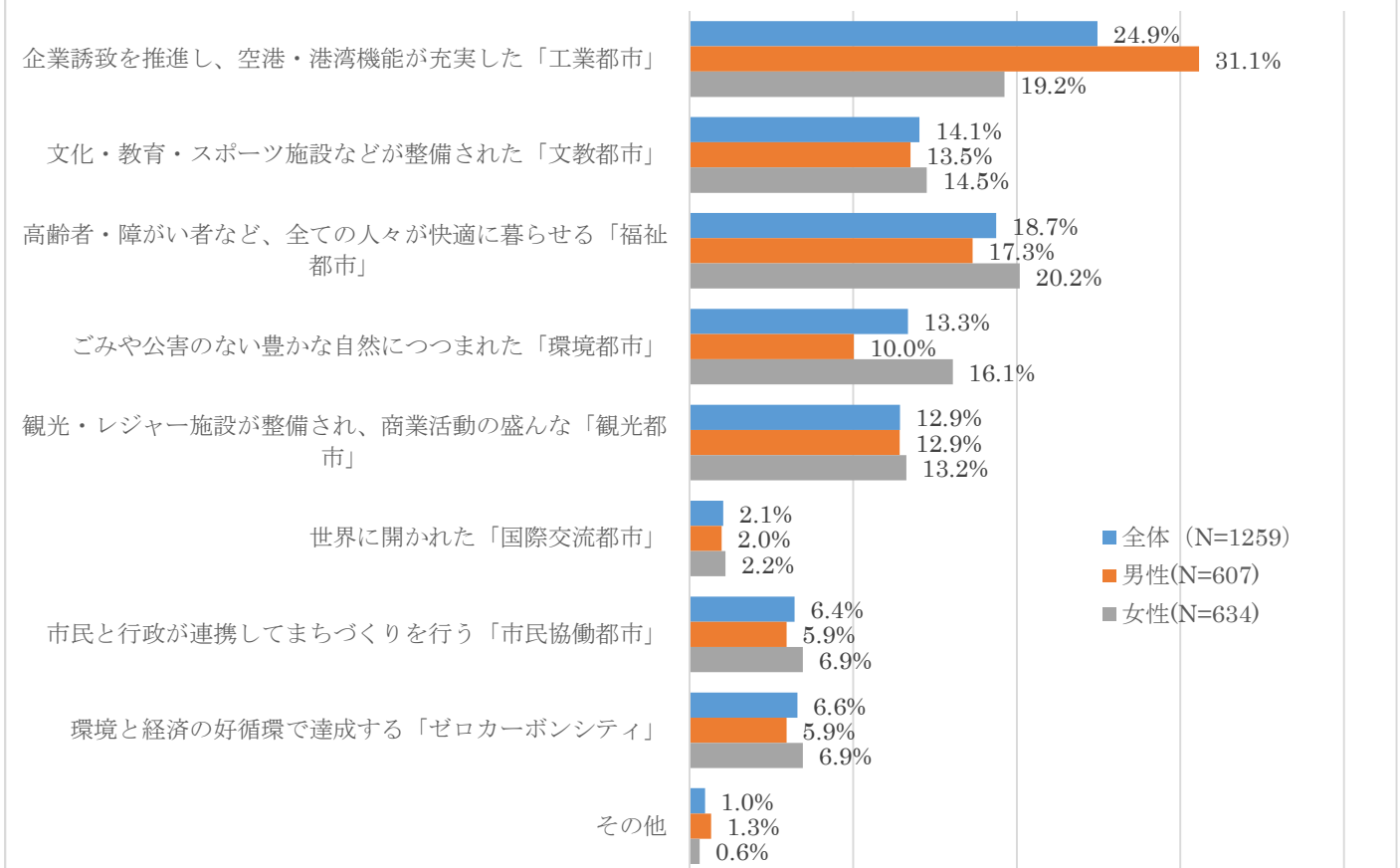
(12) 本市の将来都市イメージ、これからのまちづくりや市政の課題

ア 本市の将来都市イメージ

本市の将来の都市イメージについては、「工業都市」が24.9%、「福祉都市」が18.7%、「文教都市」が14.1%となっている。

属性別にみると、男女別では、男性については「工業都市」の回答が突出しており、女性はばらつきが少なくなっている。年齢別では、上の年齢層では「福祉都市」、下の年齢層では「観光都市」の回答が高くなっている。

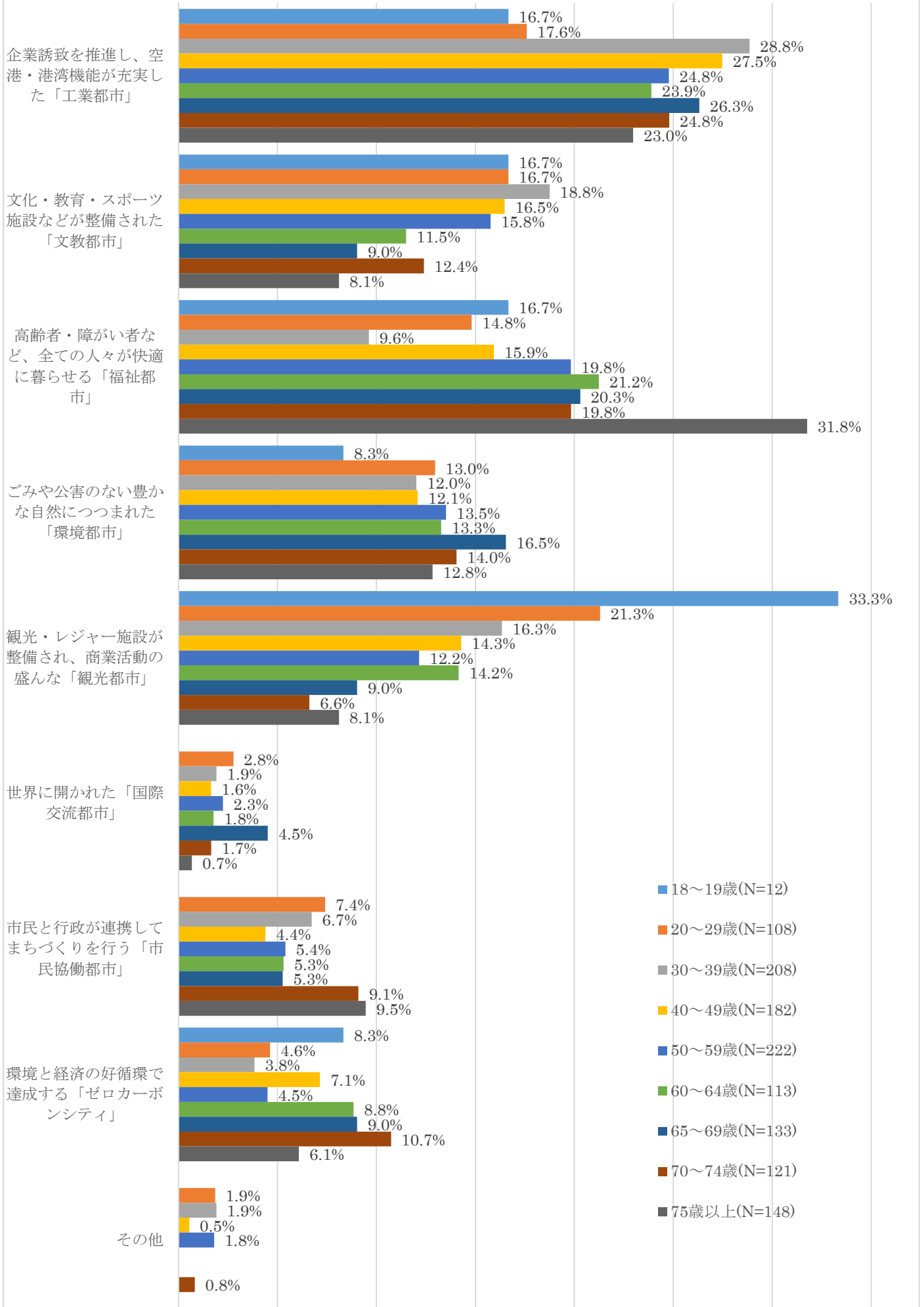
将来の本市のイメージ【男女別】 ※複数回答可



その他の主な回答

- ・ 冷涼な気候でデータセンター拠点 ・ 治安の良い、弱者にも優しい「平等都市」
- ・ 交通の便がいい都市 ・ 避暑地 ・ つくば市のような近未来的でバリアフリーな都市
- ・ 自然が豊かなので、トナム・キロロのようなリゾート地（西側）
- ・ 企業をたくさん誘致するが、しかし公害などは出さず、それらで働く人が楽しく暮らせられるまち など

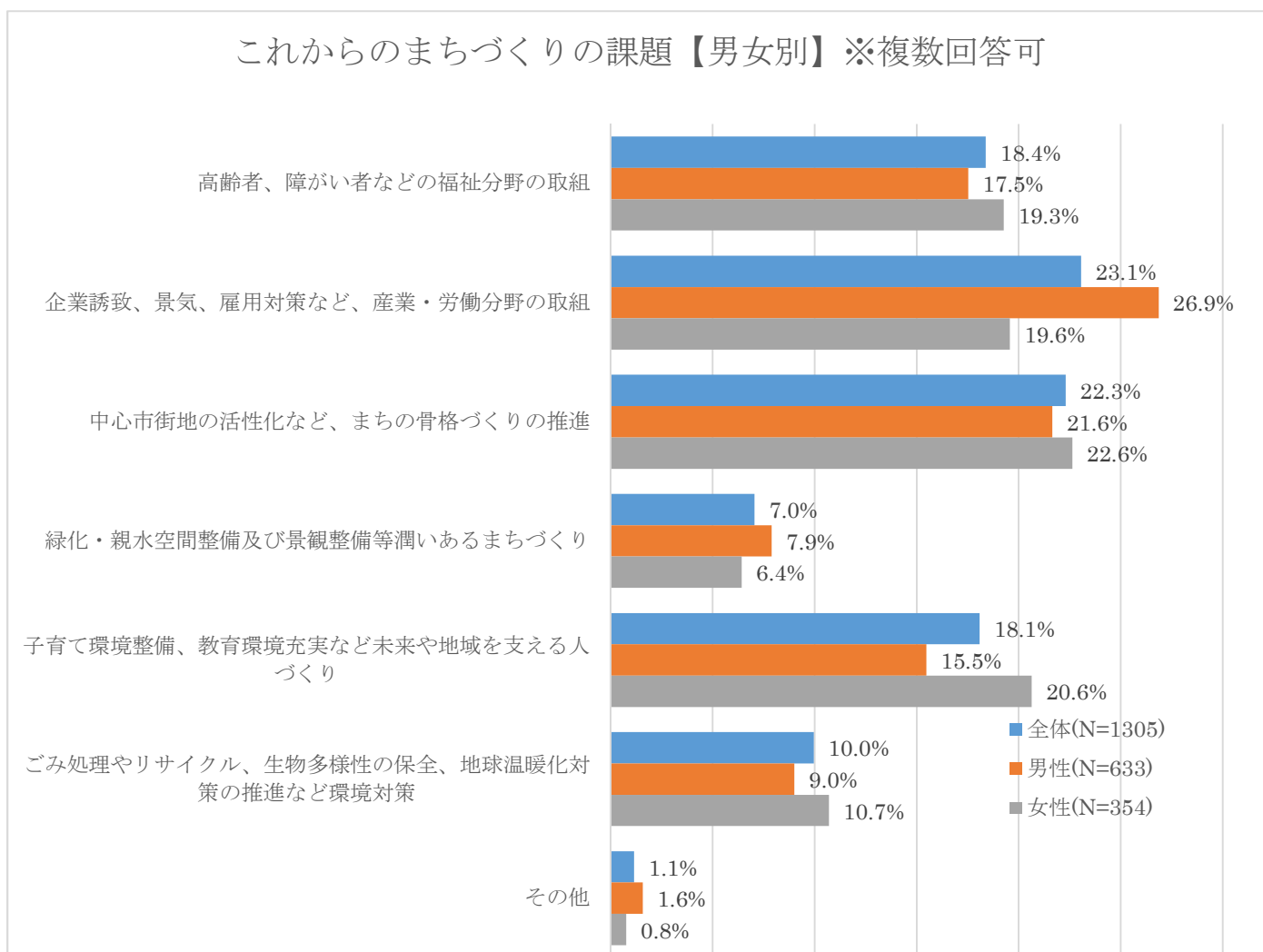
将来の本市のイメージ【年齢別】 ※複数回答可



イ これからのまちづくりや市政の課題

これからのまちづくりや市政の課題としては、「企業誘致、景気、雇用対策など産業・労働分野の取り組み」が23.1%で最も高く、次いで「中心市街地の活性化など、まちの骨格づくりの推進」(22.3%)、「高齢者、障がい者など福祉分野の取り組み」(18.4%)、「ごみ処理やリサイクル、生物多様性の保全、地球温暖化対策の推進など環境対策」(18.1%)となっている。

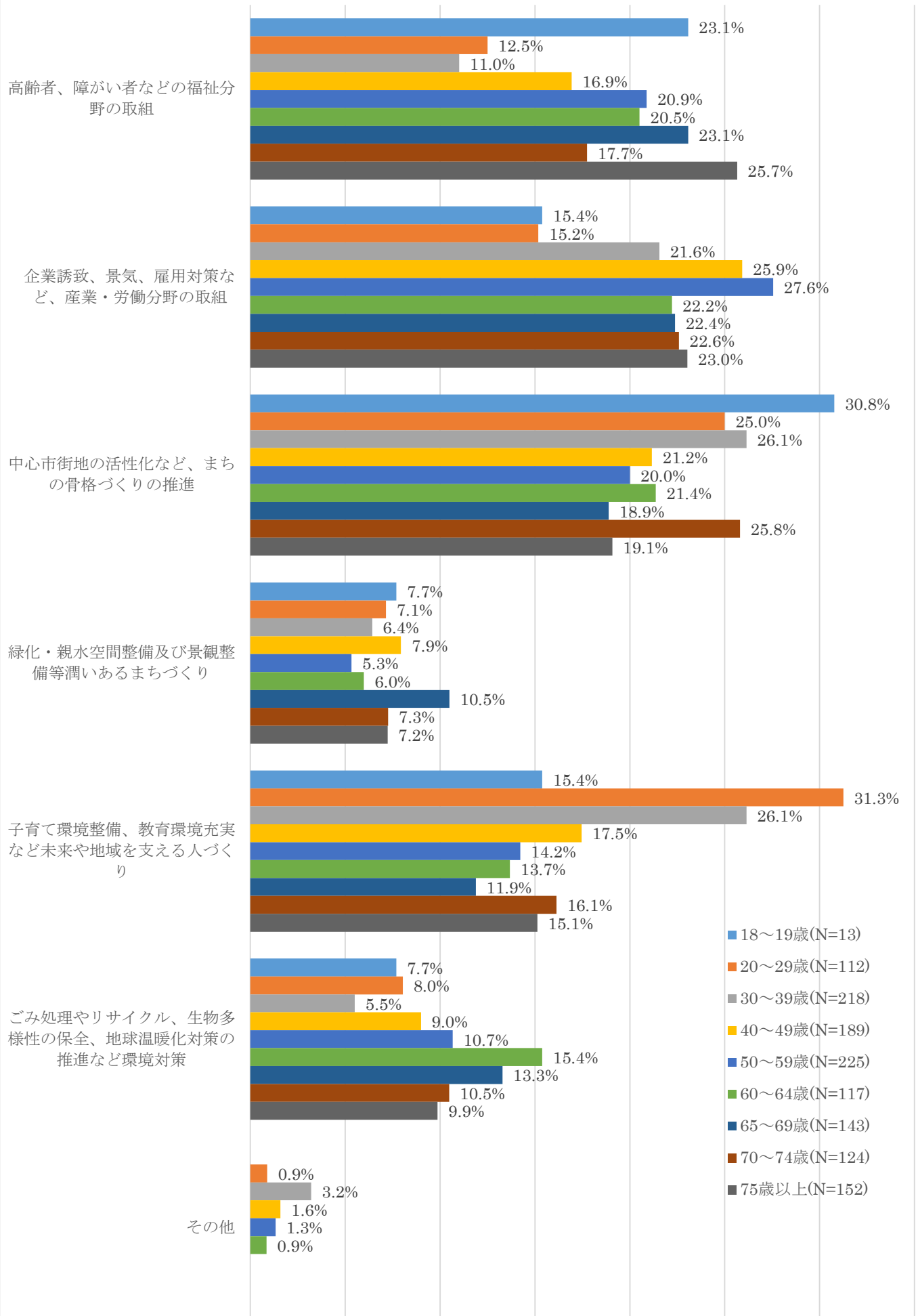
属性別にみると、男女別では、男性は「企業誘致、景気、雇用対策など産業・労働分野の取り組み」の回答が最も多く、年齢別では、「20～39歳」で「子育て環境整備、教育環境充実など未来や地域を支える人づくり」の回答が高くなっている。



その他の主な回答

- ・交通整備、信号機の追加 ・早急な都市ガスの整備 ・寒冷地のEV都市
- ・市外からの人を呼び込む魅力づくり ・みんな一人一人が市を作っているという意識をもつこと
- ・道路整備（新道等） ・レジャー施設の増築 ・幼稚園不足の解消
- ・東西の施設の数の差が違いすぎる。西地区の活性化。 ・除雪等の強化 など

これからのまちづくりの課題【年齢別】 ※複数回答可

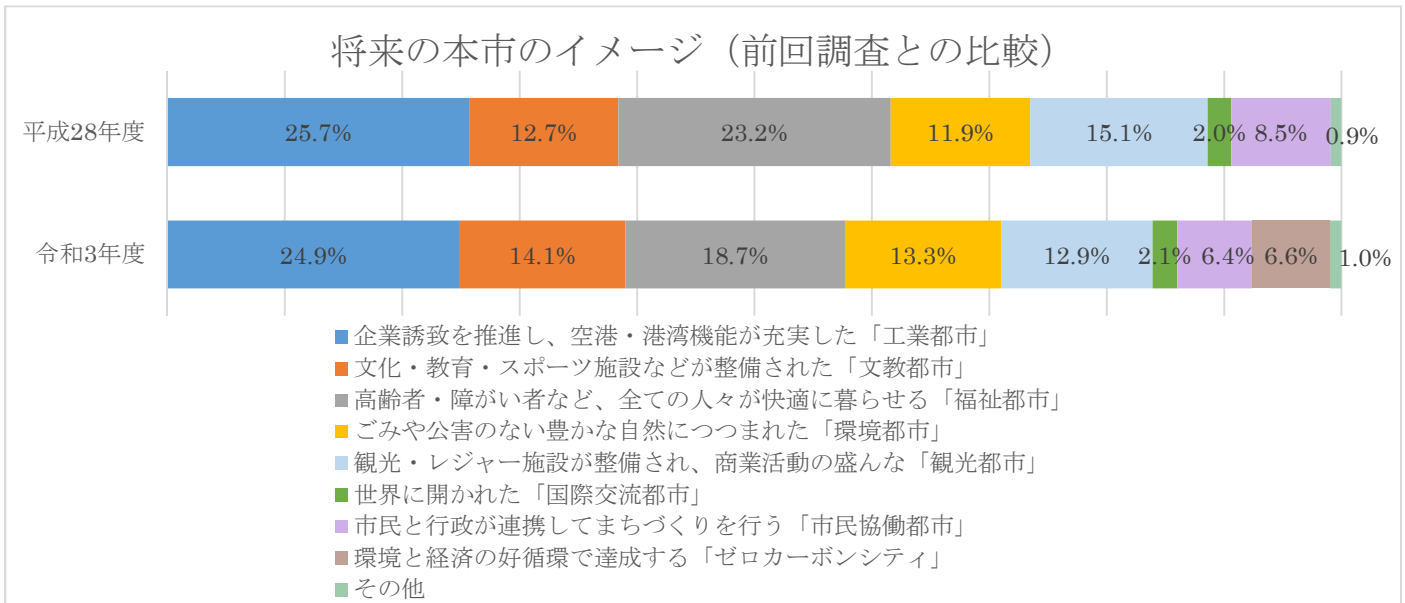


ウ 本市の将来都市イメージ、まちづくりの課題 前回調査（平成28年度）との比較

<将来都市イメージ>

平成28年調査では、1位が「工業都市」、2位が「福祉都市」、3位が「観光都市」となっていたが、今回は、1位、2位に変更はないが、3位が「文教都市」となっている。

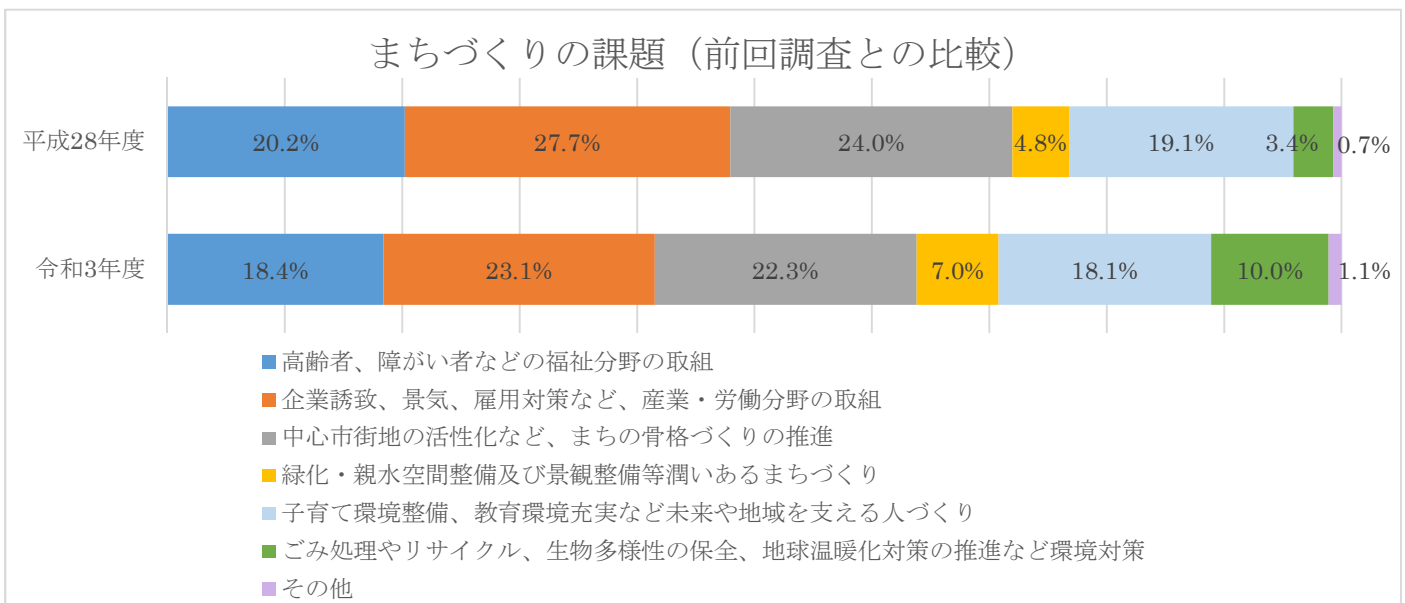
なお、今回より「ゼロカーボンシティ」の項目が追加となっている。



※平成28年度の調査結果数値については、今回調査の集計方法にあわせて再計算した数値を使用。

<まちづくりの課題>

平成28年調査では、1位が「企業誘致、景気、雇用対策など産業・労働分野の取り組み」、2位が「中心市街地の活性化など、まちの骨格作りの推進」、3位が「高齢者、障がい者などの福祉分野の取組」となっており、今回も同様の順位となっている。割合としても大きく差はないが、「企業誘致、景気、雇用対策など産業・労働分野の取り組み」の回答割合が下がり、「ごみ処理やリサイクル、生物多様性の保全、地球温暖化対策の推進など環境対策」の回答割合が前回調査より高くなっている。

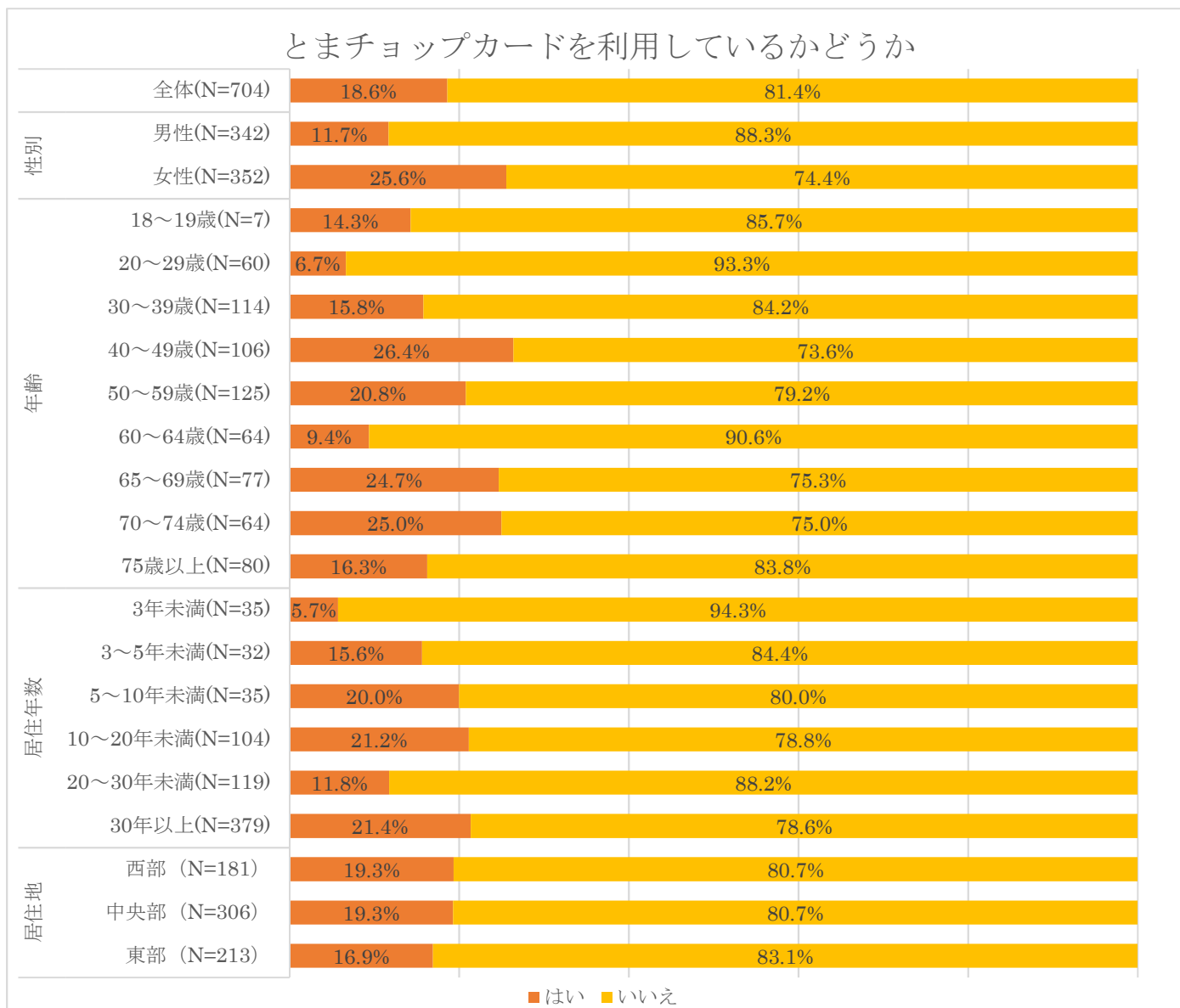


※平成28年度の調査結果数値については、今回調査の集計方法にあわせて再計算した数値を使用。

(13) とまチョップポイントと買い物環境について

ア とまチョップポイントカード

とまチョップポイントカードを利用していると答えた人の割合は、全体の約2割となっている。



イ とまチョップポイントカードの印象

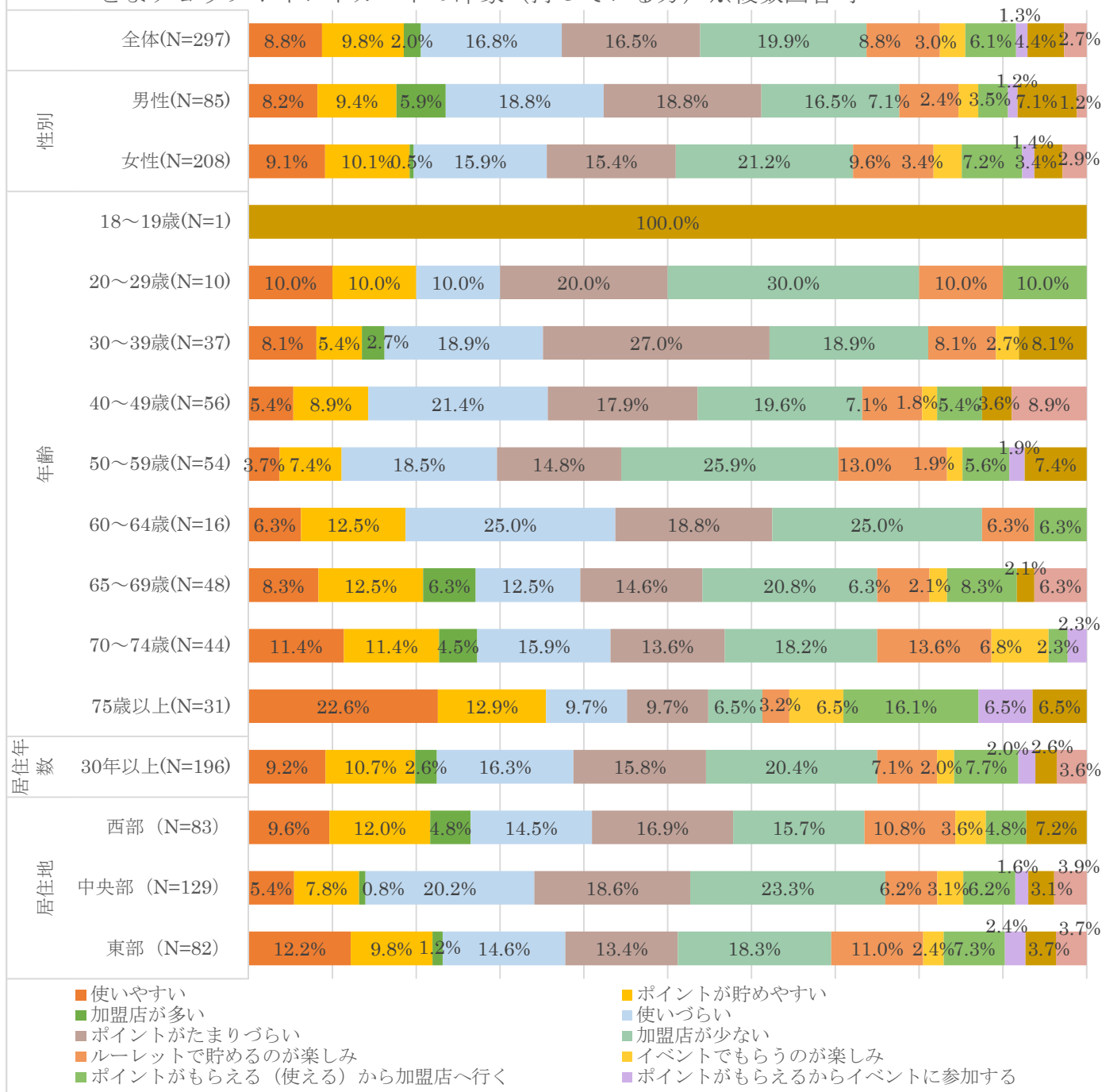
とまチョップポイントカードを持っている方のカードの印象について、「加盟店が少ない」が19.9%で最も高く、次いで「使いづらい」(16.8%)、「ポイントが貯まりづらい」(16.5%)となっている。

属性別にみると、年齢別では「74歳以下」で「使いづらい」「ポイントが貯まりづらい」「加盟店が少ない」の3つで半数以上となっている一方で、「75歳以上」では「使いやすい」が最も高くなっている。

その他の主な回答

- ・何に使えるのかがわからない ・加盟店でポイントをもらうのに気を使う
- ・ポイントの期限が無いので使いやすい ・利用頻度の多い店が加盟していない
- ・出産でポイントをもらいましたが、育児で忙しいうちに失効してしまいました。 など

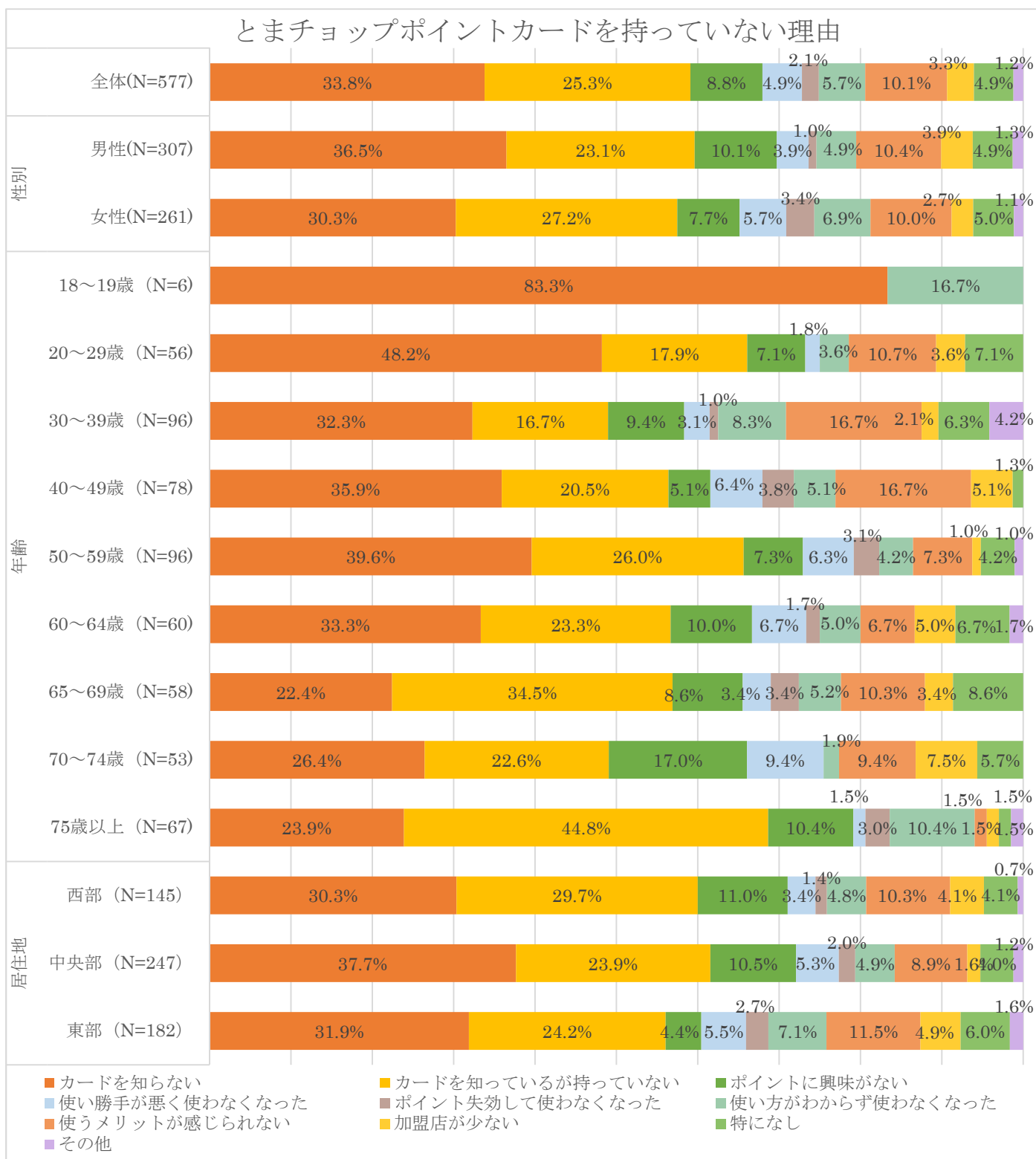
とまチョップポイントカードの印象（持っている方）※複数回答可



ウ とまチョップポイントカードを持っていない理由

とまチョップポイントカードを持っていない理由について、全体では「カードを知らない」が33.8%で最も高く、次いで「カードを知っているが持っていない」(25.3%)となっている。

属性別にみると、年齢別では「30～49歳」で「使うメリットが感じられない」が他の年齢層に比べて高くなっている。地域別では東部では「ポイントに興味がない」の回答割合が低くなっている。



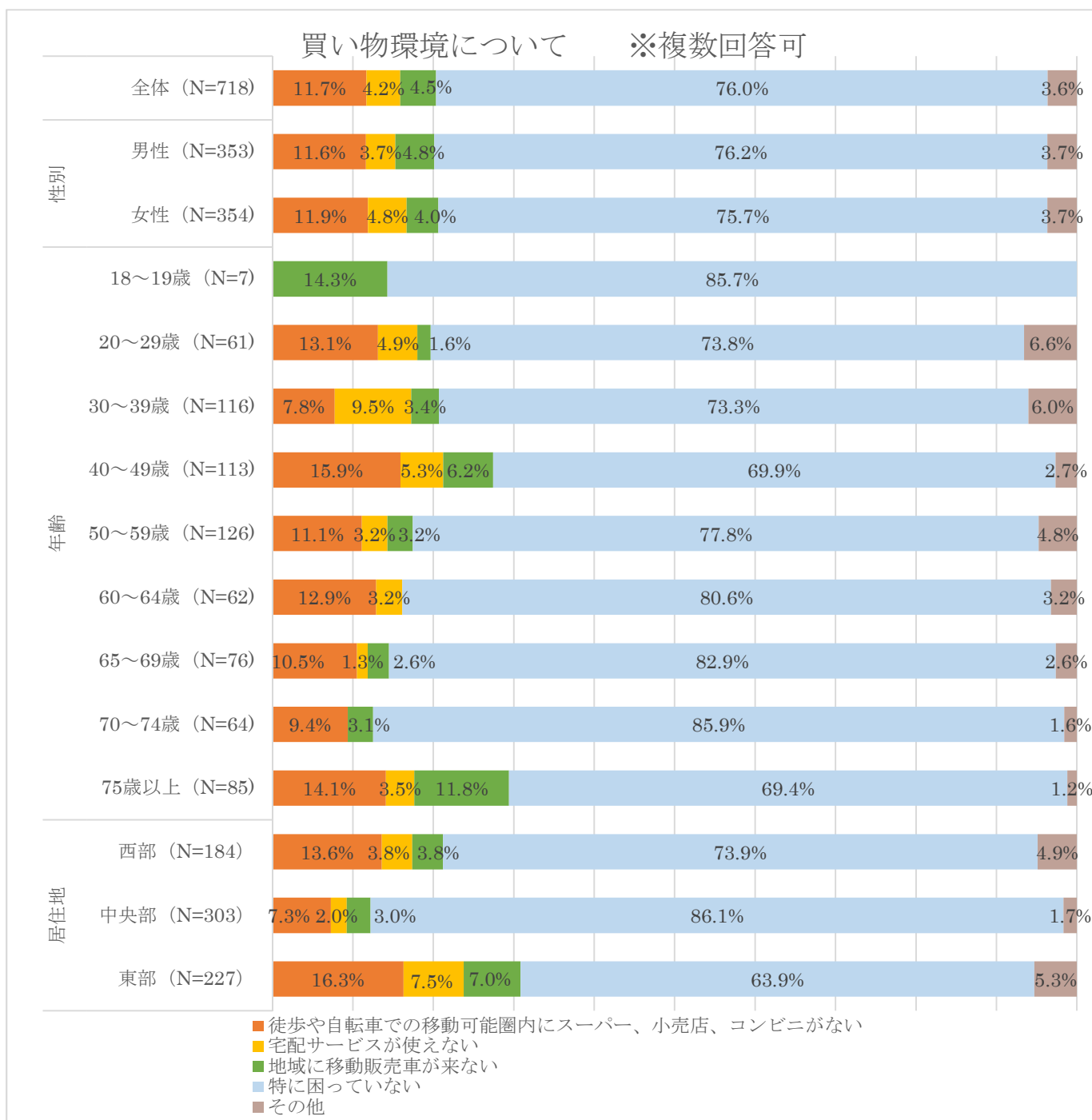
その他の主な回答

- ・申込みしたが、カードが届かなかった
- ・カードだらけで必要ない
- ・紛失し再発行ができなかった為、使ったことがない
- ・ポイントの使える場所が良くわからない
- ・ネットで調べたがわかりづらく、つくらなかった など

エ 買い物環境について

買い物環境について、全体の76.0%が「特に困っていない」との回答となっている。

属性別にみても、年齢別では「特に困っていない」の回答割合が一番低いのは「75歳以上」となっており、次いで「40～49歳」、「30～39歳」、「20～29歳」の順となっている。地域別では、「東部」が「特に困っていない」の回答割合が低く、「中央部」が最も高くなっている。



その他の主な回答

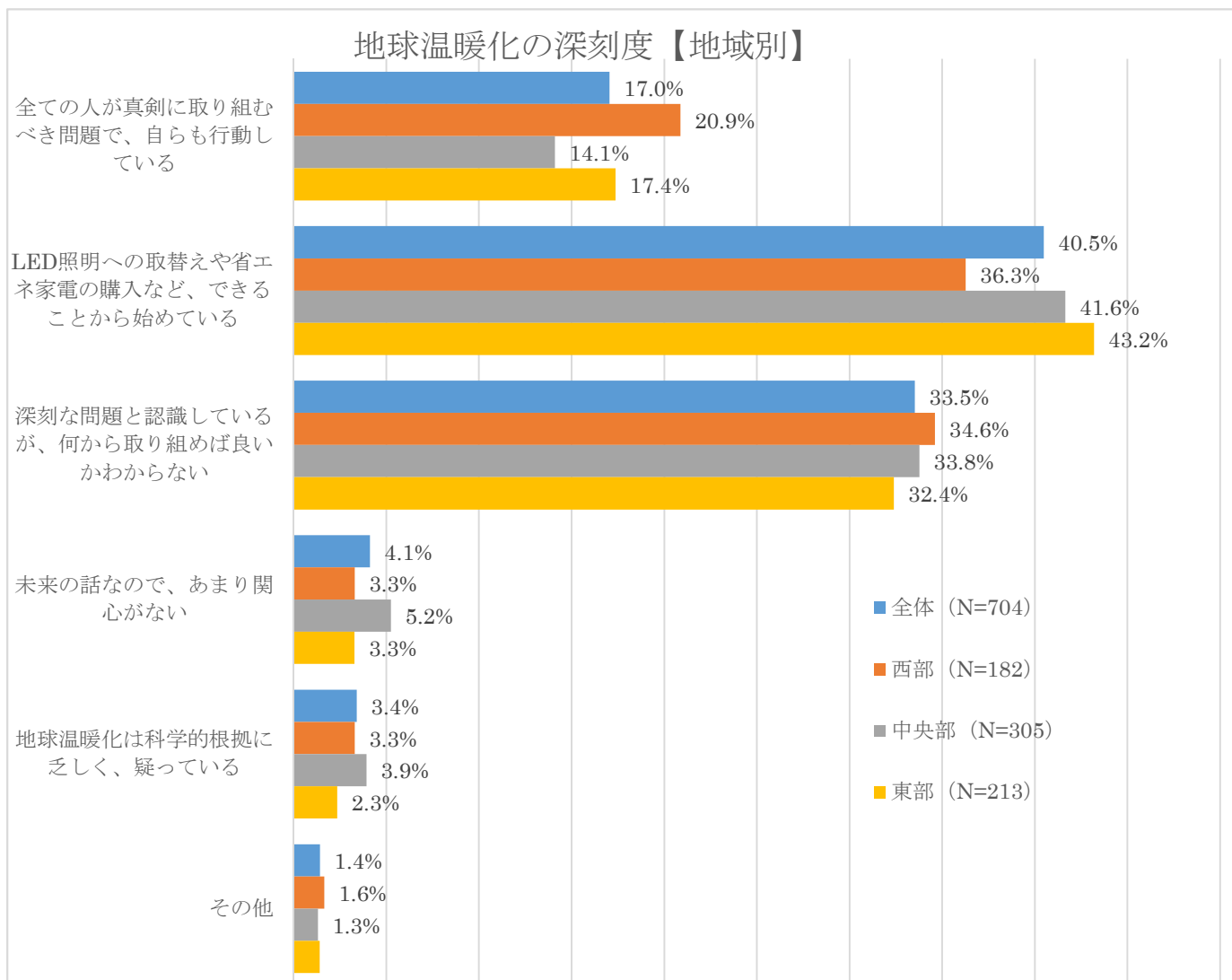
- ・立地に対する意見（大型商業施設が遠い、車がないと不便、歩いて行けるスーパーが遠い など）
- ・数に対する意見（店が少ない、スーパーが少ない、宅配サービスが少ない など）
- ・業種に対する意見（衣類を購入できる場所が少ない、本屋が近くにない、百貨店がない など）
- ・東西の偏りに対する意見（西側に大型店があるといい、商業施設等は東部に集中している など）
- ・他都市との差に対する意見（札幌にある店が、苫小牧には無く買い物が楽しめない など）

(14) 地球温暖化

ア 地球温暖化の深刻度

地球温暖化の深刻度については、全体の9割以上が問題としてとらえており、「すべての人が真剣に取り組むべき問題で、自らも行動している」が17.0%、「LED照明への取替えや省エネ家電の購入など、できることから始めている」が40.5%と、5割以上が行動を開始している。

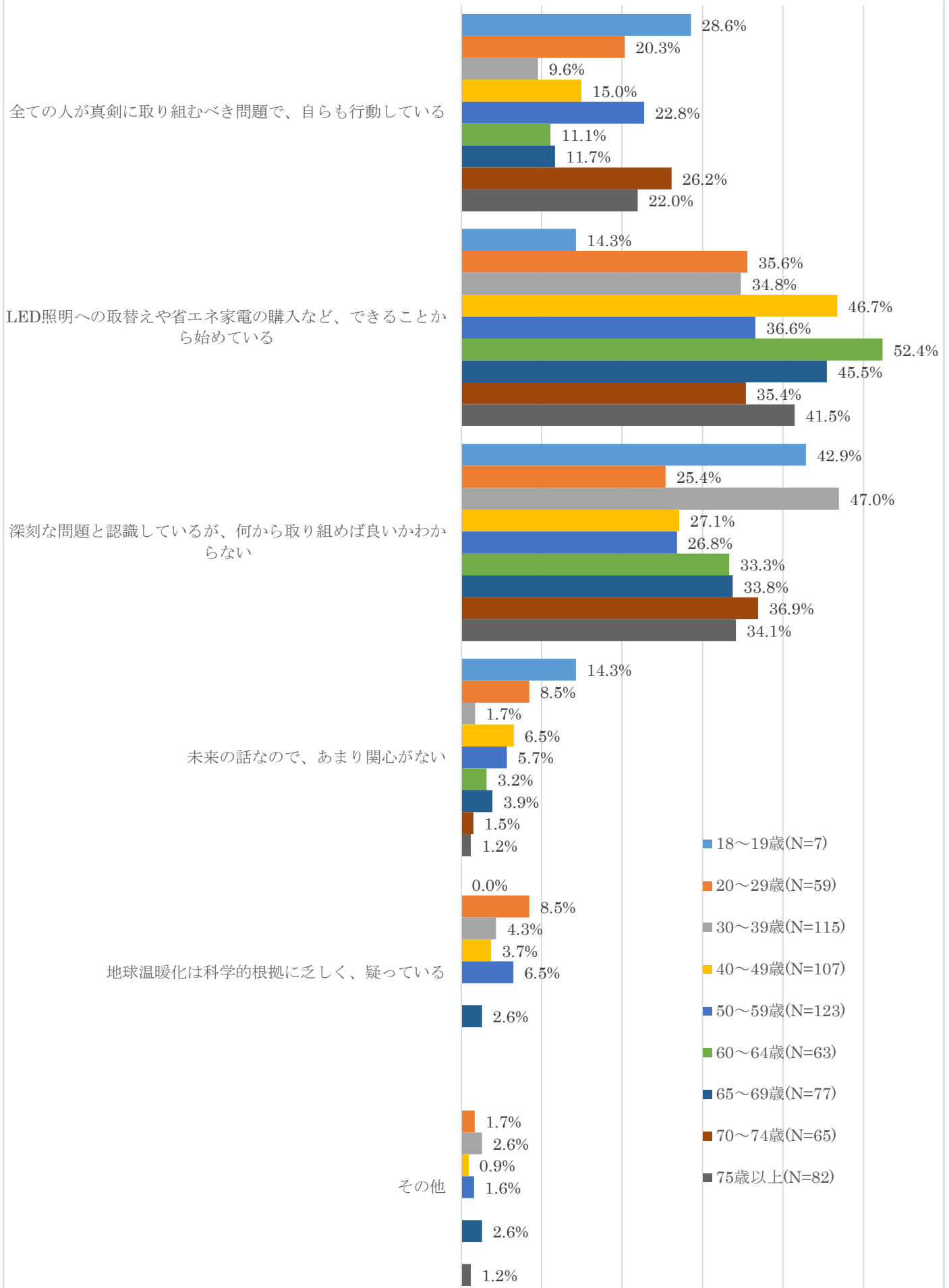
属性別にみても、多少ばらつきはあるものの、5割以上が行動を開始している状況となっているが、「30～39歳」「18～19歳」で「深刻な問題と認識しているが、何から取り組めば良いかわからない」が多くなっている。



その他の主な回答

- ・仕事が火力発電所工事関係なので、取り組みたいが少々複雑な気持ちである
- ・日本の問題ではない、他国へ追及し利潤を得るべき ・関心がない
- ・冬季暖房の灯油は脱炭素でどうなるのか、寒冷地のEVは可能なのか、北海道としての将来の生活像を示してほしい
- ・未来の子供たちが大変なことになる、真剣に考えるべき
- ・風水雪害が多発のため、以前より関心を持っている
- ・CO₂を地中に埋めるのではなく、人工光合成の活用
- ・深刻な問題だが、今の社会の流れについても問題だと考えている など

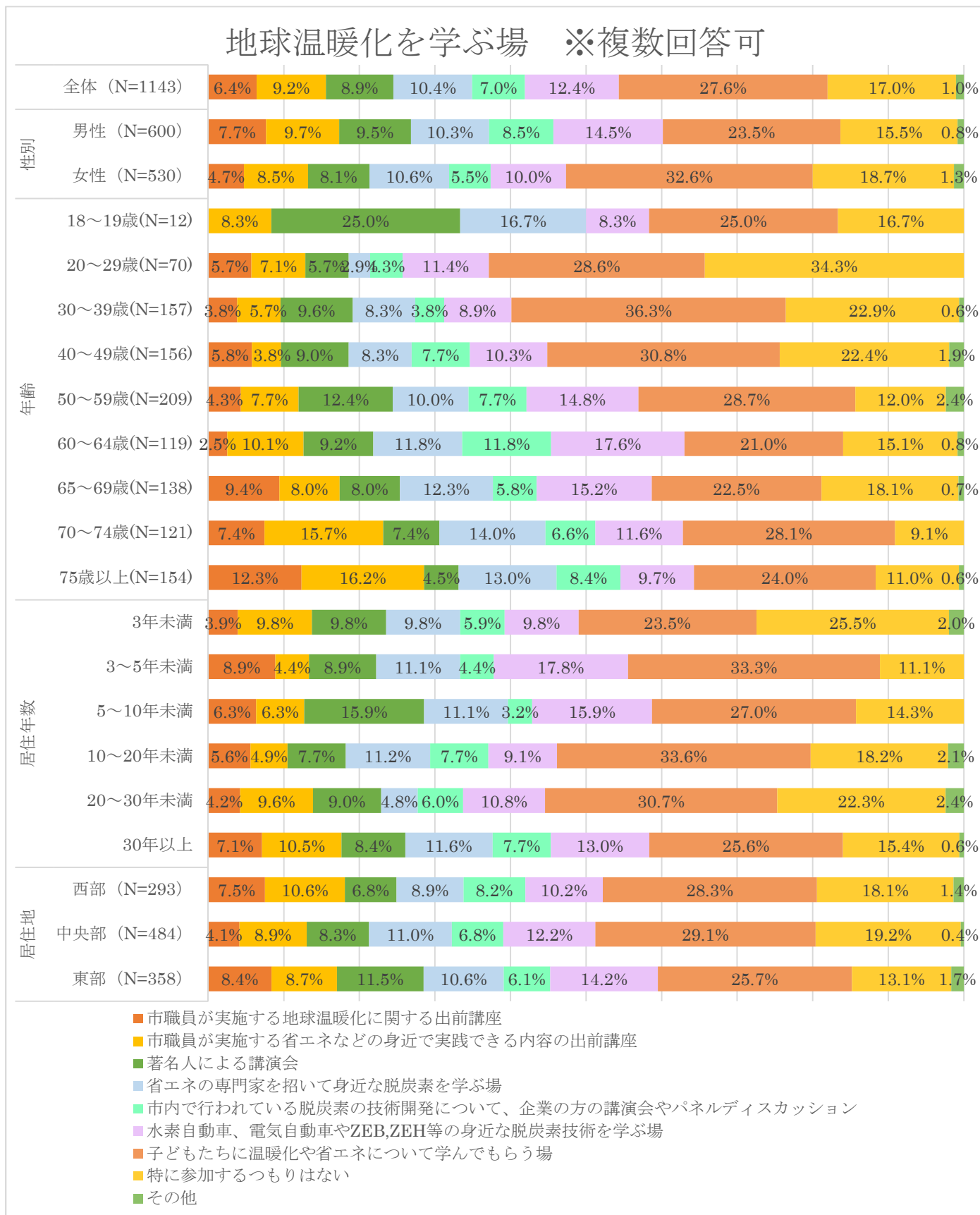
地球温暖化の深刻度【年齢別】



イ 地球温暖化を学ぶ場

温暖化を学ぶ場については、「子どもたちに温暖化や省エネを学んでもらう場」が27.6%で最も高く、次いで「特に参加するつもりはない」(17.0%)、「水素自動車、電気自動車やZEB, ZEH等の身近な脱炭素技術を学ぶ場」(12.4%)となっている。

属性別では、全体と大差はないが「20～29歳」で「特に参加するつもりはない」が多くなっている。



その他の主な回答

- ・冊子配布や動画配信等、家でいつでも見られるものがよい（子持ちのため）
- ・科学センターの実験装置を脱酸素用にする。 ・出先で気軽に参加できるような学びの場
- ・東京の専門家よりも、北海道の（寒冷地の）専門家の話を聞きたい ・町内会で講座開催
- ・一般的な自然エネルギーの利用方法 など

(15) 新型コロナウイルス感染症の影響について

ア 新型コロナウイルスの影響

<収入について>

新型コロナウイルス感染症による収入への影響については、「変わらない」との回答が76.3%と最も高く、次いで「やや悪くなった」(13.3%)、「悪くなった」(8.9%)となっている。

<支出について>

新型コロナウイルス感染症による支出への影響については、「変わらない」との回答が57.6%と最も高く、次いで「やや悪くなった」(27.5%)、「悪くなった」(10.6%)となっている。

<仕事について>

新型コロナウイルス感染症による収入への影響については、「変わらない」との回答が69.5%と最も高く、次いで「やや悪くなった」(19.3%)、「悪くなった」(9.1%)となっている。

<生活について>

新型コロナウイルス感染症による収入への影響については、「変わらない」との回答が51.3%と最も高く、次いで「やや悪くなった」(35.3%)、「悪くなった」(11.1%)となっており、他の項目に比べて悪影響が多く出ているとみられる。

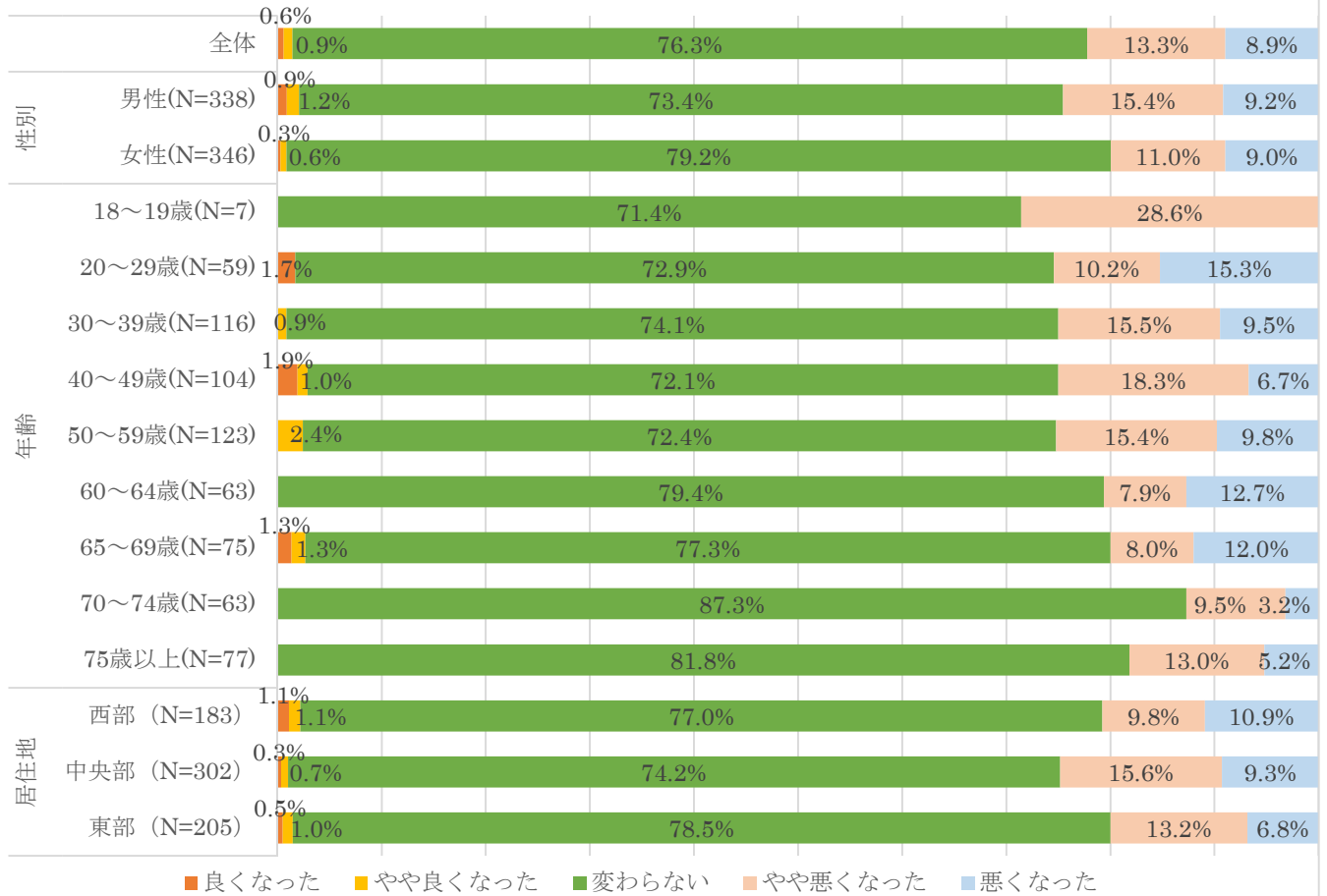
属性別にみると、「18～19歳」では7割以上が「変わらない」となっている一方で、「50～59歳」では5割以上が悪影響を受けているとなっている。

<健康について>

新型コロナウイルス感染症による収入への影響については、「変わらない」との回答が71.9%と最も高く、次いで「やや悪くなった」(18.6%)、「悪くなった」(4.9%)となっている。

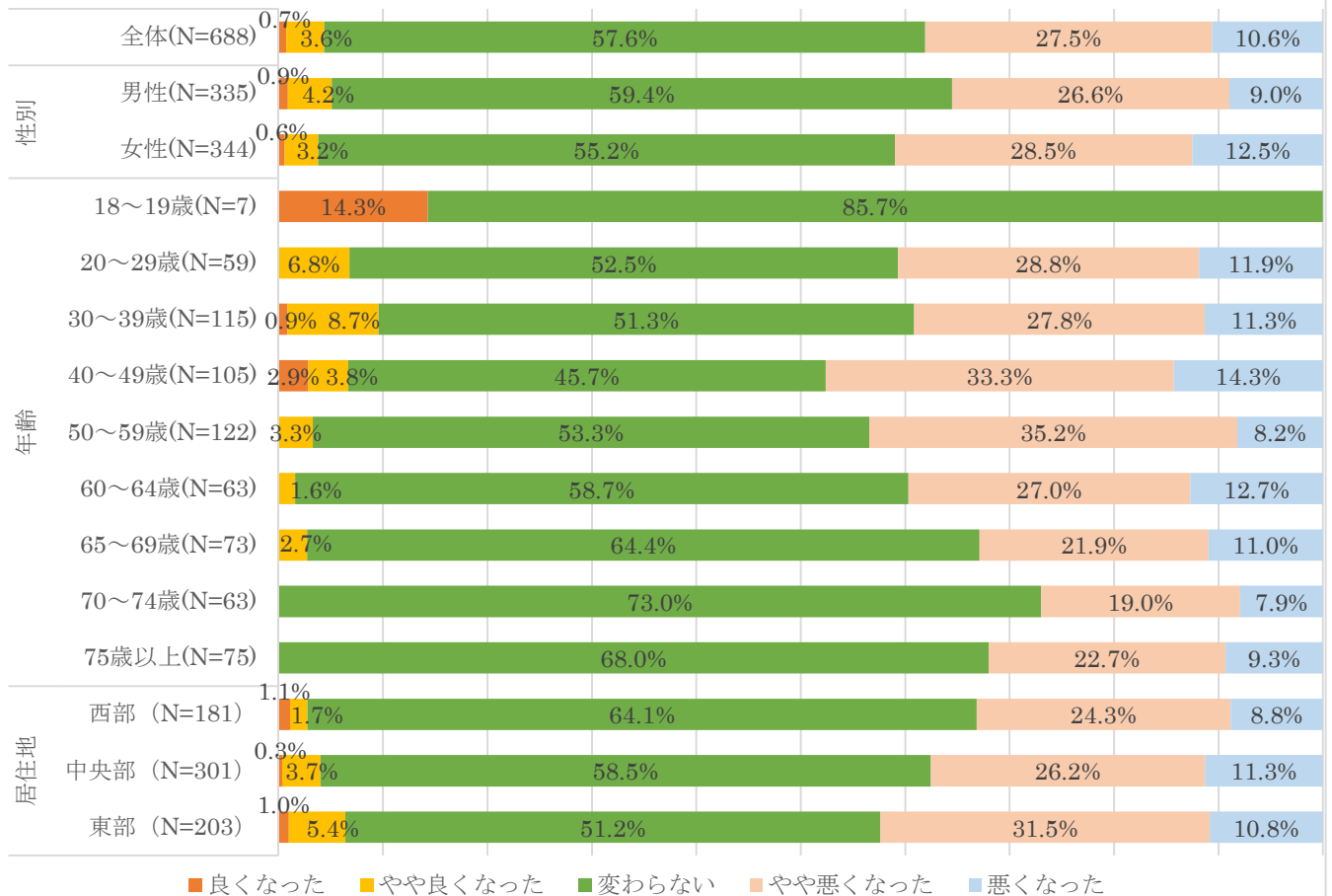
属性別にみると、「18～29歳」では好影響が出ている割合が高くなっている一方で、「65～69歳」では悪影響が出ている割合が高くなっている。

新型コロナウイルス感染症の影響（収入）



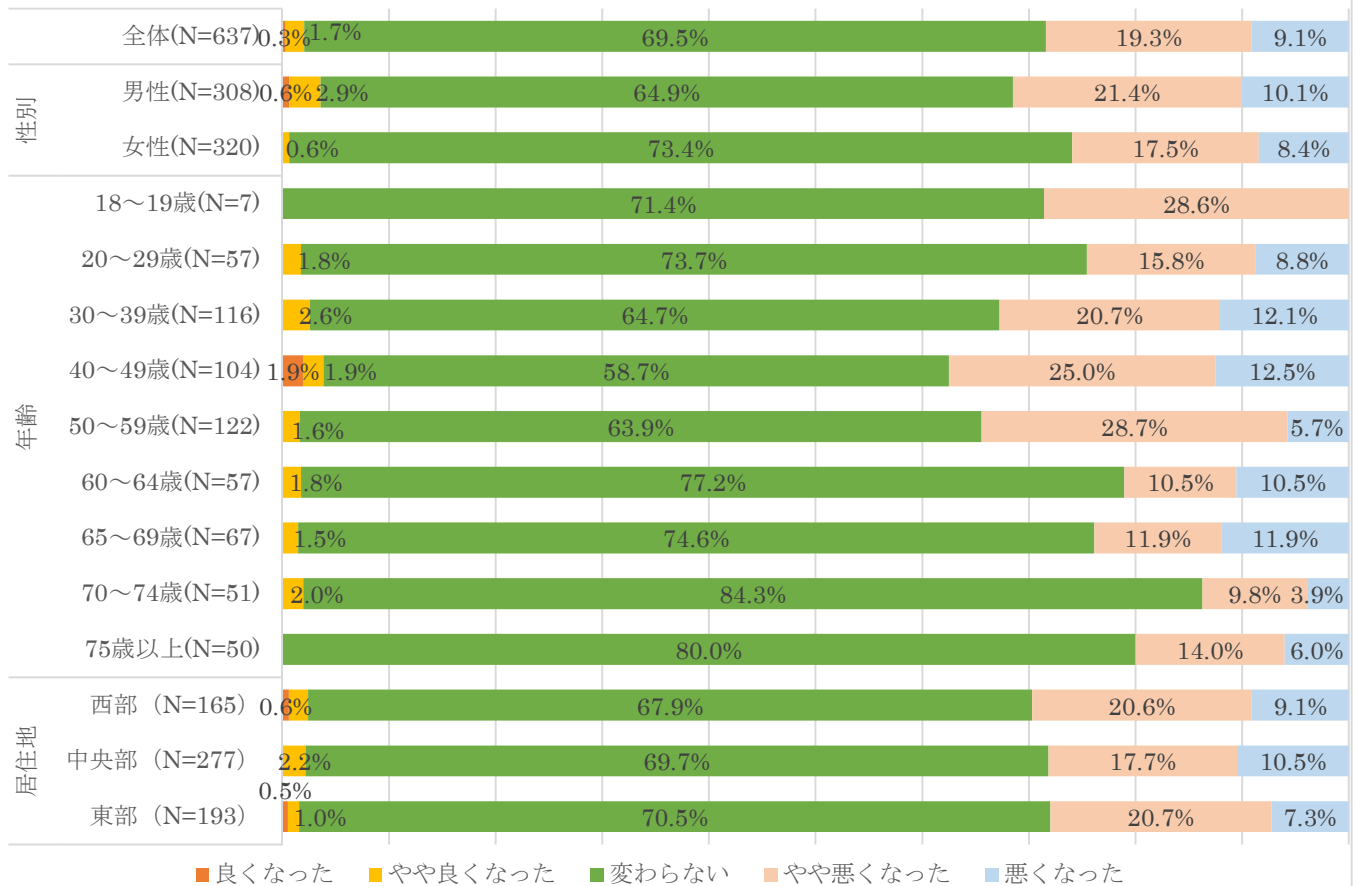
■良くなった ■やや良くなった ■変わらない ■やや悪くなった ■悪くなった

新型コロナウイルス感染症の影響（支出）

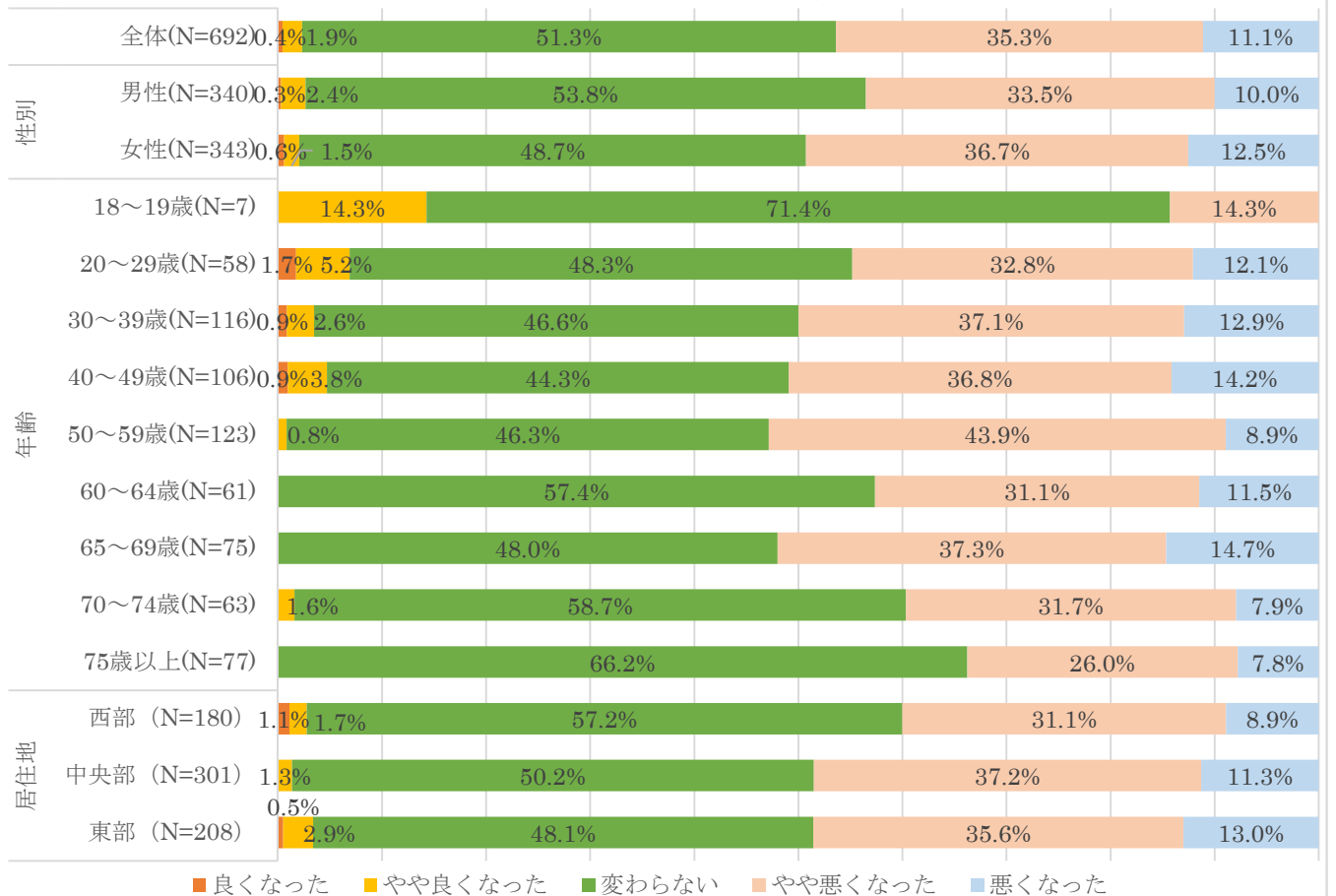


■良くなった ■やや良くなった ■変わらない ■やや悪くなった ■悪くなった

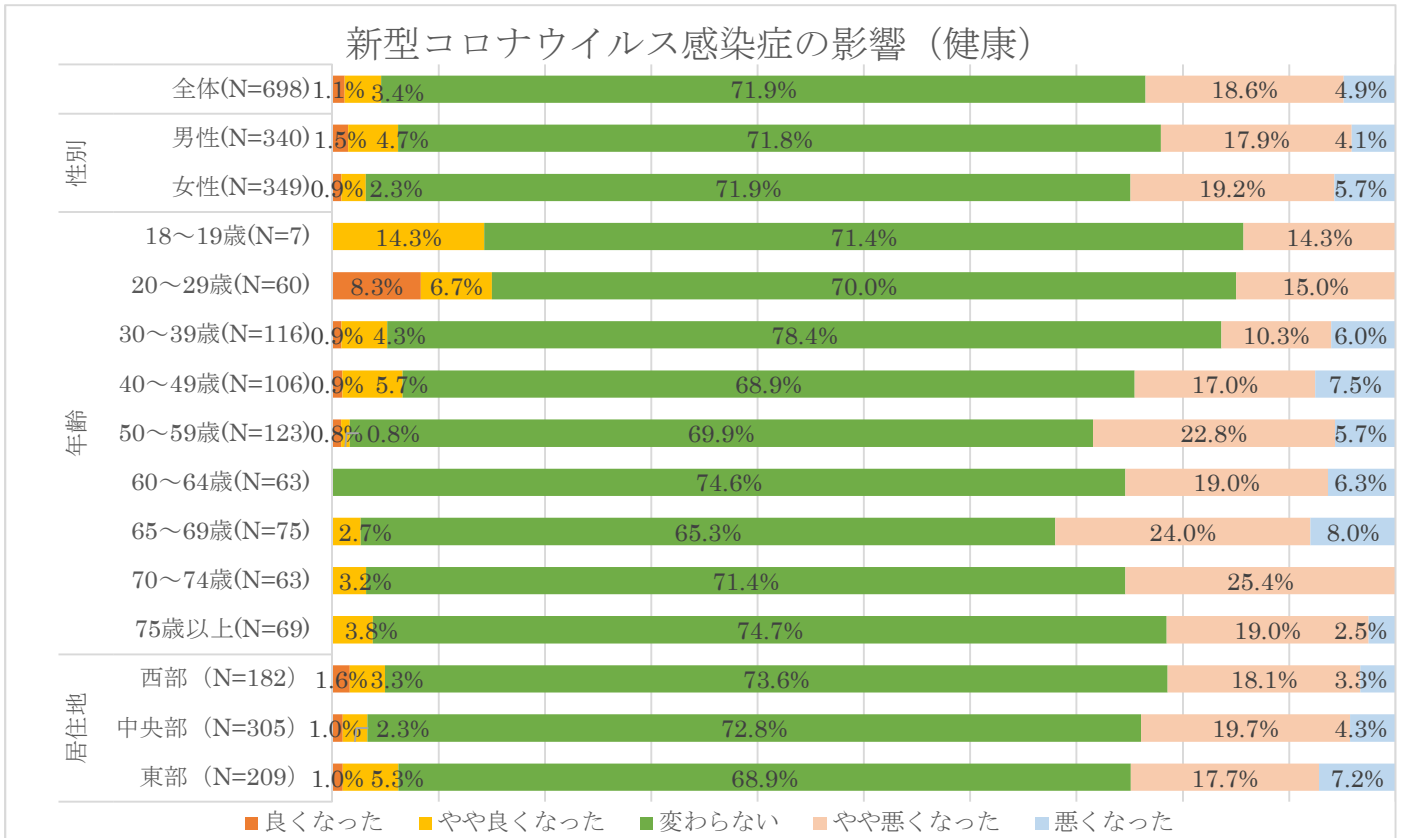
新型コロナウイルス感染症の影響（仕事）



新型コロナウイルス感染症の影響（生活）



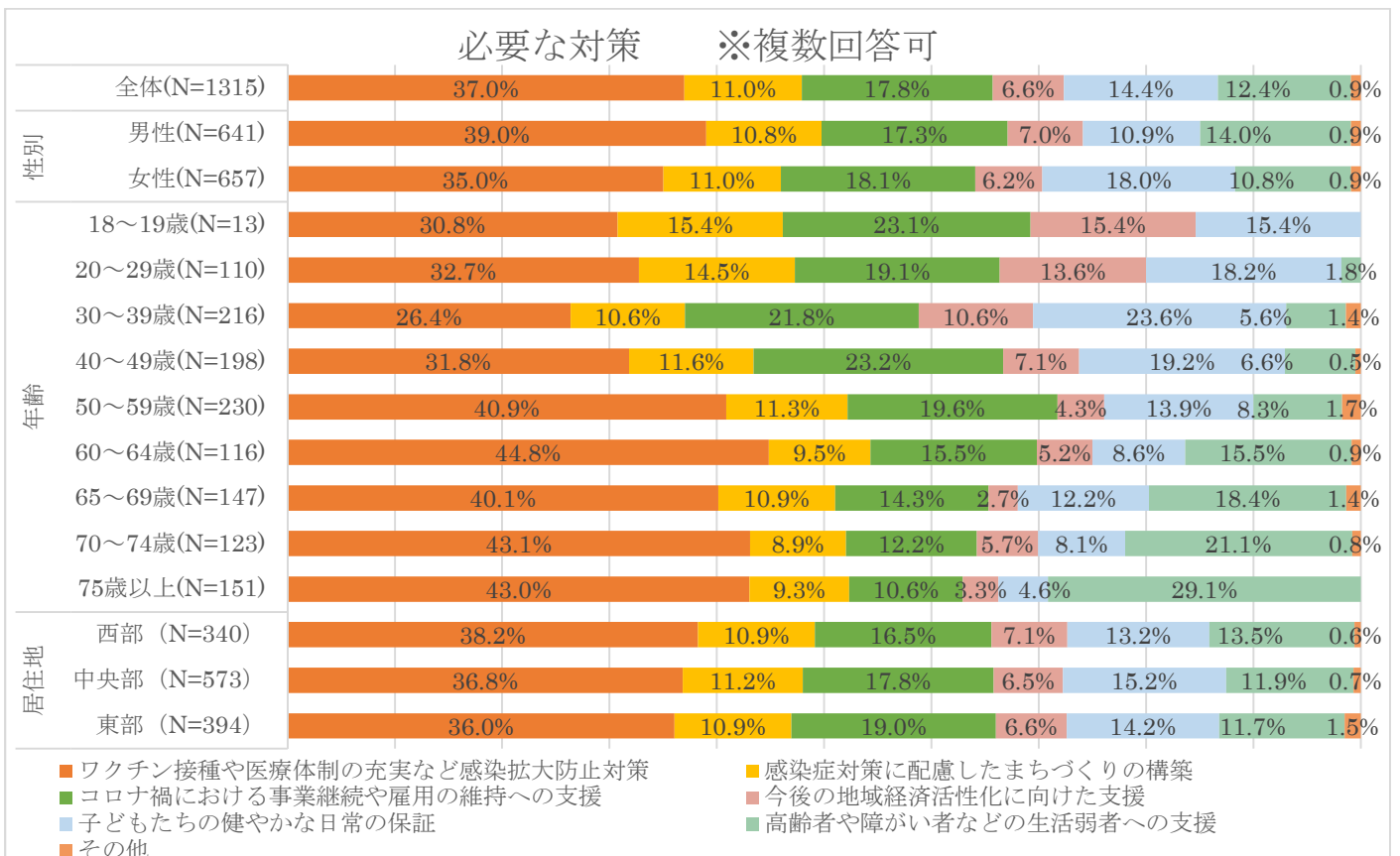
新型コロナウイルス感染症の影響（健康）



イ 必要だと思う対策

新型コロナウイルス感染症に必要な対策については、「ワクチン接種や医療体制の充実など感染拡大防止対策」が37.0%で最も高く、次いで「コロナ禍における事業継続や雇用の維持への支援」(17.8%)、「子どもたちの健やかな日常の保証」(14.4%)となっている。

属性別にみると、「75歳以上」で「高齢者や障がい者など生活弱者への支援」の割合が他に比べて高くなっている。



その他の主な回答

- ・医療従事者へのサポート、ケア ・感染対策に応じない人間への対策 ・情報の発信
- ・リモートワークの推進 ・金銭の支援（学生への子供） 全ての特に大学生含む など

ウ アフターコロナのまちづくり

<生活様式>

アフターコロナの新しい生活様式について、「新しい生活様式を発展させる」が43.9%で最も高く、次いで「新しい生活様式を維持する」(39.6%)となっている。

属性別にみると、年齢別では、「75歳以上」で「以前の生活様式に戻す」の割合が高くなっていた。また、地域別では、東部で「新しい生活様式を発展させる」と回答した割合が高くなっていた。

<人の集まり>

アフターコロナの人の動きについて、「ある程度抑制すべき」が70.8%で最も高く、次いで「抑制すべき」(15.7%)となっている。

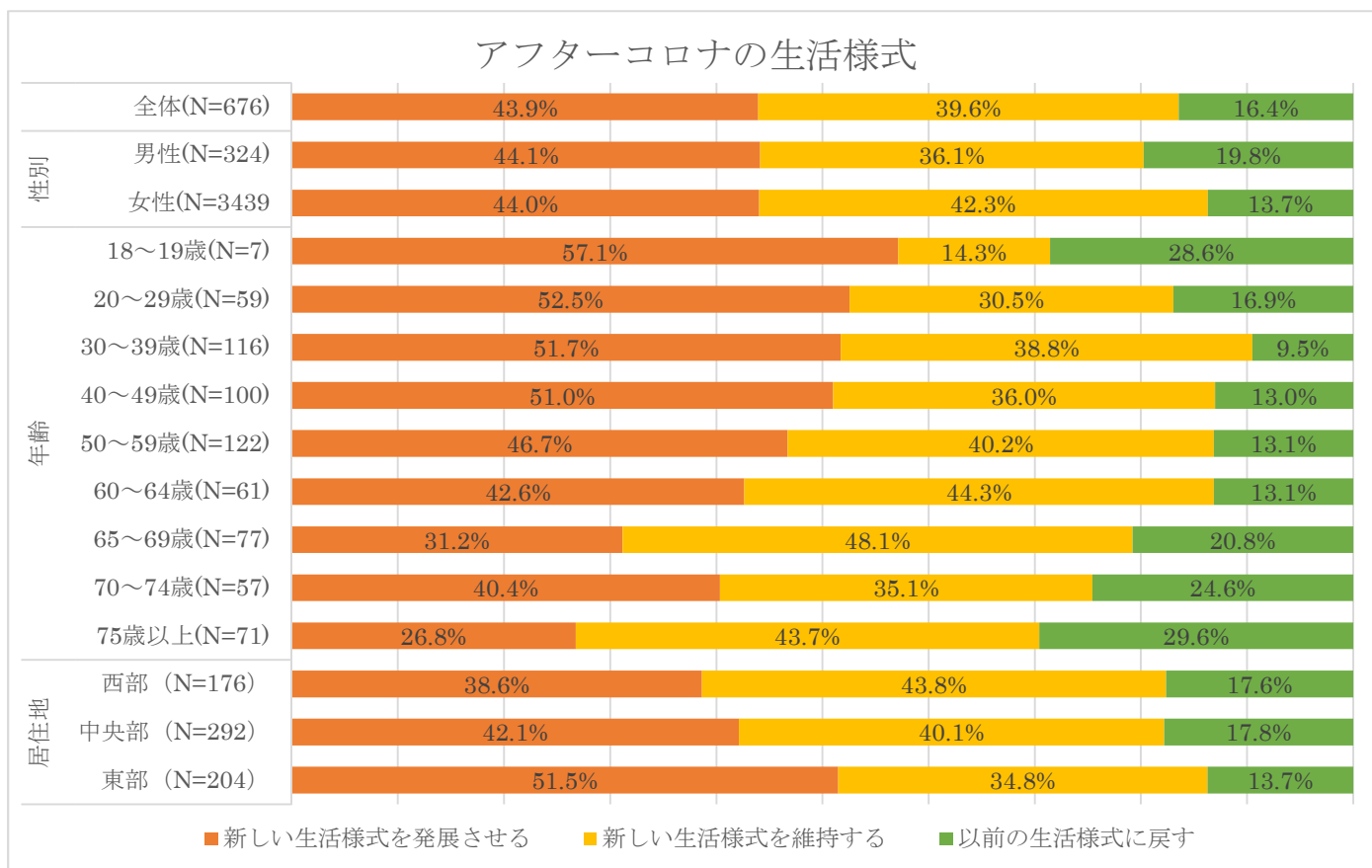
属性別にみると、年齢別では、「75歳以上」で「抑制すべき」の割合が高くなっていた。

<人の異動>

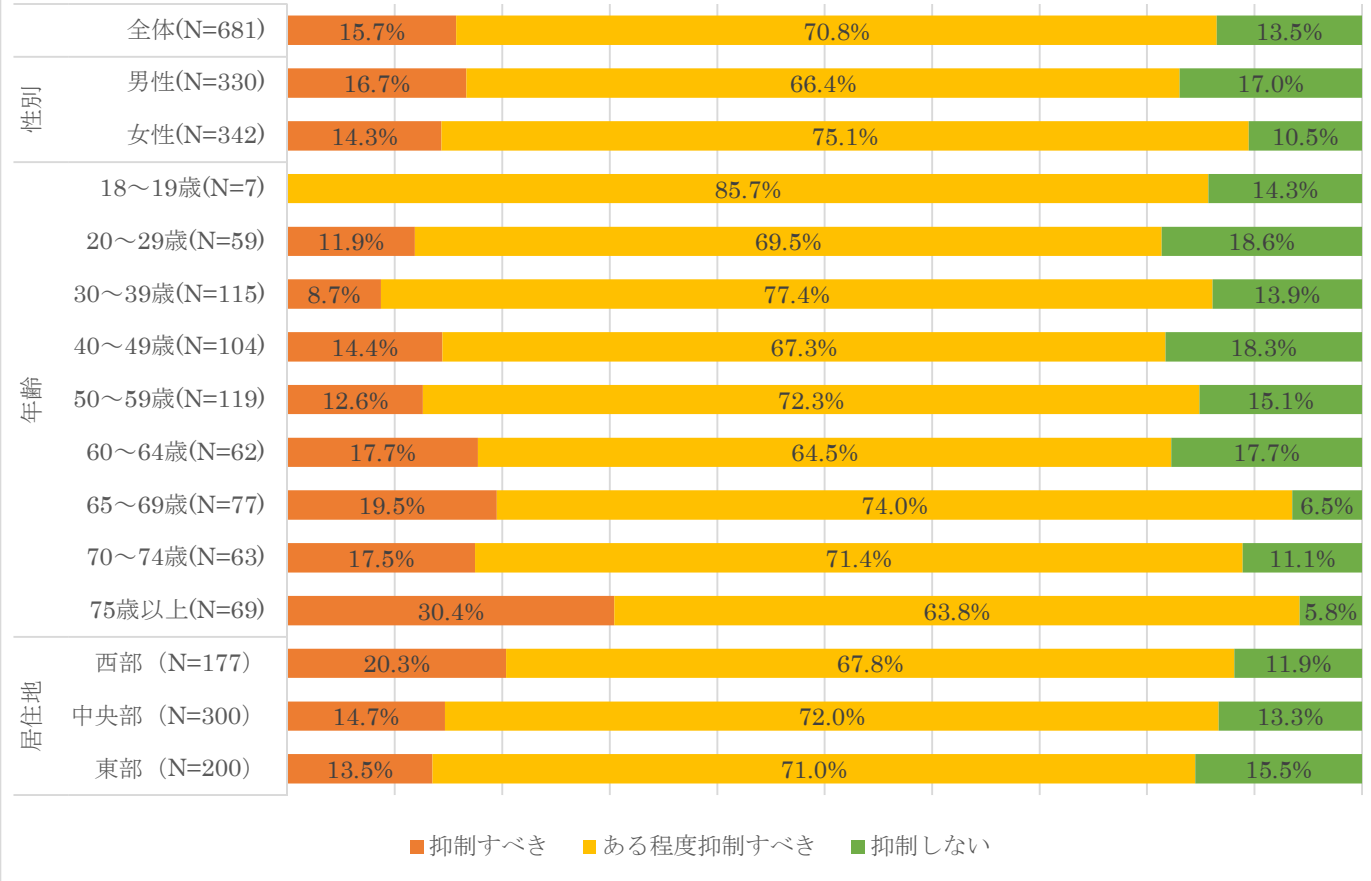
アフターコロナの新しい生活様式について、「ある程度抑制すべき」が69.0%で最も高く、次いで「抑制しない」(18.0%)となっている。

属性別では、「75歳以上」、「西部」で「抑制すべき」の回答が高くなっていた

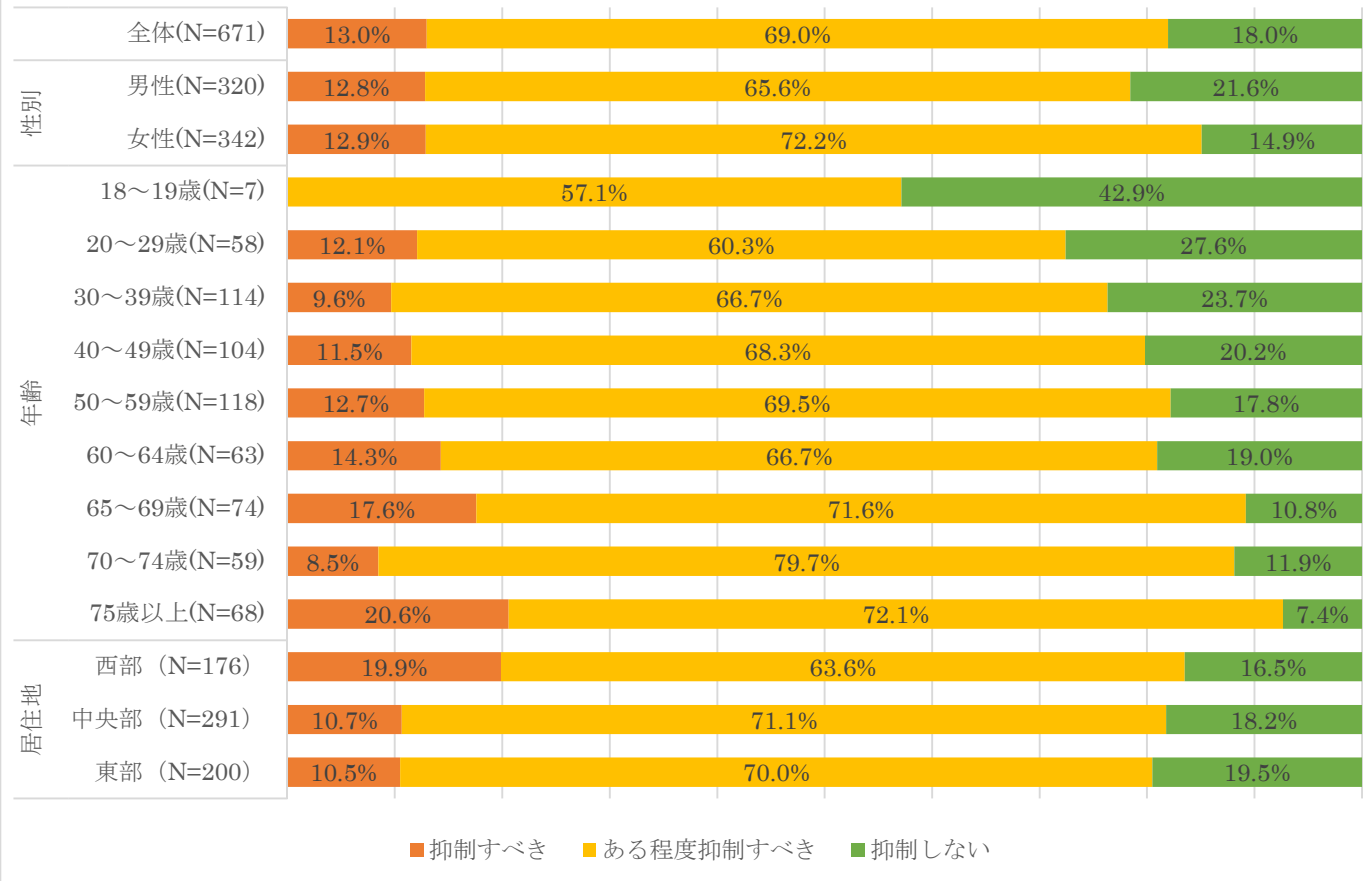
。



アフターコロナの人の集まり



アフターコロナの人の動き



エ アフターコロナのイベント

アフターコロナでのイベント等の開催について、「感染予防を徹底したうえで、規模などを抑制して開催したほうがいい」が61.9%で最も高く、次いで「感染予防を徹底したうえで、コロナ禍以前のように開催したほうがいい」(27.9%)、「感染予防に関係なく、以前のように開催したほうがいい」(3.0%)となっており、全体の約9割がイベント等の開催を希望しているといえる。

